

高等学校国語総合

現代文編・古典編「改訂版」

精選国語総合

「改訂版」

明解国語総合

「改訂版」

指導書・教材ダイジェスト

目次

高等学校国語総合 現代文編・古典編「改訂版」	
指導資料	2
付属DVD-ROM収録教材	22
精選国語総合「改訂版」	
指導資料	28
付属DVD-ROM収録教材	46
明解国語総合「改訂版」	
指導資料	52
付属DVD-ROM収録教材	84
教師用教科書	90
デジタルテキスト	96



三省堂

高等学校国語総合

現代文編・古典編 [改訂版]



指導資料 現代文教材	2
指導資料 古典教材	16
付属DVD-ROM収録教材	22

◎学習の目標を、具体的に箇条書きでまとめました。

評論二 「もの」の科学から「こと」の科学へ 228

評論一

「もの」「こと」の科学へ……◆池田清彦

教材のねらい

●学習目標

- ・筆者の問題意識を把握し、その論理の展開を理解する。
- ・筆者が自らの論証のために用意した事例の意図や意味を考える。
- ・筆者の論証を整理し、要約する。
- ・筆者の意見に基づいて、他の社会的現象へ敷衍する。

●学習指導のポイント

二十一世紀も十五年が過ぎようとする現在、あらゆる物事に対する思考の枠組みそのものの変革が求められている。本教材において筆者は、そのような時代状況の変化を背景として、科学の世界における基本的な考え方の変化（パラダイム・シフト）を踏まえながら、社会全体の「頭の切り替え」の必要性を訴えている。

二十世紀、物理学の世界は目覚ましい発展を遂げた。ニュートン力学では説明できない物理現象を説明するために、量子力学や相対性理論が生まれたのである。化学同様、古典物理学から現代物理学へのパラダイム・シフトは、二十世紀から二十一世紀への過渡的状況の中に生きる私たちの、身近な認識レベルにおける意識変化の必要性とアナロジーを成している。表題になっている、「もの」の科学から「こと」の科学へ、という言葉は、そのような文脈において理解されなければならない。

また、筆者が組み立てる論理構成にも注目しておきたい。論証の形

式には普遍性がある。読み手に身近な話題を具体的な事例として提示し、その背後にある思想を筆者の解釈として取り出していく本教材の論理構成は、評論読解に必要となる論証の基本型を学ぶことのみならず、生徒が自身の手で論証を組み立てる際の参考となるはずである。論証の妥当性は、事例の選び方とその組み合わせにかかっている。何を選び、どう組み合わせるのかという、書くための発想を鍛える観点についても留意して学習させたい。

最後に、本教材において筆者は、科学者としての立場から述べた自分の考えが、実は社会全体へと敷衍可能なものである可能性について指摘している。だとすれば、筆者が論証の根拠として取り上げた事例以外にも「頭の切り替え」が求められる事象は数多く存在するはずである。この主張は、読み手である生徒を取り巻く日常世界の問題へと引きつけて考えることもできるだろう。

◎学習目標を達成するための具体的な手だてや注意するポイントを示しました。

学習指導の展開と評価

◎学習指導案例(配当時間三時間の場合)

時間	目標	学習活動と指導内容	指導上の留意点
第1時限	① 本教材についての導入を行う ② 第一段(初め～121・7)を読み、「もの」と「こと」の違いについての筆者の見解を理解する	導入 1 生徒の生きる「二十一世紀」のイメージについて確認する。 2 全文を通読する。 1 第一段の要旨をまとめる。(学習の手引き①) 2 「もの」と「こと」の違いについての筆者の見解を理解する。	1 自由話し合いをさせてもよい。「二十一世紀」についての捉え方が筆者の意見と同じである必要はない。 2 難しい語句や読み方のわからない漢字を確認させる。 1 表の形で整理させる。 2 「コップの水」と「蛹」の例を踏まえ、「もの」の科学と「こと」の科学の考え方の違いを文脈に沿って理解させる。
第2時限	① 第二段(121・8～122・5)を読み、「こと」の科学の発想が、全ての社会現象にあてはまることを理解する	展開2 1 第二段を黙読する。 2 第二段の要旨をまとめる。(学習の手引き②) 3 「こと」の科学の発想は、すべての社会現象に当てはまることを理解する。	2 本文の記述を踏まえ、「もの」の科学と「こと」の科学の考え方の違いによって、具体的な病気の治療方法が異なることを理解させる。 3 全ての「こと」は複雑系であることを理解させる。

◎時間・目標・学習内容と指導内容・指導上の留意点を、指導の実際に即して表組みで示しました。

◎「指導上の留意点」は「学習活動と指導内容」の内容へ一致するように同じ番号で示しました。

229 教科書 [p.120～p.125]

第3時限	
<p>① 筆者が主張を展開するために採用している論理構成を理解する</p>	<p>展開3</p> <p>1 第三段を黙読する。</p> <p>2 第三段の要旨をまとめる。（学習の手引き122）</p> <p>3 「こと」の科学の発想は、多くの社会象に当てはまることを理解する。</p> <p>4 筆者が主張を展開するために採用している論理構成を理解する。（学習の手引き121）</p>
<p>② 第三段（122・6）（終わり）を読み、「頭の切り替え」が必要な社会象について考える</p>	<p>2 本文の記述を踏まえ、「もの」の科学」と「こと」の科学」の考え方の違いによって、生物多様性の保全への対処が異なることを理解させる。</p> <p>3 「もの」の科学」の考え方が、手段の自己目的化に陥ることを理解させる。</p> <p>4 「病気の治療」RDBの利用の仕方」の事例を踏まえながら、「もの」から「こと」への考え方の変更を促す展開を理解させる。</p>
<p>まとめ</p> <p>1 「頭の切り替え」が必要な社会象について考える。</p>	<p>1 本文を踏まえ、身近な社会象について敷衍させる。</p>

教材の研究

◎筆者（作者）の肩書き・業績・作風・著作などについて解説しました。

●筆者
池田清彦（いけだきよひこ）
一九四七（昭和二二）年。東京生まれ。生物学者・評論家。東京都立大学大学院理学研究科博士課程単位取得満期退学（生物学）。理学博士。山梨大学教育人間科学部教授を経て、早稲田大学国際教養学部教授。構造主義生物学の地平から、多分野にわたって評論活動を行っ

ている。構造主義生物学は、生物における種の変異（進化）が、遺伝子の変化から徐々に起こるのではなく、遺伝子を一要素とする部品間の構造（システム）の変化によって一気に起こると考える点に特徴がある。
主な著書
・『構造主義生物学とは何か 多元主義による世界解読の試み』（一九八八年・海鳴社）
・『構造主義と進化論』（一九八九年・海鳴社）

◎教科書採録本文の出典を示しました。書名・発行年・出版社に加え、必要に応じて解説を加えました。

・『分類という思想』（一九九二年・新潮選書）
・『科学は錯覚である』（一九九三年・宝島社）
・『やぶにらみ科学論』（二〇〇三年・ちくま新書）
・『環境問題のウソ』（二〇〇六年・ちくまプリマー新書）
・『がんばらない生き方』（二〇〇九年・中経出版）
・『進化論』を書き換える（二〇一一年・新潮社）
著者は「進化論はすでに書き換えられつつある」とした上で、進化の主因を「様々なレベルでの形態形成システムの変更」と言う。これまでの進化論は「小進化」の説明原理としてはよくできているが、単細胞生物から多細胞生物へ、無脊椎動物から脊椎動物、魚類から四足動物へという、「種」の発生をともなうような「大進化」を説明することができない。形態形成にとって最も重要なことは、遺伝子自体の変異というよりも、遺伝子たちが発生プロセスの中でどのような役割を果たすのか、にある。著者によれば、進化は漸進的に起こるものではない。なぜなら自然選択は、進化の原因ではなく結果だからである。

●出典

『ゼフィロスの卵』（二〇〇七年・東京書籍）
本書は、一九九八年（二〇〇七年）にかけて書かれた著者のエッセイをまとめたもの。タイトルの「ゼフィロス」とは、シジミチヨウ科の中のミドリシジミなどの一群を指す。ギリシャ神話の西風の精ゼフィロス（「そよ風の精」の意）が語源と言われている。
〔本文との異同〕
二十世紀の後年から二十世紀の終わり頃から

●要旨

〔二〇〇字〕
対象を、固定化した「もの」としてではなく、個別性と多様性に富んだ、流動的な「こと」として扱うことが必要である。二十世紀においては、科学のみならず、あらゆる社会象において発想の転換が求められている。（二〇〇字）

〔二〇〇字〕
二十一世紀においては、これまで厳密性と普遍性を追求してきた科学も、個別性と多様性に目を向けなければならなくなってきた。対象を固定化した「もの」としてではなく、個別性と多様性に富んだ、流動的な「こと」として扱う必要がある。硬直した姿勢で問題に向き合うことなく、試行錯誤と修正を繰り返しながら、最善と思われる方策を探り当てていくべきであり、このような発想の転換は、科学のみならず、社会全体にも必要なのだ。（二〇〇字）

※「もの」にもとづいた考え方から、「こと」を前提とした考え方への変化がわかるようにまとめる。「○○ではなく、○○が必要である」という基本文を使って整理するとよい。

◎字数制限を付加して、要旨（大意）を掲載しました。字数制限は、二〇〇字・二〇〇字を原則としました。

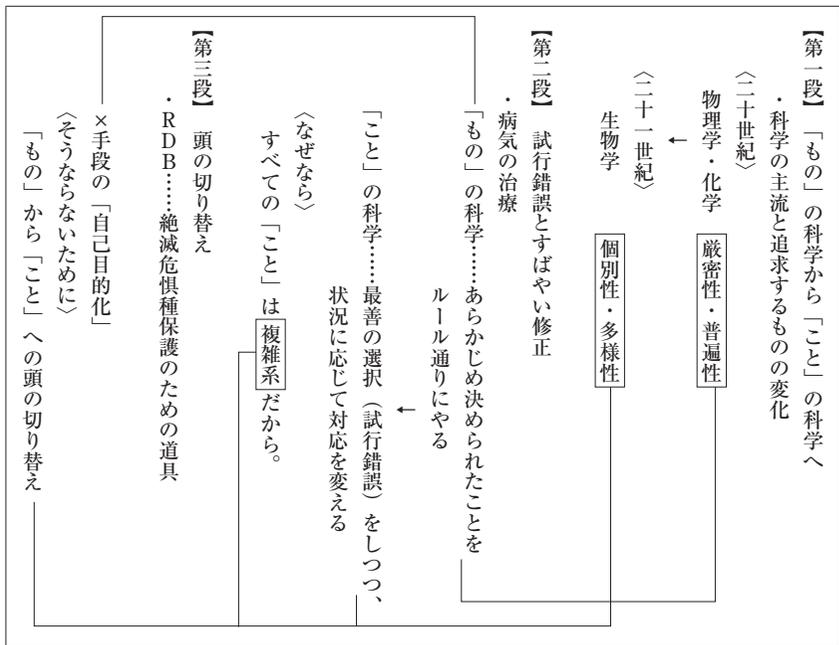
◎教材文全体を意味上の段落に分けて表組みで示し、段落ごとに要旨(大意)をまとめ、小見出しをつけました。

●全体の構成

段落	ページ・行	要旨
第一段	初め～121・7… 要求される。	「もの」の科学から「こと」の科学へ 二十世紀の終わり頃に、科学の主流は物理学や化学から生物学へと移行した。これは、厳密性と普遍性を追求する「もの」の科学から個別性と多様性に目を向ける「こと」の科学へと変化したことを意味する。
第二段	121・8 「例えば、 病気の…」～122・ 5 「…多くない ようだ。」	試行錯誤と修正主義 病気の治療においては、同じ病名だからといって同じ対処法が有効であるとは限らない。だから、最善の方法をつねに模索しながら状況に応じて対応を変えなければならない。
第三段	122・6 「例えば、 生物の多様性の …」～終わり	頭の切り替えの必要性 RDBは、絶滅危惧種保護のための道具にすぎない。だから、種を保護するための最善の方法をつねに模索しながら状況に応じて対応を変えなければならない。「もの」から「こと」への頭の切り替えは、科学全体ばかりでなく社会全体にもぜひ必要なのだ。

【参考】
ここでは、「事例→一般化」という観点で三段落に整理した。
「例えば、病気の治療について考えてみよう。」→「このことは何も医療だけに限らない。」(第二段)
「例えば、生物多様性の保全について考えてみよう。」→「そして、このことはおそらく他の多くの社会事象にもあてはまるのではないだろうか。」(第三段)

◎教材全体を概観できるよう、内容を図式化したものを示しました。



●表現の特色
本教材の表現上の特色は、一文の長さが短く、その中で主語と述語が重複することも少ない点にある(単文構造)。そして、構造の単純な短い文が、接続詞、あるいは接続のための語句によって次の文へとつながっている。
冒頭の三行は四つの文で構成されており、それぞれが「もちろん」「しかし」「ごく乱暴にいえば」という語で接続されている。試みに、この四つの文を一文にしてみれば次のようになるだろう。
二十世紀は科学の時代であったし、もちろん二十世紀も科学の時代になるにちがいないが、その中身は、ごく乱暴にいえば、「もの」の科学から「こと」の科学へと大きく変容するはずだ。
四文で構成された文章を一文で書くと、表現される内容自体に変わりはないが、一文が長くなることで冗長になる。また、「時代であった」「時代になる」「変容するはずだ」と、述語に相当する部分が三か所も出てきてしまうので、文章を読み取る難易度は上がる。本教材がもたらす印象としての文章の読みやすさは、短文(単文)がそれぞれ接続詞でつながっている点に起因している。これは、生徒自身が文章を作成する際にも参考となるだろう。
また、「制御可能性」「普遍性」「多様性」など、「性」という言葉が散見されるが、「性」は「〜であること」と読み換えることができる。先ほどの例で言えば「制御(が)可能であること」「普遍であること」「多様であること」と言い換えることができる。「制御可能性」など、漢語が連なった字面のイメージは難解な印象を与えるかもしれないが、解きほぐしてみれば既知の言葉と大きく異なった語義を持つわけではないことがわかるだろう。

◎教材文や筆者(作者)の特徴的な表現について、具体例を挙げながら解説しました。

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎教科書の「語句」欄の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

語句・文脈の解説

120ページ

L1 科学の時代 ここという「科学の時代」とは、科学が人類を変えた世紀だった、ということだろう。確かに二十世紀における人類の科学の発展にはめざましいものがあった。飛行機・潜水艦・宇宙ロケットなどの開発は、人類の行動可能な範囲を空・深海・宇宙へと拡大し、加えて、北極点・南極点への到達などにより、地球上での人類未踏の地はほぼなくなったのである。ちなみに、米国タイム誌が選んだ二十世紀を代表する顔の中には、フェルミ、シュロクレーといった物理学者と並んで、プラスチックの父と呼ばれる化学者、ベークランドが入っている。街中に明かりが灯り、自動車が行き、飛行機が飛ぶという日常の風景は、そのほとんどが二十世紀の産物であることを確認しておくことよ。

L4 物理学 physics 物理学(フィジックス)は、かつて究理学と訳されていたことからも推察されるように、物理現象(物)の理(ことわり)を究めようとする学問である。これに対して、世界の根本的な成り立ちの理由や、物や人間の存在の理由や意味など、見たり確かめたりできないものについて考える学問としての哲学は、メタフィジックス (meta-physics、形而上学)と呼ばれる。

L5 制御可能性と予測可能性 ここという制御可能性とは、人間が対象を操作しつづつ支配(コントロール)すること。予測可能性とは、対象が置かれている条件や対象自体の個性に左右されることなく、手を加えればつねに同じ結果が導かれるということ。

L4 化学 chemistry 化学は、物質を構成している原子や分子に注目し、その生成と分解の反応、および他の物質との間に起こす反応を研究する学問である。その「反応」を利用した、毒ガスなどの化学兵器も、二十世紀が生み出した負の成果の一つであった。

L5 生物学 biology 生物または生命現象を対象に研究する学問である生物学は、一九五三年、ワトソンとクリックによるDNAの二重らせん構造の提案によって大きく発展することになる。全ての生物の遺伝情報は、DNAの塩基配列によって定まっていることがわかったのである。遺伝情報(ゲノム)の解析は様々な分野で行われており、一九九〇年に始まったゲノムプロジェクトでは、二〇〇〇年の段階でヒトゲノムのほとんどが解読されるに至った。今後、ゲノムデータに基づいた医療分野などへの応用が期待されている。

L8 不変 変わらないこと。次ページ5行目にある「普遍」との意味の違いを確認しておきたい(→発問)。
・不変⇒変わらないこと。また、変わらないさま。対義語は可変。
・普遍⇒①広く行き渡ること。②すべてのものにあてはまること。すべてのものに共通していること。対義語は特殊。「普」も「遍」も「あまね(く)」と読み、すみずみまで広く行きわたる、の意。

は、同様に対象の変化を予想しつづつ支配すること。どちらも、物事を人為的に操作し、計画や想定範囲内に収めようとする発想だと言いうことができる。私たちが何気なく目にする「明日の天気予報」も、「明日」を「今日」の延長線上で予想しつづつ支配しようとする限りにおいて、「もの」の科学の発想にもとづいた結果だということになる。また、マニユール(手引き)に基づいて行動するというのも、

脚問

【もの】の科学から【こと】の科学へ

「もの」の科学から「こと」の科学への変化は、ちょうど古典物理学から現代物理学へのパラダイム・シフトとアナロジーを成している。アルベルト・アインシュタインが特殊相対性理論を発表したのは一九〇五年のことで、一般相対性理論は一九一五年にまとめられる。この後、それまでの物理学の常識は「古典物理学」の名前で呼ばれるようになっていくのである。もちろん、現代物理学が登場したからといって、すべての物理現象が解明されたわけではない。私たちの宇宙はまだ謎に満ちていて、不可思議なことに取り囲まれている。

脚問・発問

120ページ

脚問 「二十世紀」「二十一世紀」(1行)はそれぞれどのような科学の時代か。
脚問 二十世紀は「もの」の科学の時代であり、二十一世紀は「こと」の科学の時代である。
脚問 「二十世紀」「二十一世紀」それぞれの科学における「主流」(4行)の学問は何か。
脚問 二十世紀の科学は物理学と化学であったが、二十一世紀は生物学である。

脚問 「もの」の科学」(2行・5行)の特徴は何か。
脚問 制御可能性と予測可能性を追求すること。
脚問 「初期条件さえ同じならば、結果も基本的に同じになる」(6行)とはどういうことか。

脚問 対象が置かれている条件や対象自体の個性に左右されることなく、手を加えればつねに同じ結果が導かれるということ。
脚問 「不変」(8行)と「普遍」(12・5行)と意味の違いは何か。
脚問 「不変」は、変わらない・こと(さま)。対義語は可変。一方「普遍」は、①広く行き渡ること。②すべてのものにあてはまること。

脚問 「コップの中の水」(1行)と「蝶の蛹」(2行)は何の比喩か。またそれぞれの特徴は何か。
脚問 「コップの中の水」=「もの」、「蝶の蛹」=「こと」という比喩。前者の特徴は不変性であり、後者の特徴は可変性である。

脚問 「こと」を扱う科学」(3行)における「やり方」(4行)の特徴は何か。
脚問 個別性と多様性に目を向けること。
脚問 二十世紀と二十一世紀の「科学」の違いを表の形で整理せよ。
脚問 「学習の手引き」参照。
脚問 「Aという疾患には最善の治療法Bがあるはずだ」(8行)という考えが「もの」の科学の考え」(9行)だと言われるのはなぜか。

脚問 同じ病名であっても病状は個々人の置かれている状況によって異なるのに、同じ薬を投与すれば治るとするのは、硬直した考え方だから。
脚問 「前ページに「初期条件さえ同じな

◎内容理解の参考となる興味深いコラムを適宜掲載しました。

◎各教材末にある「学習の手引き」に対する解答例と詳しい解説を示しました。

学習の手引き・言葉と表現・漢字

▼学習の手引き

一 二十世紀と二十一世紀の科学の違いを、次の観点に沿って表の形で整理してみよう。

		主流となる学問	扱う対象	追求するもの	状況への対応の仕方
二十世紀	物理学・化学	「もの」	厳密性と普遍性	あらかじめ決めたことをルール通りにやる	
二十一世紀	生物学	「こと」	個別性と多様性	選択しつつも状況に応じて対応を変える	

【解答例】

① 病気の治療 ② RDBの利用の仕方

【解答例】

① 病気の治療

・「もの」の科学の場合

特定の疾患に対する最善の治療法があらかじめ特定されているので、あらかじめ決めた方法に従ってルール通りに治療を行う。

・「こと」の科学の場合

特定の疾患に対する具体的な治療法が最善であるのかどうかは不確定なので、患者の病歴や病状の推移を踏まえ、治療の効果を確認しながら治療を行う。

② RDBの利用の仕方

・「もの」の科学の場合

特定の昆虫がRDBに載っていたら、その昆虫を全面採集禁止にすることで生息数と生息環境の保全を目指す。

・「こと」の科学の場合

生息数を維持するための要因をすべて特定することはできないので、地域を限定した採集禁止や人工飼育、アマチュア愛好家のデータの活用などさまざまな方法を試しながら生息数と生息環境の保全を目指す。

【解説】

「もの」の科学から「こと」の科学へ、という表題は、二十世紀から二十一世紀へという時代の変化に対応するとともに、科学の基本的な考え方の地殻変動(パラダイム・シフト)に呼応している。それぞれのキーワードを整理することで、筆者が言わんとする「こと」の科学の内実が明らかとなるだろう。「こと」の科学においては「試行錯誤とすばやい修正」(122・4)が必要であると言われていることを踏まえると、「こと」の科学と「もの」の科学の基本的考え方を、たった一つの正解を求めようとする態度(正解主義)と、常に最適解を模索しようとする態度(修正主義)としてまとめることができ

◎教材文に出てくる漢字や語句を中心にした練習問題を複数掲載しました。

▼漢字

一次の漢字を使った熟語を例にならべてあげよう。

- ① 蒸発 ② 多様 ③ 絶滅

【解答例】

① 開発・揮発・偶発・啓発・激発・再発・自発・出発・挑発・摘発・突発・爆発・奮発・乱発・利発

② 異様・同様・文様・模様・両様

③ 絶縁・絶佳・絶海・絶叫・絶句・絶交・絶好・絶賛・絶息・絶対・絶品・絶妙・絶壁・絶望・絶命

二次の漢字を使った熟語をあげよう。

- ① 求・究・及
- ② 殖・植・値・置
- ③ 採・采

【解答例】

① 希求・請求・探求・探求・追求・要求・欲求・求愛・求心・求道
 究学究・研究・考究・追究・論究・究極・究明・究理
 及企及・言及・追及・波及・普及・論及・及第

② 殖殖財・殖産・学殖・生殖・増殖・拓殖・繁殖・養殖・利殖
 植移植・誤植・定植・入植・植字・植樹・植民・植林
 値卸値・価値・数值・近似値・値段・値札
 置安置・位置・拘置・処置・設置・措置・配置・放置

三次の熟語の対義語を調べよう。

- ① 特殊 ② 一様 ③ 単純・簡単 ④ 消極的
- ① 普遍 ② 多様 ③ 複雑 ④ 積極的

【解答例】

制御 (120・5)	蒸発 (121・1)	厳密 (121・5)
普遍 (121・5)	疾患 (121・8)	硬直 (121・11)
柔軟 (121・12)	考慮 (121・15)	試行錯誤 (122・4)
危惧 (122・7)	山梨 (122・8)	飼育 (122・15)
増殖 (122・16)	密猟 (124・2)	

【教科書ページ・行】

◎教材文や出典、筆者（作者）について詳しく解説しました。

評論二 「もの」の科学から「こと」の科学へ 246

研究・発展

◎作品解説

『環境問題のウン』のあとがきで著者はこう述べている。私が若い人たちに言いたいのは、世間で流通している正義の物語りを信じるのは、墓に入ってからでも遅くはないことだ。「正義」というのはあなたの頭を破壊する麻薬である。麻薬中毒になる前に、たとえごくわずかでもよい、抵抗せよ。（『環境問題のウン』あとがき）

本教材の中で筆者が批判するのは、「もの」の科学」という固定化した思考の方法である。権威や経験、制度や雰囲気吞まれて安易に下してしまう判断の危険性に対して、警鐘を鳴らしていると言っている。例えば、本教材のヤンバルテナゴコガネのように、種を保存するために保護される生き物がある一方、在来種を保護するという目的のもと、駆除される生物もいる。ブラックバスがその好例である。アメリカ産のブラックバスは、一九二〇年代以降、食用や釣り対象魚として各地の湖に放流されたのが移入の始まりと言われているが、その後多数の地域で見かけられるようになり、一九九九年、新潟県は釣り上げた外来魚（オオクチバス、コクチバス、ブルーギルなど）のリリース（再放流）の禁止に踏み切った。これにより、違反者は一年以内の懲役もしくは五十万円以下の罰金に処されることとなったのである。結果、二〇〇〇年以降、全国の漁業調整規則で外来魚の密放流禁止が進んでいる。著者は言う。

ブラックバスが日本に移入されて以来八〇年が経つが、ブラックバスにより滅ぼされた日本の在来種は一種もない。もちろん、人間に健康被害を与えているわけでもない。それどころか、ブラッ

ではない。自然環境の人為的改変によって増加した外来種と減少した在来種とがいる場合、その責を負わねばならないのはあくまで人間の側であって、ブラックバスのような特定の生物ではないだろうと言うのである。自分たちが勝手に環境を変化させた上に、数が増えたら特定の生物を間引こうとする発想は、規制に振り回された結果自分の首を絞めてしまっていることに気づくことのできない、悪循環の思考、「もの」の科学」の帰結なのである。

◎参考資料1

「フロンガス」や「環境ホルモン」の脅威を、声高に叫ぶ人はいなくなつた。今、私たちを取り囲むらしき「脅威」の一つ一つが、実は「流行」の亜種である可能性は否定できない。

環境問題には「流行」がある

一九五〇年代から一九六〇年代にかけてのもうひとつの大きな問題は、大気汚染に代表されるいわゆる公害問題であった。しかし公害問題は技術の進歩によってあらかじめ克服されてしまつて、今は空気も水もずいぶんきれいになった。その後で出てきたのが、ゴミをどう処理するかという問題であった。

一九六〇年代までは、ゴミはそれほど大きな問題ではなかつたと思う。家電製品の数は今ほど多くはなかつたし、使いはじめで、捨てられる数も少なかつたから、それらはまだ厄介なゴミにはならなかつた。ほとんどつかないようなテレビまでもが中古の商品として売られていたぐらひだったのである。ところが、三〇年ぐらい前から、ゴミの問題は次第に大きくなってきた。

家電に関連して言うと、一時、盛んに騒がれた話としてフロン

247 教科書 [p.120~p.125]

クバスは釣り業界にかなりの経済効果をもたらしている。ブラックバスを特定外来種に指定して駆除の対象とすることで、釣り業界に与える経済的打撃と駆除に費やす税金というダブル・デメリットの見返りの大義名分は、日本の生態系を守るためだという。

CO₂の排出を抑制しないと世界はそのうち大変なことになる。焼却炉からのダイオキシンの排出を規制しないと国民の健康は守れない。外来種を駆除しなければ日本の生態系は守れない。すべて同じパターンのウン話である。（前掲書90〜91ページ）

ルールが制度化すれば、その結果、受け取り手としての私たちはその制度を絶対だと思つてしまふ。そこにあるのは、安易な善悪の二項対立であつて、ルールが設定される際に求められたはずの目的の妥当性や、制度化が常態となつた場合に引き起こされるさまざまな問題群などが看過されてしまふ。ブラックバスだけが「悪玉」だとは限らないのである。「同じパターンのウン話」とは、本教材における、現象を固定化した「もの」と考える悪しき思考の典型（122・11）と呼応しているのが見て取れる。

外来生物が生態系に影響を与えたとしたらただひとつ、生態系の種類組成を変化させることだ。しかし、系すなわちシステムは要素が変化するからこそシステムなのであつて、生物相すなわち種類組成やその割合が変化しない生態系などはない。（中略）長いタイムスケールで見れば、外来の生物が侵入するのはむしろ常態であつて、固有生物相を死守しようというのは、コトバの真の意味でのアナクロニズムである。（同前92ページ）

生態系は、流動性・可変性を含んだ「こと」である。固定化した静態ではありえない。もちろん筆者は、流動体としての生態系を肯定する一方で、人為的な介入を含めた環境の激変自体を肯定しているわけ

においてフロンガスは最大の悪玉のように言われていたものだが、いつの間にか、あまり誰も言わなくなつた。

実は、最近では、フロンガスがオゾン層を破壊する主たる原因なのか、どうも怪しくなつてきたのである。どうやら、南極の温度が下がるとその上空のオゾンが破壊されるという説が近年、有力になつてきたらしい。つまり、オゾンホールが増大は、太陽活動に関連した南極の気温の低下が主因だつたのではないか、ということなのである。

また、一時「環境ホルモン」が野生動物のメス化を促進するとして大きな問題になつていたが、これも最近ではどうやらガセネタらしいということが判り、言及されなくなつた。

このことからわかるように、環境問題にはある種の「流行」のようなものがある。その時どきの、いちばん、ウケる。話題が一気に出てきて、それだけが最大で唯一の環境問題になつてしまふ。逆に言えば、あとのことは別にたいした問題ではないというような感じにさえなりがちである。

現在でいえば地球温暖化を招く温室効果ガスの二酸化炭素（CO₂）の排出量をどう削減するかということが環境問題における最大のテーマのようになつてきているけれども、あと二〇年もしたら、CO₂の問題もあまりたいした問題ではなくなるのかもしれない。CO₂の代わりに別の「問題」が大きく取り上げられるようになるのではないかと気がしてならない。とにかくいまは、CO₂による地球温暖化が環境問題における最大の「流行」になつているのだ。

『新しい環境問題の教科書』池田清彦（二〇一〇年・新潮文庫）

◎参考資料2

「もの」の科学から「こと」の科学へ、という発想が、実体論から

◎教材と関係の深い、指導に役立つ資料を複数掲載しました。

◎付属の「補充教材集」「実力問題集」にも掲載されている文章は、それぞれ補・実と記しました。

課題

一 ☆筆者が考える「労働の本質」とはどのようなものか。まとめてみよう。

【解答例】

労働の本質は個人の努力が集団の利益に「かたちを変える」ことのうちに存在している。その労働は、個人の努力が個人に専一的に還元されることを求めず、逆にできるだけ多くの他者に利益として分配されることを求めるような「特異なメンタリテイ」によって動機づけられている。それが必要なのは私たちが生き延びるためである。

【解説】

筆者の主張を読み取る。「だが、労働の本質は、そのせいであろう。(134上・17～134下・6)の段落に示されているのはいうまでもない。さらに、最後の段落「もうおわかりだろうが、高いとは思わない」(135下・3～8)の段落で、その「特異なメンタリテイ」が必要なのは「生き延びるためである」といつていることにも注目してほしい。

二 ☆若者と労働についてどのようなことが話題になっているか、調べて発表してみよう。

【解説】

正社員なみにフルタイムで働いても生活の維持が困難な「ワーキングプア」、派遣をめぐる「擬装派遣」や「労働者派遣法」、賃金格差の拡大に伴う「格差社会」「貧困」、経済不況に伴う「リストラ」、労働環

境の国際化による「グローバル化」「外国人労働者」などさまざまな問題があげられる。新聞やインターネットなどを適宜活用して調べさせるとよい。

現在の日本社会は雇用や労働環境が悪化している。その原因の一つは正社員を非正規雇用者に切り替える動きである。非正規雇用者は賃金が安く抑えられる上に、企業はいつでも解雇することができるのである。賃金が安いということは、貧困、ワーキングプア、格差社会を生む原因である。雇用が不安定であるということは、働く意義を見出しにくい上に、低賃金と同様貧困を生む原因でもある。

一方、正規雇用の労働環境も悪化している。リストラによる人員削減で労働量が増え過労死や生活環境の悪化を生む。うつ病になったり自殺を選んだりすることもある。多忙であるがゆえに家庭を持たなければ、少子化にもつながっていく。

その他にも、男女で差別なく働くことができているか、外国人労働者を受け入れるべきか、終身雇用制は望ましくない制度なのか、などさまざまな観点から労働について考えることができる。労働問題に関する書籍は豊富にあるし、新聞や雑誌等でもとりあげられている。図書館やインターネットなども有効に利用し、知識を深めてほしい。

三 ☆「労働」についてのあなたの考えを、八〇〇字程度でまとめてみよう。

【課題の解説】

本文をふまえて書くという条件ではないので、課題文の理解を直接問われているわけではない。労働に関する知識や自分の体験があれば、それをもとに自分の意見をまとめればよい。課題二で調べた

◎「〈いま〉を読む」については、評論教材と同様の内容に加えて、教科書で設定された課題について、複数の解答例と解説、評価例を載せています。

ことを参考にしてもよいだろう。もちろん課題文の筆者の体験をふまえて意見を展開することも可能である。

【生徒解答例①】

私は筆者と同じく、多くの他者に利益として分配されることを求めるような「特異なメンタリテイ」こそが労働のあるべき姿であると考えている。また、どんな理不尽な条件でも耐えぬくメンタリテイが労働者には必要だ。

最近はやりがいのある仕事を求めて離職・転職する若者が多いが、それはただの甘えだと思ふ。物が溢れた時代に生まれ、我慢することを知らない今の若者は一度壁にぶつかるとすぐに安易な方向へと逃げてしまう。やりがいのある仕事を求めるとすぐに理由で嫌なことから逃げていくだけなのだ。

どんなにがんばっても出世できないなど社会にであれば理不尽なことはいくらでもある。しかし、自分ではがんばっていても、その努力が他者に認められなくては意味がなく、だからこそ私は理不尽をすべて飲み込む必要があると考えている。そうすることが他者に評価され成功する一番の近道なのだ。

若いうちの労働は買ってでもしろとよく言うが、いまの若者のようなリセット世代にはこれが通用しない。今が良ければよい、失敗すればまたゲームのようにリセットボタンを押せばいい。これがリセット世代の考えだ。彼らは自分の利益を最優先し、自分の努力がすぐに結果に出ることを望み、極力無駄を省こうとする。だから彼らは自分にあわないとすぐ逃げるし、自分への直接的な利益にはならない他者や組織への貢献を嫌うのだろう。元プロ野球選手の野村克也は、いきなり大きなことにチャレンジするよりも、当たり前のようにできる基本的なことをしつかりとやるのが大きなことに

チャレンジする際の鍵になるという。

一見無駄に見える他者や組織への貢献、上司からの理不尽な要望などすべて意味のあることであり、「特異なメンタリテイ」こそが労働のあるべき姿だと私は考えている。(七三四字)

【生徒解答例①の解説】

これは本文をふまえて自分の意見を展開している。基本的には筆者の主張に添うものになっている。しかし、「理不尽なことはいくらでもある」ことに注目していること、自分が考える若者世代の分析、著名人の発言の引用など用いて、オリジナリティを出している。

【生徒解答例①の評価例】

●観点別評価

- ①課題文の理解度 [A]・B・C・D・E
- ②構成の的確さ [A]・B・C・D・E
- ③論証・例示の的確さ [A]・B・C・D・E
- ④結論の明快さ [A]・B・C・D・E
- ⑤語句や表現の的確さ [A]・B・C・D・E

●総合評価 [A]・B・C・D・E

「理不尽なこと」に関する説明にもう少し説得力がほしいが、全体として読みやすく論理的な文章になっている。

【生徒解答例②】

私は夢がある。誰かの幸せをサポートする仕事、ブライダルプロデューサーになることだ。人生で一番幸せな日をプロデューサーの仕事は「やりがいのある仕事」だと思ふ。実際に若者たちの間ではこの職につくことを希望しているものが年々増加している。しかし、いざ見習いとしてデビューした若者の大半は、下積み時代の仕

◎教材全体を概観できるよう、大意を示すとともに、全体の構成を表組みで示し、それぞれの段落に小見出しを立てました。

祇園精舎

●大意

祇園精舎の鐘、娑羅双樹の花の物語が示すように、人の世は無常で、勢い盛んな者も必ず衰え、強く猛々しい者も必ず滅びる。中国や日本の歴史上の先例にも、その道理は表れているが、最近の例では、平清盛一門のおごった心や猛々しい様子は、それらの先例を超えて、想像を絶するほどにひどいありさまであった。

●全体の構成

段落	ページ・行	大意
第一段	初め～58・3「塵に同じ。」	盛者必衰の理 祇園精舎の鐘、娑羅双樹の花の物語が示すように、人の世は無常で、勢い盛んな者も必ず衰え、強く猛々しい者も必ず滅びる。
第二段	58・4「遠く異朝を」～終わり	盛者必衰の先例・清盛の登場 中国や日本の歴史上の先例にも、その道理は表れているが、最近の例では、平清盛一門のおごった心や猛々しい様子は、それらの先例を超えて、想像を絶するほどにひどいありさまであった。

◎教材本文を総ルビで掲載して詳細な品詞分解を示し、一文ごとに番号を振って口語訳と対応させました。(漢文教材では書き下し文と口語訳を掲載しています。)

●品詞分解

色、盛者必衰	の	鐘	の	声	、	諸行無常	の	響き	あり。
格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)
① 祇園精舎	の	鐘	の	声	、	諸行無常	の	響き	あり。
格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)
② 娑羅双樹	の	花	の						
格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)						
③ おごれ	る	人	も	久しから					
格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)					
④ 猛き者	も	つひに							
格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)							
⑤ 減び	ぬ	風	が	吹	け	ば	飛	ん	で
格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)	格助(体修)
⑥ 減んでしまうが、それはまったく風が吹けば飛んでしまうような塵と同じ運命なのである。									

●口語訳

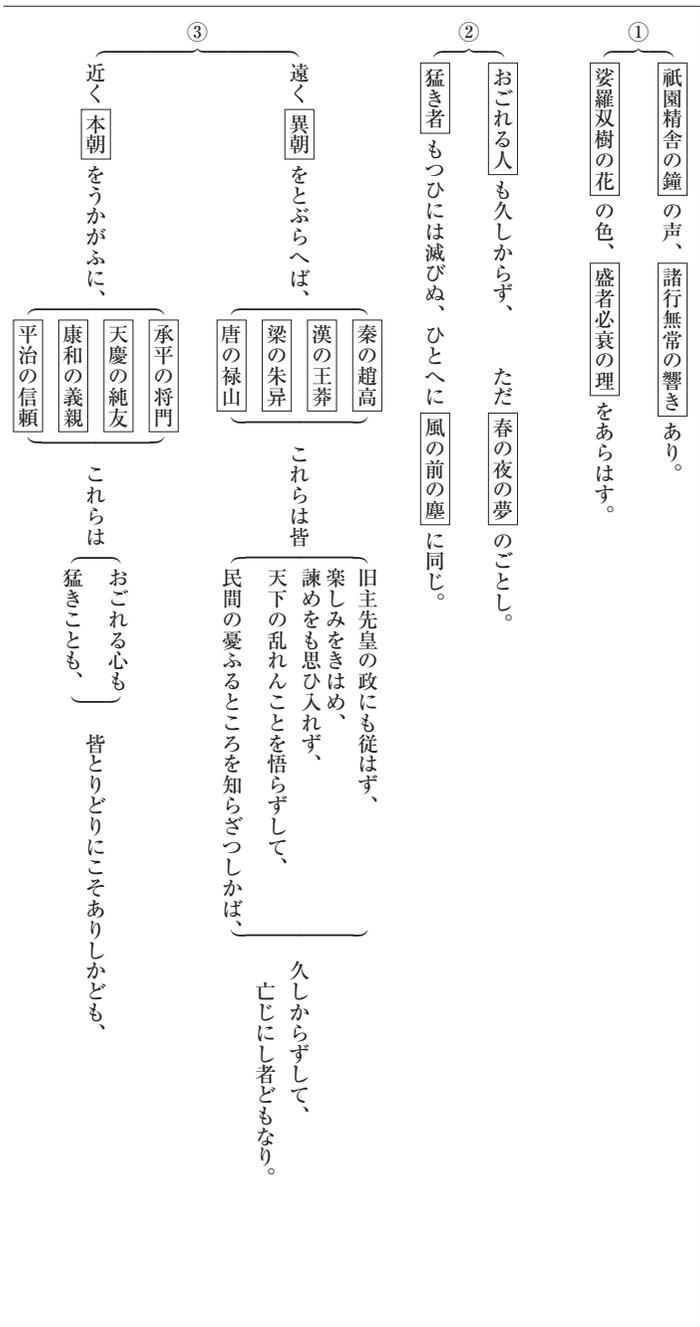
① 祇園精舎の(無常堂の)鐘の音色には、全ての現象は刻々に変化して同じ状態でないという真理を示す響きがある。② (釈迦入滅の時に白く変じたと伝えられる)娑羅双樹の花の色は、勢い盛んな者もいつかは必ず衰えるものだという人の世の道理をよく象徴している。③ 権勢を誇り栄華をおごっている者もその状態はいつまでも続くわけではなく、(はかないことは)まさに春の夜に見るつかのまの夢のようだ。④ 勇ましく猛々しい者も結局は減んでしまうが、それはまったく風が吹けば飛んでしまうような塵と同じ運命なのである。

◎教材全体を概観できるよう、内容を図式化したものを示しました。

軍記 平家物語 18

●展開図

この序章の文章は、非常に均整のとれた対句仕立てになっている。全体は、①④に分かれる。①では、「祇園精舎の鐘」と「娑羅双樹の花」という二つの仏教故事が対句になっている。②では、「おごれる人……」と「猛き者……」が、③では、「遠く異朝……」と「近く本朝……」がそれぞれ対句になり、④の「ま近くは……」という一文で本編の主人公平清盛にたどりつき結ばれるという構造である。



◎教科書の「語句」欄の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

19 教科書 [p.58~p.59]

語句・文脈の解説と脚問・発問

58ページ

L1 祇園精舎 釈迦が説法したというインドの寺。中部インドの舍衛国にあった仏教の霊域。祇園は「祇樹給孤獨園」の略。もとは、舍衛国の皇子祇陀太子所有の庭園「祇陀林樹園」だった。釈迦に帰依した須達長者がこれを買収、仏教の僧院や堂舎を造って寄進した。須達長者はさらに、孤児や身寄りのない老人に衣食を施したため「給孤獨長者」と呼ばれた。この二人の名をとって「祇樹給孤獨園」、略して「祇園」と呼ばれるようになった。「精舎」は精進の堂舎の意で、僧たちが仏道を修行する場をいう。釈迦は、後半生の二十五年間、この祇園精舎で雨期を過ごし、さまざまな説法を行ったという。「阿弥陀経」をはじめ、現存する経典の七、八割がこの精舎で説

かれたという。

L1 鐘の聲 祇園精舎の中の無常堂の鐘の音。祇園精舎は大規模なもので、十二の塔、七十二の講堂、三千六百の坊舎、五百の楼閣が整備されていたという。その中で、無常堂は、瀕死の病僧を収容する御堂で、臨終間近い僧に静かに死を迎えさせる場所であった。白銀で飾られ、四面の廊に白華を置き、壁には死んだ人の肉体が糜爛し白骨化するまでの経緯を写した「白骨非常の相」の絵があった。廊の四つの角に白銀の鐘、室内の四隅に玻璃（水晶）の鐘が置かれていた。病僧がいよいよ臨終という時にこの八つの鐘がおのずと鳴って、耳を澄ますと「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為楽」の四句の偈が聞こえ、聞き惚れているうちに病僧は苦悩を忘れ、清涼

脚問・発問

58ページ

問 「祇園精舎の鐘の聲」(1行)と対句になっている部分を抜き出せ。
答 娑羅双樹の花の色 (58・1)
(解説) どちらも釈迦に関わる故事に由来する言葉。また、これらの言葉に続く、「諸行無常の響きあり」と「盛者必衰の理をあらはす」も対句になっている。
問 「春の夜の夢」(2行)、「風の前の塵」(3行)で共通してたどっていることは何か。
答 頼りなくはないこと。
(解説) どちらも、はかないもののたとえとしてよく用いられる言葉である。
問 「遠く異朝をとぶらへば」(4行)と対句になっている部分を抜き出せ。
答 近く本朝をうかがふに (58・7)

④ ま近くは、前太政大臣 = 六波羅の入道 = 平朝臣清盛公
と申しし人のありさま、伝へ承るこそ、(心も) (ことばも) 及ばれぬ。

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎教科書に掲載されている図版や写真についても解説を加えました。

*語句

理「名」①ものごとの道理。筋道。②判断。裁定。③説明。言い訳。理由。④謝罪。とぶらふ「他八四」①訪問する。訪れる。②捜す。調べる。③見舞う。安否を問う。承る「他三四」①「受く」の謙譲語。お受けする。②「承諾する」の謙譲語。承諾しあげる。③「聞く」の謙譲語。お聞きする。拝聴する。④「見る」の謙譲語。拝見する。

コラム

「祇園精舎」その後

「祇園精舎」は、このあと、桓武平氏の系譜が語られる(「参考」参照)。桓武天皇から書き起こし、清盛は十一代の後胤となる。しかし最後に「殿上の仙籍をは未だ許されず」とする。数々の戦で戦功をあげたとはいえ、平家はまだ殿上に上ることを許されない「地下人」であった。父忠盛が初めて殿上人となり、平家の栄華への第一歩を踏み出す。次の章段「殿上の闇討ち」では、忠盛が殿上人の仲間入りをしたと、それに対して上流貴族たちが激しく反発していやがらせをしたこと、忠盛は賢い人で、そのいじめから深謀遠慮で逃れたことが描かれる。

コラム

平曲としての「祇園精舎」

「平家物語」は琵琶法師の語り(平曲)によって広く流布することになった。平曲は一章段ごとに独立しているため、必ずしも冒頭から順番に聞かせていったわけではなく、リクエストに応じて演じられる場合も多かった。当然、人気のある章段とそうでもない章段には差がある。特に人気があったのは、「木曾最期」「敦盛の最期」「那須守」などである。ところで冒頭の「祇園精舎」であるが、これは琵琶法師にとっても極めて特別な章段で、平曲においては「秘事」の一つとされていた。秘事というのは、平曲伝授の上で特に意味づけの行われた曲である。秘事は、平曲伝授の過程で、まず平物(百八十八句)を習得しなければ、伝授されなかった句である。秘事は全部で十一句(曲)あり、「祇園精舎」はそのうちの一曲であった。

図版解説

「平家物語」の冒頭。(解説) 十二巻、約百九十段の中で、冒頭の章段である。「平家物語」の序章として、作品の主題を表すともいわれている。

図版解説

●平家琵琶(教科書59ページ)

この琵琶の銘は「相応」。琵琶の起源は古代ペルシアであると考えられ、日本では、中国経由で渡来した雅楽用の琵琶(楽琵琶)と、インドから東南アジアを通じて来たと言われる九州の盲僧琵琶に分かれている。平家琵琶は、容姿は楽琵琶に近いが、それよりひと回り小さい。また、楽琵琶が四絃四柱で、柱の位置が固定されているのに対し、平家琵琶は、四絃五柱で、柱の位置は可動式である。「平家物語」は、この平家琵琶を用いた琵琶法師(琵琶を演奏する僧形の盲人)によって語られることで、広く流布することとなった。安徳天皇の墓前で壇の浦合戦を語った盲目の若者、芳一が平家の亡者に両耳を奪われる「耳なし芳一」の話は有名。奥村俊郎蔵(京都市歴史資料館提供)。

◎採録教材の主題や、関連する章段や作品への言及など、教材への理解を深める内容を掲載しました。

鑑賞

「平家物語」は数多くの諸本があり、それら諸本間には同じ作品なのかと首をかしげるほどの大きな異同すら存在する。そのような中であって、この「祇園精舎」の部分はほぼ全ての本が有しており、しかもさほど大きな異同が見られない。この章段が「平家物語」という作品にとってそれほど重要な意味をもっていたということであろう。「諸行無常」「盛者必衰」という観念は「平家物語」全体に通底する概念として、冒頭に置かれなければならないのだ。

当該章段では、この「諸行無常」「盛者必衰」の観念を表現するべく、「祇園精舎の鐘の声」「娑羅双樹の花の色」という仏教故事から説き起こす。そしてこの観念のもとに、身を滅ぼしていった歴史上の人物たちの例をあげていく。有名な人物たちの名が実例としてあがることで、読者や聴衆は、その因果関係をなるほどと実感できたことであろう。

そして物語は、そういった人物たちの極めつけとして平清盛を取りあげ、その出自より語り始める。しかし、「平家物語」が清盛の滅びゆくさまを描くことを目的としていたかという点、そうではない。そもそも清盛は物語の中盤で病死という理由で退場してしまい、実際衰頹の憂き目に遭うのは、彼の兄弟、子や孫なのである。それならば、そんな平家一門の姿に焦点を絞って物語を展開させているかという点、たしかにそれが柱の一つになっていることは否定できないが、決してそれが全てというわけではない。「平家物語」はさまざまなところに視線を向ける。平家と敵対する源氏はもちろん、記録類であればその詳細が書きとめられることはなかったであろう人々にもスポットをあて、彼ら個々人の生きざま、死にざまを描いていくのだ。それは群像劇というにふさわしい。

「平家物語」が作られてゆく時期、それは、まだ源平の合戦の記憶が生々しく残っている時期であった。合戦は当事者だけではなく、無関係な民まで巻き込んでいく。さまざまな立場、階層の人物たちがそれぞれの立場で経験した源平合戦を語り、そしてそれが、子や孫に受け継がれていく。そういったさまざまな伝承を集約していく形で「平家物語」はできあがっていくのだ。特定の人物を主人公として英雄物語を作りあげるのではなく、記録類では残しきれない、個々人の生き証を記録していくことを通して、源平合戦時代に翻弄された全ての人々に対する鎮魂の思いを表現しようとしたテクスト、それが「平家物語」なのである。

参考

「祇園精舎」の後半部分を掲載する。物語の発端を登場人物の出自から説き起こすのは、物語の常套的スタイルで、軍記物語の場合は特にこの傾向が強い。この系譜からは、清盛が天皇の皇胤だったなど、彼の貴種性が表れている。清盛が「心もことばも及ばれ」ぬ人であったのも頷けるといえるだろう。

その先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原親王、九代の後醍醐天皇正盛が孫、刑部卿忠盛朝臣の嫡男なり。かの親王の御子高槻の王、無官無位にして失せ給ひぬ。その御子高望の王の時、始めて平の姓を給はつて、上総介になり給ひしより、忽ちに王氏を出でて人臣につらなる。その子鎮守府將軍義茂、後には国香と改む。国香より正盛にいたるまで六代は、諸国の受領たりしかども、殿上の仙籍をばいまだゆるされず。

〔平家物語 上〕(新日本古典文学大系)一九九一年・岩波書店

◎付属の「補充教材集」「実力問題集」にも掲載されている文章は、それぞれ欄・奥と記しました。

付属DVD-ROM

実力問題集

実力問題1(羅生門)

〔1〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。
(遠洋航海中の軍艦で盗難事件が発生し、奈良島という水兵の持ち物から盗品が発見された。私は石炭庫の入口に出ている前の上半身を見つけたが、顔はつきり見えなかった。)

奈良島は私の手を振り離すでもなく、上半身を横入り口から出しながら、静かに私の顔を見上げました。
「云ったがまだ、云い足りないですね。ある力を出さずして、しかも静でなければならぬ。静に」です。余

教科書の教材と同じ著者の作品や、別の著者による同じテーマの文章などを素材にした実力問題です。

付属DVD-ROM

補充教材集

◆羅生門 芥川龍之介 1

『羅生門』のもともとなった古典

『羅生門』は、芥川龍之介が二十三歳のときの作である。初出は、大正四(一九一五)年十一月刊行の『帝國文学』で、こちらに単行本としても出版された。『帝國文学』は東京大学の文科関係の機関誌であり、当時既に二十年の歴史を持っていた。

芥川龍之介が古典を取材した作品(『愚』『手紙』など)、『玉靴物』と呼ばれるをいくつも遺したとは知られているが、その第一作目が『羅生門』であった。『羅生門』は、愛読していた『今昔物語集』にもとづいて書かれた。『羅生門』の大筋は、『今昔物語集』の巻二十九第十八「羅城門空上層見死人盗人語」らうもののはこの上をとりてしんをみたるぬすびとのこと」に依拠しているが、細部にわたる人の女生の行状などは、巻三十一「二十一日刀帶陣魚羅語」(たてはきのおんけいをうるおうものこと)「かゝ要素を引き入れて、次は、『羅生門』の大筋に即する『今昔物語集』巻二十九第十八の原文である。比べて、芥川龍之介が、原文を改題したときのおもしろさをここに生かしたかと思えて、近代小説らしい主題の下に情物像や出来事を影らさせ、緻密に構成し直していることがわかる。

『羅城門空上層見死人盗人語第十八』

今は昔、攝津の國邊より盜せむが爲に死にける男の、日の暮た暮さるれば、羅城門の下に立隠れて立てに、朱雀の方に人重りて、人の静まるまでと思て門の下に待たせりけるに、山城の方より人共の數來のしければ、其れに不し見えと思て、門の上層に和ら懸つき登りけるに、見れば火輪に燃たり、盗人控て速可より驅ければ、若き女の死て臥たる有り、其の枕上に火を燃して、年極を老たる、嬪の白髪白きが、其の枕上に居て、死人髪をかくり抜き取る也けり、盗人此れを見るに心も不得ねば、此れ若し鬼にや有思で、怖れども若し死人にてもぞ有る、恐して試むて思て、和ら戸を開き刀を抜て、己は云て走寄りて手逐ひをし手を指す速へば、盗人此は何ぞの癖の此は原たるぞと問ければ、羅「が主にて御まする人給るを縛ふの無ければ、此で醜泰たる也、其の御髪は此に餘て残れば、其を抜取て懸にせむと抜く給へ」と云ければ、盗人死人の著たる衣と袷とを奪取て、下走て逃て去にけり、其の上の層には死人の骸多りける、死たる人の體なぞを不爲をば此の門の上を置ける、此の事は其の人に語けるを聞聽て、此く語り傳へたるにや。

【大意】

今は昔のどよむるが、摂津の國の近辺から盗みを働かせるために上つてきた男が、日が暮た暮れないの城門の下を身を隠して立つて、朱雀の方の人通りが激しいので人がなくなると動くのをまよと問のまま立って、山城の方から大勢の者が来た、見つかると思い門の上層にかまいてより、見ていると、火をほくかかんとして、盗人が不思議に思て速に恐か覗いて、若き女の死んで横たされたのそばに火を灯し、白髪の老女が、その枕もとで死人の髪を抜き取っている。盗人はこれ不審に思ったが、老女は鬼かもしれない、恐ろしいことを死人がもしれない、脅しめようと思つて、その戸を開け刀を抜いて、「おまはし何をされているのだ」と言ながら走り寄ると、老女は手をすり合わせて、盗人の問いに、老女は答えるには、「わたしは主人であった方が亡くなりましたが、弔いの手配をする者もな」に置かされていたのです。髪がたいさう長い方だったので驚かして長い髪を、抜いてあげたいのです。あれ、一言うので、盗人は、死人の女の衣と、老女の着ていた衣と、抜いてあげた髪を奪取つて、門の上りて逃げた。このように羅城門の上層部には棄てられた死人の遺骸が多かった。死人の弔いができないの門の上に放置するのである。この話は、その盗人が人に話したのを聞き継ぎ、このように語り傳えているのである。

教科書の教材に関連する資料や、発展的に読むことができる作品などを収録しています。

◆実力問題集 収録教材例

- ありのままの世界は見えない
美しいをさがす旅にしよう(田中真知)
流れとよどみ 哲学断章(大森荘蔵)
水の東西
無常のリズム(山崎正和)
日本の耳(小倉朗)
羅生門
猿(芥川龍之介)
葱(芥川龍之介)
待ち伏せ
俘虜記(大岡昇平)
ベトナム戦記(開高健)

- 余暇について
時間と自由の関係について(内山節)
働くことの意味(清水正徳)
「もの」の科学から「こと」の科学へ
構造主義進化論入門(池田清彦)
ヘミングウェイの原稿(外山滋比古)
富嶽百景
猿ヶ島(太宰治)
故郷(太宰治)
夢十夜

- 夢十夜 第三夜(夏目漱石)
「世間」とは何か(阿部謹也)
情報の「メタ」化
思想の整理学(外山滋比古)
あたまたの目 人生の見かた(外山滋比古)
見る一考える
Bergson 哲学がわかった! (鷲田小彌太)
流れとよどみ 哲学断章(大森荘蔵)
美を求める心
お月見(小林秀雄)
日本美術を見る眼(高階秀爾)

◆補充教材集 収録教材例

- ありのままの世界は見えない
「美しい」の境界を飛び越えよう(田中真知)
真実の百面相(大森荘蔵)
水の東西
無常のリズム(山崎正和)
「劇的な精神について」より「劇的な日本人」より(山崎正和)
日本の耳(小倉朗)
羅生門
「羅生門」のもともとなった古典
偷盜(芥川龍之介)
待ち伏せ
俘虜記(大岡昇平)
余暇について

- 時間の創造(内山節)
労働の営み(内山節)
「もの」の科学から「こと」の科学へ
環境問題には「流行」がある(池田清彦)
科学の挑戦 実体論から関係論へ(池田清彦)
ヘミングウェイの原稿(外山滋比古)
富嶽百景
富嶽百景(カット部分)(太宰治)
夢十夜
内なる空虚(夏目漱石)
情報の「メタ」化
抽象(S・I・ハヤカワ)
醜醉/アナロジ(外山滋比古)
見る一考える

- 考える葦(パスカル)
千角形(デカルト)
プラトンのイデア論(鷲田小彌太)
記憶について(大森荘蔵)
美を求める心
お月見(小林秀雄)
無常ということ(小林秀雄)

- 絵仏師良秀
小野篁広才の事(宇治拾遺物語)
大江山
成範卿、事ありて、…(十訓抄)
竹取物語
立てる人どもは、…(竹取物語)
伊勢物語
第一〇一段(伊勢物語)
第一〇七段(伊勢物語)

- 徒然草
第五〇段(徒然草)
第七五段(徒然草)
土佐日記
一月二十日(土佐日記)
二月九日(土佐日記)
平家物語
猫間(平家物語)
奥の細道
岩沼に宿る。…
十二日、平泉と心ざし、…(奥の細道)
うひ山ぶみ
世に物まなびのすぢ、…(うひ山ぶみ)
故事成語
食指動(春秋佐氏伝)
漢詩
秋風引(劉禹錫)
過香積寺(王維)
史話
孟嘗君列伝第十五(史記)
東晋(十八史略)
雜説
送温处士赴河陽軍序
桃花源記
南柯太守伝(唐代传奇)

- 古典入門
ワークシート(九種)
絵仏師良秀
賢人藤原実資、家を焼く(十訓抄)
大江山
行成と実方(十訓抄)
伊勢物語
盗人(伊勢物語)
武蔵の国の「竹芝伝説」(更級日記)
土佐日記
黒鳥のもとに(土佐日記)
「土佐日記」からの和歌(後撰和歌集)
平家物語
「祇園精舎」後半部分
「木曾最期」前半部分(平家物語)
うひ山ぶみ
「うひ山ぶみ」の冒頭部分、及び末尾(識語)
漢文入門
ワークシート(四種)
故事成語
推敲(唐詩紀事)
漢詩

- 「春晓」の日本語訳(土岐善麿)
「春晓」の日本語訳(井伏鱒二)
「香炉峰…」の詩が引用されている一節
「枕草子」第二八〇段
「漢詩」鑑賞文例
先従隗始
まず隗より始めよ(宮城谷昌光)
臥薪嘗胆
鶏口牛後(十八史略)
桃花源記
復活 捜神記
小国寡民(「老子」第八十章)

- ◆原文集
教科書教材文の原文データです。
- ◆発問例集
指導資料に掲載した発問をまとめたデータです。

朗読CD

一部の教材について、朗読を収録した音声CDです。

◆収録教材例
《現代文編》

- 日本語の響き
- 羅生門
- 楚のうへ
- 死なない蜻
- サフラン
- 崖

- 《古典編》
- 伊勢物語
- 漢詩
- 芥川／筒井筒
- 春暁／登鸛鶴楼／静夜思／江雪／送元二使安西／
- 江南春／涼州詞／春望／臨洞庭／
- 香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁／登高

※その他、学習に役立つさまざまな音声も収録予定です。

三 評論(二) 水の音 山田和彦『水』P.465 P.51 拾得

漢字・語句を確認しよう

一次の「無数の蓮子の葉をひらがら書きまきい」

- ① 水受けが溜
- ② 全一週別
- ③ 時を刻
- ④ 庭の樹葉
- ⑤ 朝
- ⑥ 表機に窓
- ⑦ 守備の周囲
- ⑧ 行きの周囲

二次の「縁部のカタカタを漢字に直しなさい」

- ① シーンターのインター
- ② ぐらりとカタカタ
- ③ 三日月
- ④ オレキョウ
- ⑤ 音を響とるまじりカタカタ
- ⑥ 水を列
- ⑦ 庭を列
- ⑧ 水が列
- ⑨ オオサカイ
- ⑩ 造り出すカタカタ
- ⑪ 音階がいかいカタカタ

三次の語句の意味等をなさい

- ① 愛嬌
- ② 徒勞
- ③ 慶向
- ④ 感性
- ⑤ 間際

文章の理解を深めよう

1 「蓮おどじ」と「噴水」を比較して考えよう。

2 「おんどくくもつた優しい音」(465)を、①別の表現で表した言葉を、②半分で抜き出しなさい。また、③これはどういうことを強調するのか、本文中で抜き出しなさい。

3 「それ」46・10とは、何を指しているか。本文中から字で抜き出しなさい。

4 「流れる水と、噴き上げる水」(47・9)とは、それぞれ具体的に何を指しているか。抜き出しなさい。

5 「ユメ家の別荘の噴水の印象を述べた」一文を本文中から抜き出し、初めの五文をなさい。

6 時間的な水と、空間的な水(49・4)とは、それぞれ具体的に何を指しているか。時間的な水、空間的な水、抜き出しなさい。

7 「蓮おどじ」と「噴水」の違いを説明し次の文章の空欄に、あはまる言葉を選び、記号や答えなさい。

「蓮おどじ」は、それが何と①によって、人②を感じさせる。「噴水」は、それによって、見る人③④を感じる。⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

別売の『学習課題ノート』の内容を自由に加工できるデータで収録しています。



精選国語総合 [改訂版]

- 指導資料 現代文教材……………28
- 指導資料 古典教材……………40
- 付属DVD-ROM収録教材……………46

小説一 羅生門

◆芥川龍之介

教材のねらい

●学習目標

- ・物語の背景となっている時代状況・社会状況について、本文の記述をもとに確認する。
- ・羅生門の下で雨やみをする下人が置かれた状態とその心情について理解する。
- ・羅生門の楼へ上って以降の下人の心理の推移について把握する。
- ・死人の髪の毛を抜く老婆が置かれた状態と下人に遭遇して以降の心情について理解する。
- ・物語の描写方法や表現効果について考える。

●学習指導のポイント

高等学校の国語教科書の定番教材である芥川龍之介の『羅生門』については、これまで教科書の指導資料・研究論文・授業実践報告という形で、あるいは、担当する教員が培った独自の解釈という形で、教室という現場に向けてさまざまな〈読み〉が提起されてきたものと思われる。今回、『羅生門』を採録するに当たっては、特に次の点に留意して、教科書の脚注や「学習の手引き」を編成し、指導資料の「語句・文脈の解説」や「研究・発展」の項にそれを反映させた。

①「平安朝の下人」という不安定な存在について、飢え死にしようとする直前の状況にもかかわらず、太刀だけは手放そうとしなかったという点に注目して、考察を試みる。また、その「下人」がどのような経緯を経て、「盗人」になっていったのかを解明する。②物語の時代性・社会性などにも配慮しつつ、これまで「下人」の視点からのみとらえられてきた事象についても、例えば、被害者としての「老婆」の立場になってとらえ直す作業をしていく。③物語の〈語り手〉を、近代のある時点において、ある「旧記」に問題意識を触発され、それを参照して、『羅生門』という物語を構成／再構成した存在と位置づける。その上で、素材としての『今昔物語集』や『方丈記』について、検討を加えていく。

「永年、使われていた主人」から解雇されて路頭に迷う状態、通常ならば〈交換〉されなかったようなもの（仏像や仏具を打ち砕いた薪・死人の頭髪を素材にしたかつら・蛇を原材料とした「干し魚」）が商品化されてしまうような社会、自分だけが生き残っていくために、〈弱者〉たる「下人」が〈弱者〉たる「老婆」を否定的に差別し、暴力的に抑圧してしまうような行為、これらは、物語の中の「ひと」とおなじくこの閉ざされたかのような物語からも、我々の〈いま〉・〈ここ〉の問題が浮上してくる。〈他者〉への想像力ということに留意しつつ、〈語り手〉の説明（心理・情景描写）や登場人物の発言・行為について考察する。

◎学習の目標を、具体的に箇条書きでまとめました。

◎学習目標を達成するための具体的な手だてや注意するポイントを示しました。

◎時間・目標・学習内容と指導内容・指導上の留意点を、指導の実際に即して表組みで示しました。

学習指導の展開と評価

●学習指導案例（配当時間六時間の場合）

時間	目標	学習活動と指導内容	指導上の留意点
第1時限	① 本教材についての導入を行う ② 全文を通読して物語の概要を理解する	導入 1 これまでに読んだことのある芥川龍之介の作品について確認する。 1 本文を音読する。 2 音読・黙読を通じて、物語の内容を理解する。 3 初発の感想を話し合う。 4 難解な語句・注目した表現などをチェックする。	1 小学校・中学校時代に読んだ作品があれば、作品名や簡単な感想を発表させる。 1 適宜区切って、指名により音読させる。 2 物語の展開について、その概要を確認させる。 3 印象に残った場面・描写について、自由に感想を述べさせる。 4 わからない語句は辞書で意味を調べておくように指示する。
第2時限	① 物語の背景となっている時代状況・社会状況について本文の記述をもとに確認する	展開1 1 物語の時代・季節・場所・登場人物などについて確認する。 2 当時の社会状況について理解する。（学習の手引き一） 3 羅生門がどのような状態であったか把握する。	1 平安時代（末期）・秋・京都の羅生門・下人という存在などについて確認させる。 2 相次ぐ災いによって荒廃した社会であったことを理解させる。 3 荒れ果てて、死体の捨て場所と化していたことを把握させる。

◎「指導上の留意点」は、「学習活動と指導内容」の内容へ「致するもの」として、同じ番号で示しました。

◎筆者(作者)の肩書き・業績・作風・著作などについて解説しました。適宜略年譜も掲載しました。

教材の研究

●筆者

芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)
小説家。一八九二(明治二五)年、東京市京橋区(現、東京都中央区)生まれ。第一高等学校第一部乙類(文科)、東京帝国大学英吉利文学科を卒業。大学在学中に久米正雄・菊池寛らと「新思潮」(第三次、第四次)を創刊、翻訳・小説・戯曲などを発表。一九二六(大正五)年、「新思潮」(第四次・創刊号)に発表した小説「鼻」が夏目漱石の激賞を受け、文壇に登場する機縁となる。初期の作品は(昔)を舞台にした小説が多く、多様なスタイルの短編小説を試み、緊密な文体と知的な構成による作風とによって、人気作家となる。のちに作風を転じて、自己自身に材を求めた作品が書かれるようになるが、健康状態が悪化し、一九二七(昭和二)年に自殺。代表作には、「戯作三昧」(一九一七年)、「地獄変」(一九一八年)、「藪の中」(一九二二年)、「河童」(藪車) (一九二七年) などがある。

●略年譜

Table with 2 columns: Year (e.g., 一八九二, 明治二五) and Event (e.g., 三月一日、東京市京橋区入船町(現中央区明石町)に、新原敏三、ふくの長男として生まれる。この年の十月ごろ、母・ふくが発狂したため、龍之介は母の実家である芥川家(本所区小泉町、現墨田区両国)で養育されることになる。八月、芥川家に養子として入籍し、芥川家の養嫡子となる。

Table with 2 columns: Year (e.g., 一九一〇, 明治四三) and Event (e.g., 三月、東京府立第三中学校を卒業。八月、第一高等学校文科に無試験で合格し、九月に一高に入学する。同級には菊池寛・成瀬正一・井川(恒藤)恭・松岡謙・久米正雄・倉田百三・藤森成吉・山本有三・土屋文明らが出た。七月、一高を卒業、九月、東京帝国大学文科(英文科)に入学する。二月、菊池・成瀬・松岡・久米らと第三次「新思潮」を創刊する。早春、吉田弥生との結婚を義父母と伯母に反対され、結婚を断念する。十一月、「羅生門」を「帝国文学」に発表する。この月、久米とともに夏目漱石を漱石山房に訪ね、以後、木曜会に出席する。二月、菊池・成瀬・松岡・久米らとともに第四次「新思潮」を創刊する。七月、東京帝国大学(英文科)を卒業、卒業論文は「ウイリアム・モリス研究」であった。十二月、海軍機関学校教授嘱託に就任する。*十二月九日、夏目漱石死去。

Table with 2 columns: Year (e.g., 一九一七, 大正六) and Event (e.g., 五月、第一創作集『羅生門』を阿蘭陀書房より刊行する。二月、塚本文子と田端の自笑軒において結婚式をあげる。七月、春陽堂より『新興文藝叢書第八編』として創作集『鼻』を刊行する。二月、大阪毎日新聞社より辞令を受け取る。報酬月額百三十円、別に原稿料という条件であった。三月、海軍機関学校を退職する。四月、長男誕生、菊池寛の「寛」より「比呂志」と命名する。

Table with 2 columns: Year (e.g., 一九二七, 昭和二) and Event (e.g., 十一月まで)。九月一日、関東大震災に遭遇する。七月下旬から八月にかけて、軽井沢に滞在する。七月、三男・也寸志、誕生する。不眠症・胃腸の不調・神経性狭心症などの症状に苦しみ、一月から二月にかけて静養のために湯河原に滞在する。その後、病状は好転せず、多種の薬物を服用するようになる。*十二月二十五日、大正天皇崩御。一月、義兄の家から出火、義兄に放火の疑いがかかり、義兄が鉄道自殺をする。四月、帝国ホテルにおいて心中を計画するが、未遂に終わる。同月、菊池寛あての遺書を書く。五月、帝国ホテルで心中をはかるが、手当てによって一命をとりとめる。七月二十四日、致死量のヴェロナール、ジャールなどを飲み、自殺。

◎教科書採録本文の出典を示しました。書名・発行年・出版社に加え、必要に応じて小中学校の教科書での扱いについて解説しました。

小説一 羅生門 86

●出典

『芥川龍之介全集第一巻』(一九七七年・岩波書店)による。教科書本文はその全文で、省略箇所はない。初出は「帝国文学」(一九一五年一月号)で、その後、第一創作集『羅生門』(一九一七年・阿蘭陀書房)に収録する際、若干の改訂が施され、『新興文藝叢書第八編 鼻』(一九一八年・春陽堂)に再録するに当たって大幅な改訂が行われ、現行本文に至っている。

▼中学校教科書での扱い

小・中学校の教科書では、次の芥川龍之介作品が教材として取り上げられている。

- 〔小学校〕平成23年度版
- 〔青がえる〕教育出版3下・東京書籍3下
- 〔杜子春〕教育出版6下
- 〔仙人〕三省堂6年
- 〔中学校〕平成18年度版(23年度まで使用)
- 〔トロッコ〕三省堂1年
- 〔鼻〕東京書籍3年
- 〔中学校〕平成24年度版
- 〔トロッコ〕三省堂1年・教育出版1年・東京書籍1年
- 〔少年海〕学校図書3年
- 〔蜘蛛の糸〕教育出版1年

●大意

〔二〇〇字〕

羅生門の下で雨やみをしている下人は、飢え死にをしないためには盗人になるしかないと思うものの、勇気が出ずにいた。一夜を明かすために向かった羅生門の上の楼で、死人の髪の毛を抜いている老婆の姿を目撃する。下人が老婆を取り押さえて問い質すと、老婆は生きていくためにしかたなくしたことだと弁明する。老婆の発言を受けて勇気が生まれてきた下人は、老婆の着物を剥ぎ取って、夜の闇へと消えていく。(二八九字)

〔一〇〇字〕

飢え死にをしないために盗人になるという決断ができずにいた下人は、羅生門の楼内で老婆に遭遇する。生きるためには悪行もやむを得ないという発言を聞いて勇気が生じ、老婆の着物を奪い、夜の闇へと消えていく。(一〇〇字)

●「主題」をめぐる考察

当該作品の作者が、ある「中心となる思想内容」を構想し、それを作品世界において具現化させようとするのは至極当然の営みである。その「中心となる思想内容」を作者自ら「主題」と称することは一向に差し支えない。よって、ある作品において「主題」と名指すものがあるとするならば、そうした作者自身が明定したもの以外には本来的にありえない。例えば、この「羅生門」という作品に対して、作者である芥川龍之介が「大学時代ノート(メモ、カット)」(芥川龍之介資料集)一九九三年・山梨県立文学館)の「Defence for "Rashomon"」と題する覚書において、「[moral]・[moral of philistine]」を扱っ

◎教材文全体を意味上の段落に分けて表組みで示し、段落ごとに大意(要旨)をまとめ、小見出しをつけました。

87 教科書 [p.18~p.30]

●全体の構成

段落	ページ・行	大意
第一段	初め〜22・12「……の段へ踏みかけた。」	〈悪〉の道に足を踏み出せない下人 ある日の暮れ方、下人が羅生門の下で、自分の身の上や身の振り方について、思い悩んでいる。
第二段	22・13「それから、……」〜25・9「……いるのである。」	〈悪〉の行為を憎悪する下人 羅生門の上に登ろうとした下人は、楼の上にいる老婆に気づき、その老婆の行為に激しい憎悪を抱く。
第三段	25・10「そこで、……」〜28・5「……ことを言った。」	〈悪〉の存在を懲らしめる下人 下人は老婆の前に飛び出すと、老婆をねじ倒して、門の上で何をしていたのかを聞き出す。
第四段	28・6「下人は、太刀……」〜終わり	〈悪〉の道に足を踏み入れた下人 下人は老婆の話聞き終えると、老婆の着物を剥ぎ取り、蹴倒して、夜の闇へと消えていく。

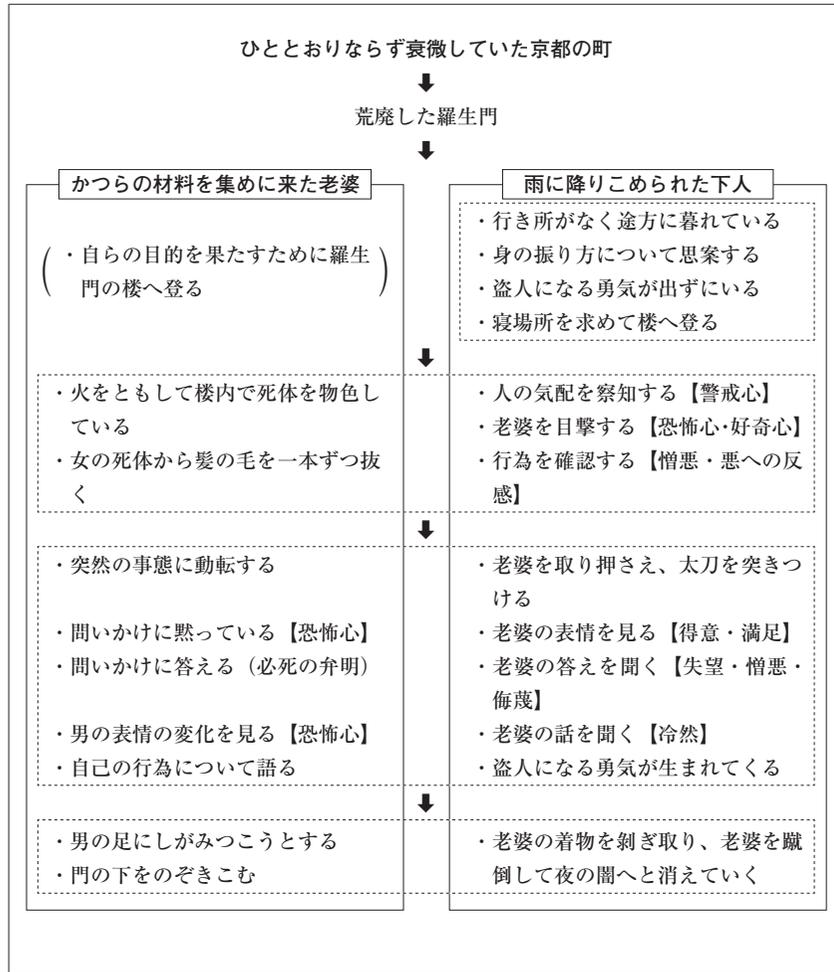
たかったと述べているが、確かに、その「moral」(道徳)もしくは「moral of philistine」(俗人の道徳)という問題は、現行の「羅生門」における「下人」のものの方・考え方にも反映しており、それがこの作品の「主題」となるのかも知れない。
むしろ、ある読み手が、作者自身の履歴・業績・発言などを踏まえて、当該作品からその作者の「中心となる思想内容」を抽出し、それを作品の「主題」とすると個人的に主張することは自由である。こ

の「羅生門」という作品に対しては、数多くの研究者・批評家が「主題」について言及してきた。本稿においては、〈モノ〉にも等しい不安定な存在で、自己決定をもちえなかった男が、自分より弱い存在を否定的に差別することで、一つの方向に向けて生きていこうとする気力を獲得するまでのことが「羅生門」では語られていると考えており、それをこの作品の「主題」として提示することも可能である。

◎教材全体を概観できるよう、内容を図式化したものを示しました。

小説一 羅生門 88

●展開図



◎教科書の「語句」欄の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

小説一 羅生門 90

語句・文脈の解説

18ページ

L1 ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。この冒頭の形式段落において、「羅生門」という物語の基本的枠組みが、「語り手」(後に「作者」と称して物語に介入してくるようになる)によって提示される。すなわち、①いつある日の暮れ方、②どこで羅生門の下にて、③誰が一人の下人が、④何を雨やみを待っている、という物語に関する基本となる情報が明らかになる。やがて①については、平安時代の末期の秋という大枠の情報が付加されるとともに、推移していく時間が示され、②については、平安京にあった羅生門という場所にかかわる否定的情報が語られ、さらに、③をめぐっては、老婆という人物が加わることになる。④については、「申の刻下がり」(20・11)に突然に降りだした雨によって、雨宿りをする必要から、やむを得ずしている行為であること、特別な目的があつてこの羅生門にやってきたわけではない、ということに留意する必要がある。

L1 下人とは「身分の低い者」・「卑賤の者」と解され、そうした意味では差別的な語感を有することはあるともいえる。ところで、『日本国語大辞典』(第二版)によれば「平安時代以後の隷属民。荘園の地頭や荘官、名主や地主などに隷属して、家事、農業、軍事など主家の雑役につかわれ、財産として土地といっしょに、あるいは別々に売買質入や譲渡の対象となった。」とある。また、『日本民衆の歴史』(土一揆と内乱)(一九七五年・三省堂)によれば「平安時代に新しく登場してきた下人・従者・所従という身分の勤労大衆は、主人持ちであり、主人に人格的に隷属しているという点で百姓身分の農民とはちがっていたが、その実態をみると、家内奴隸的な僕婢労働に従事する者と、住居・経営を持って外居自立している隷属農民とに大別できる存在であった。」という。これをふまえるならば「平安朝の下人」(20・11)とは、当代において、いわば(モノ)として、「商品」として取り扱われるような、きわめて不安定な存在であったといえよう。《語り手》は、物語の冒頭において、単に《ある男》ではなく「一人の下人」と名指すことで、その人物の社会的立場を当てると同時に、その人物の社会的立場について提示しているともいえる。なお、こ

脚問・発問

18ページ

脚問 「ある日」(1行)とあるが、いつころの時代のことか。

脚問 平安時代。

脚問 (解説) 物語で語られている風物や「平安朝の下人」(20・11)という表現に注目させると、さらに、「きりぎりす」(18・3)や「もう火桶が欲しいほどの寒さ」(22・4)という表現から、秋(晩秋)という季節であることもわかる。

脚問 「暮れ方」(1行)とは、どのような時間帯をいうのか。

脚問 夕闇が空に立ちこめ、辺りが暗くなる直前の時間帯。

脚問 「二人の下人」(1行)とあるが、この男はどのような外見・身なりをしているか。本文中の表現を用いて答えよ。

脚問 「短いひげの中に、赤くうみを持ったにきび」(22・15)が「右の頬」(22・15)にあるという外見上の特徴があり、「山吹の汗疹に重ねた、紺の襖」(22・7)という着衣で、足には「わら草履」(22・12)を履いて、「聖柄の太刀」(22・11)を腰に下げている。

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎各教材末にある「学習の手引き」に対する解答例と詳しい解説を示しました。

学習の手引き・言葉と表現・漢字

▼学習の手引き▲

一☆この作品の背景となっている京都の町や羅生門の描写に注目し、そこに描かれている当時の社会状況についてまとめてみよう。

【解答例】

京都では、この二、三年の間に、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いが続いて起こったため、洛中のさびれ方はひととおりではない。仏像や仏具を打ち砕いて、その丹がつかいたり、金銀の箔がついたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売っているような始末で、物資が不足し、経済的にも疲弊し、人々の心も荒廃していた。その結果、羅生門も荒れ果ててしまい、狐狸や盗人が棲むようになり、ついには引き取り手のない死人を捨てるための場所となってしまう。人々は気味悪がり、暗くなるや門の近所へは足踏みをしないうようになっていた。そうした荒廃した社会状況の中に下人や老婆は身を置いている。

【解説】

平安時代末期（一一八〇年ころ）の京都の町の荒廃について、「語り手」は、福原遷都や戦乱（源平の争い）などの史実を排除して（人災については言及することなく、不可抗力的な「地震とか辻風とか火事とか飢饉（18・6）」という天災が立て続けに起きたことを要因としてあげている。まさに「どうにもならない」という状況を設定したのである。また、「洛中のさびれ方はひととおりではない」（18・7）例と

して鴨長明の「方丈記」の記述を借用して、「仏像や仏具を打ち砕いて、その丹がつかいたり、金銀の箔がついたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売」（18・8）ると描写する。ただし、借用するにあたっては、原文にある古寺に行って仏像を盗むという部分を削除している。その意図するところは、仏像・仏具などの信仰の対象が単なるモノ化されて、もともとそれが何であつたかわかっても躊躇することなく燃料として売買する者、それを傍観する者の存在を浮上させ、京の町に住む一般の人々の心の荒廃に焦点を当てるためである。平安京における権威や秩序のひとつの象徴でもある羅生門が損壊したままになっていくのも、その一例なのである。結果、荒れ果てた羅生門に対して「妖怪変化や忌まわしい者の存在する場所」という情報が洛中の人々に伝わり、漠然とした恐怖心から「足踏みをしたくないことになってしまった」（19・5）状況が出来た。その上、洛中の人々も浅ましい現場を目にしたことはあろう不吉なものも連想させる「からす」の存在もそうした状況に拍車をかけたのである。要するに「作者」は、「主人」が雑役に使っていたこの下人のような取るに足らない存在までも抱えておくことができない（交換できない）ほどに疲弊した状況、神聖なるもの・醜穢なるもの・食材として認知されていないものなど、通常においては貨幣と交換されないようなものが商品化されてしまうという荒廃した社会状況を設定しているのである。

第一段の京都の町や羅生門に関わる記述内容に注意してまとめると、前段階の作業として箇条書きにして整理するとまとめやすくなるだろう。

盗人恠と思て連司より臨ければ、若き女の死て臥たる有り、其の枕上に火を燃して、年極く老たる嬬の白髪白きが、其の死人の枕上に居て、死人の髪をかなぐり抜き取る也けり、盗人此れを見るに心も不_レ得ねば、此れは若し鬼にや有らむと思て、怖れれども若し死人にてもぞ有る、恐して試むと思て、和ら戸を開て刀を抜て、己はと云て走寄ければ、嬬手迷ひをして手を摺て迷へば、盗人此は何ぞの嬬の此はし居たるぞと問ければ、嬬「己が主にて御ましつる人の、失給へるを繰ふ人の無ければ、此て置奉たる也、其の御髪に長に餘て長ければ、其を抜取て髪にせむとて抜く也、助け給へ」と云ければ、盗人死人の著たる衣と嬬の著たる衣と抜取てある髪とを奪取て、下走て逃て去にけり、然て其の上の層には死人の骸ぞ多かりける、死たる人の葬など否不_レ爲をば此の門の上にぞ置ける、此の事は其の盗人の人に語けるを聞繼て、此く語り傳へたるとや。

太刀帯陣賣魚唄語第卅一

今は昔、三條の院の天皇の春宮にて御ましける時に、太刀帯の陣に常に来て魚賣る女有けり、太刀帯共此れを買ひて食ふに、味ひの美かりければ、此れを役と持成して菜料に好みけり、干たる魚の切々なるにてなむ有ける、而る間八月許に、太刀帯共小鷹狩に北野に出で遊けるに、此の魚賣の女出来たり、太刀帯共女の顔を見知たれば、此奴は野には何態爲るにか有らむと、馳て思寄て見れば、女大きやかなる籬を持ちたり、亦楚一筋を捧て持たり、此の女太刀帯共を見て、恠く逃目を仕ひて、只驥ぎに驥ぐ、太刀帯の從者共寄て、女の持たる籬には何の入たるぞ見むと爲るに、女惜むで不_レ見せぬを、恠かりて引奪て見れば、馳を四寸許に切つ、入

◎教材文や出典、筆者（作者）についての詳しい解説や指導に役立つ資料を掲載しました。

125 教科書 [p.18~p.30]

研究・発展

◎作品解説

「羅生門」という物語と二つの「旧記」

周知のごとく、「羅生門」という物語の基底には『今昔物語集』所収説話や「方丈記」の記述内容が深くかかわっている。（素材源）であるそれらの存在について、「羅生門」の「作者」と称する（語り手）は「旧記」という呼称で名指している。既に、「語句・文脈の解説」の項で紹介したように、時代背景・風物・心情などを説明する際に、数多くの借用がそこにみられる。「羅生門」という物語の基本的構造について改めて確認するならば、近代のある時点において、『今昔物語集』や『方丈記』の記載事項を目にした存在がいて、その記述にある問題意識が触発され、それを参照して「羅生門」という物語を構成・再構成した、という形を取っている。

その主たる（素材源）に『今昔物語集』巻二十九第十八話「羅城門登上層見死人盗人語」同じく巻三十一第三十一話「太刀帯陣賣魚唄語」がある。それぞれの本文は次のとおりである。なお、引用は「語句・文脈の解説」と同様に『今昔物語下巻・古今著聞集』（校註國文叢書第十七冊）（一九一五年・博文館）による。

羅城門登上層見死人盗人語第十八

今は昔、攝津の國邊より盜せむが爲に京に上ける男の、日の未だ暮ざりければ、羅城門の下に立隠れて立てりけるに、朱雀の方に人重り行ければ、人の靜まるまでと思て門の下に待立てりけるに、山城の方より人共の數來たる音のしければ、其れに不_レ見えじと思て、門の上層に和ら搦つき登たりけるに、見れば火籠に燃したり、

◎「読解から表現へ」については、示された用語の詳しい解説に加えて、教科書で設定された課題について、解答例と解説を載せています。

読解から表現へ ⑥推敲 68

学習指導例

課題 次の文を推敲してみよう。

1 私にとつて高校生時代に夢中!になったことは、高校時代に、部員が少なくて困ったけど、所属していた吹奏楽部で演奏していたトランペットを吹くという事です。

【解答例】

教科書166ページ「推敲のポイント」

- ②会話口調をそのまま地の文に用いない。
- ③疑問符(？)や感嘆符(！)などの符号を避け、できる限り言葉で伝わるように表現する。
- ⑥主語と述語を対応させる。長い文は二文に分けるなど工夫する。

私は高校生時代に吹奏楽部に所属していました。部員が少なくて困ったこともありましたが、それでもトランペットを吹くことに夢中だった三年間でした。

【解説】

この課題文の問題は、主語は一貫して「私」のだが、「夢中!」になった「困った」「吹く」ということと、「一文の中に述語(述部)が三つ入っていることにある。作文の基本は、短文を短文(主語と述語が一つずつある文)で構成することである。解答例は、述語三つを生かす形にしてあるが、もちろん推敲の仕方は無数に存在する。添削する際には、短文であること、単文であることの二点に留意したい。

2 地球温暖化が進んでいる原因は何か？ その原因は、私たち人間のせいです。政府がするべきことは、1人1人の意識改革を目指して、メディアと協力して環境問題をもっとアピールするべきだと思う。

【解答例】

教科書166ページ「推敲のポイント」

- ①文体を統一する。敬体(です・ます)と常体(だ・である)の混用を避ける。
- ④縦書きの文章では、原則として漢数字を使用する。
- ⑤修飾語をいくつも重ねたくどい表現や、同じ意味の言葉・語句の重複は避ける。
- ⑥主語と述語を対応させる。長い文は二文に分けるなど工夫する。

地球温暖化が進んでいる原因は私たち人間にある。政府はメディアと協力して、環境問題の深刻さをもっとアピールするべきだ。一人一人の意識改革を目指す必要があるのである。

【解説】

この課題文の問題は、文体の不統一、不適当な表記、言葉の重複、主述のねじれにある。「原因は、せいです」「するべきことは、すべきだと思う」などの重複表現に気づかせたい。解答例は、述語を中心にして文を再構成した形にしてあるが、場合によっては、「課題文を三つの文に書き直しなさい。」などの指示が必要だろう。

◎教材によっては「発展課題」を設定し、学習を深めることができますようになっています。

69 教科書[p.166]

発展課題1

次に示すのは、一九八九年に国連総会で採択された「子どもの権利条約」第2条の日本政府による訳文である。これを読んで、表現のうえで気がついた点を話し合ってみよう。

- 1 締約国は、その管轄の下にある児童に対し、児童又はその父母若しくは法定保護者の人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治的意見その他の意見、国民的、種族的若しくは社会的出身、財産、心身障害、出生又は他の地位にかかわらず、いかなる差別もなしにこの条約に定める権利を尊重し、及び確保する。
- 2 締約国は、児童がその父母、法定保護者又は家族の構成員の地位、活動、表明した意見又は信念によるあらゆる形態の差別又は処罰から保護されることを確保するための適切な措置をとる。

【解説】

法律の条文には、独特の用語が登場する。全体的には、理解するのに少し苦労しそうな固く、古風な表現が多く用いられている。先の条文を読むと、まず「締約国」という用語から始まっている。国語辞典を調べてみると、正確な意味がわかりにくい言葉である。さらに、単に「保護者」というのではなく「法定保護者」という用語が用いられているのを見ればわかるとおり、厳密な用語上の規定がなされていることが特徴になっている。「若しくは」や「いかなる」という言葉遣いも、古風に感じられるのではないだろうか。この「子どもの権利条約」の訳文は、その理解において誤解が生じることを防ぐための表現が意識的に用いられているために、このような感じがするのであろう。しかし、本来「子ども」のためにある条約

発展課題2

次に示すのは「子どもの権利条約」第13条の日本政府による訳文である。これを小学生にも理解できるように書き改めてみよう。

- 1 児童は、表現の自由についての権利を有する。この権利には、口頭、手書き若しくは印刷、芸術の形態又は自ら選択する他の方法により、国境とのかかわりなく、あらゆる種類の情報及び考えを求め、受け及び伝える自由を含む。
- 2 1の権利の行使については、一定の制限を課することができる。ただし、その制限は、法律によって定められ、かつ、次の目的のために必要とされるものに限る。
 - (a) 他者の権利又は信用の尊重
 - (b) 国の安全、公の秩序又は公衆の健康若しくは道徳の保護

なのであるから、肝心の「子ども」にとつて、もっと理解しやすく、また親しみのもてるような表現、例えば小学生にも十分理解できるような表現に書き改めてみたらどうなるだろうか。

ただし、単にやさしい言葉に言い換えればよい、というような姿勢では、「小学生にも十分理解できるような表現」には改められない。人に何かを伝えようとするのであれば、伝える中身をしっかりと把握しておかなければならない。

そこでまず、この条文がどのような約束を表現したものであるのか、ということを書き直すと理解しようとする姿勢が大切になる。辞書を引いたり、図書館などで条約の内容について調べたりすることが必要になってくるかもしれない。そうした作業を通して把握できた確かな理解があつてこそ、わかりやすく伝えられる表現が実現できるのである。

◎教材全体を概観できるよう、大意を示すとともに、全体の構成を表組みで示し、それぞれの段落に小見出しを立てました。

段落	ページ・行	大意
第一段	126・4「燕人立太子平」～127・1「得身事之。」	昭王、賢者の招聘を望み、郭隗に相談 新たに即位した燕の昭王は、戦争に関係した国民を労り、自らへりくだって賢者の招聘を目指した。そして郭隗に対し、斉に殺された先君の屈辱に報いるためには、弱小の燕は賢者を招聘するしかなく、それにふさわしい人物を紹介するように言った。
第二段	127・2「隗曰」～終わり	郭隗、自身の登用が賢者の招聘につながることを説く 郭隗は昭王に言った。古のある君主が、千金をかけて一日に千里走る名馬を手に入れるべく側近に頼んだ、すると側近は死んだ馬の骨を五百金で買って帰った。怒る君主に対して側近は、死馬さえ大金で買ってくれれば、生きた馬ならいくらでもなく大金で買ってくれると思うもの、今に馬は来ると言い、ほどなく名馬がやってきたという。だから、まず自分、郭隗を登用すれば、それを聞いて自分より賢い者は遠くからもきっと集まるだろう、と。昭王は郭隗に手厚い待遇をし、これに師事した。すると賢士は争って燕にやってきた。

〔参考〕127ページ6行目「於是」以下を別段落として、全体を三段落構成とすることもできる。

●大意
燕では太子平が推戴されて昭王となり、自らへりくだって賢者を招聘しようとしていた。そして郭隗に対し、斉に殺された先君の屈辱に報いるのにふさわしい人物を紹介するように言った。
郭隗は死馬を大金で買うことで、生きた馬ならどれほど高く買ってくれるかと思わせ、結局名馬三頭を招いたという古の君臣の話をし、まず自分を登用すれば、それを聞いて自分より賢い者は遠くからもきっと集まるだろう、と説く。
昭王が郭隗に手厚い待遇をし、これに師事すると、賢士は争って燕にやってきた。

●全体の構成

◎教材本文の書き下し文を総ルビで掲載し、口語訳と対応させて示しました。(古文教材では品詞分解と口語訳を掲載しています。)

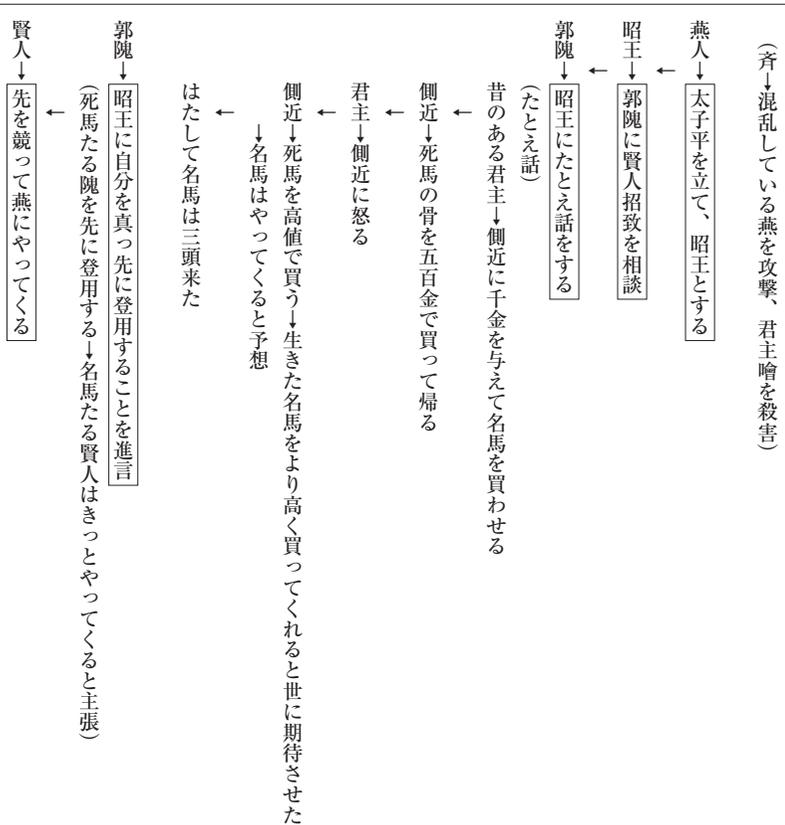
史話 先従隗始 126

●書き下し文・口語訳

【書き下し文】	【口語訳】
<p>燕人太子平を立てて君と為す。是を昭王と為す。死を用ひ生を問ひ、辞を卑くし幣を厚くして、以て賢者を招く。郭隗に問ひて曰はく、「齊は孤の国の乱るに因りて、襲ひて燕を破る。孤極めて燕の小にして以て報ずるに足らざるを知る。誠に賢士を得て与に国を共にし、以て先王の恥を雪がんことは、孤の願ひなり。先生可なる者を視せ。身之に事ふるを得ん。」と。</p> <p>隗曰はく、「古の君に千金を以て涓人をして千里の馬を求めしむる者有り。死馬の骨を五百金に買ひて返る。君怒る。涓人曰はく、『死馬すら且つ之を買ふ。況んや生ける者をや。馬今に至らん。』と。期年ならずして、</p>	<p>燕の人々は太子の平を推し立てて君主とした。これを昭王という。(昭王は)戦死者を弔い、生存者や遺族を慰め、(一方へりくだった言葉を使い、多くの贈り物を用意して、(天下の)賢者を招き寄せようとした。(そこで)郭隗にこう言った、「齊は私の国の混乱に乗じ、襲撃して(わが)燕を打ち破った。私は(この)燕が小国で(齊に)仕返しをするだけの力がないことを認識している。なんとしても賢人を得て(彼らと)国政を一緒にに行い、そうして(齊に殺された)先代(喻)の受けた恥辱をすぐることこそ、私の願いである。(どうか)先生、(この私の思いに)ふさわしい人物を示してほしい。わが身はその人物を師として仕えることとなろう。」と。</p> <p>隗は言った、「昔の君主で、千金(もの大金)を使って側近に一日に千里を走るといふ名馬を買ひ求めさせた人がいました。(すると従者は)死んだ馬の骨を五百金で買い取って帰ってきました。君主は怒りました。(すると)側近はこう言いました、『死んだ馬(の骨)ですら(高値で)買い取ったのです。まして生き</p>

◎教材全体を概観できるよう、内容を図式化したものを示しました。

●展開図



◎教科書の「語句」欄の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

語句・文脈の解説と脚問・発問

- 126ページ
 - L1 燕 燕は周代の諸侯国の一つで、戦国の七雄の一つでもあった。現在の河北省と遼寧省とにまたがる。
 - L4 燕人 「えんひと」と読む。「燕の人々」の意。国名・地名に続く「人」は「ひと」と読むのが通例。
 - L4 立太子平為君 太子の平を推し立てて君主とした。「太子」は君主の地位の継承者。「為」はこの場合「ある状態を形成する」の意で、「……とした(即位させた)」と訳す。
 - L4 昭王 在位は前三一年〜前二七九年。喩の子。
 - L4 弔死問生 戦死者を弔い、生存者や遺族を慰める。父喩とは対照的な、人民に心をかける昭王の姿である。一説に「人民に死者があれば弔い、出産があれば祝いにいく」とする。
 - L5 卑辞厚幣 へりくだった言葉を使い、多くの贈り物を用意する。「辞」は言葉遣い、「幣」は賢者への贈り物。
 - L5 郭隗 燕の人。この故事で有名な人物であり、他の事跡は不詳。
 - L5 孤 王侯の謙称。春秋時代、王侯の自
- 127ページ
 - L1 可者 ふさわしい人物。ここでは、ともに国政を執るに足る人物。
 - L7 視 示せ。推挙してほしい。「視」はこの場合「示」の意。
 - L7 先王之恥 先の王、つまり昭王の父、喩が、斉に攻め入られて殺害されたという恥辱。
 - L7 雪 すすぐ。(恥を)除き去る。「雪辱」の「雪」。
 - L6 賢士 「賢者」に同じ。賢人。
 - L6 誠 なんととしても。是非とも。
 - L7 与共国 国政を一緒に行う。「与共」は「一緒に」の意。「与共」は二字続けて「とも」ともニス」とも読む。その場合「国を共にし」となる。
 - L7 雪 すすぐ。(恥を)除き去る。「雪辱」の「雪」。
 - L7 先王之恥 先の王、つまり昭王の父、喩が、斉に攻め入られて殺害されたという恥辱。
 - L7 視 示せ。推挙してほしい。「視」はこの場合「示」の意。

脚問・発問

- 126ページ
 - 問 昭王が賢人を招こうとしたのはどういう思いからか。
 - 答 斉に敗北した燕は小国で、このままでは斉に仕返しをすることができないため、賢人を招いてその教えを仰ぎ、ともに国政を行うことで挽回をはかり、先君の雪辱を果たそうという思い。
 - (解説) 燕が斉に敗れ、先君を殺されていること、小国であることなどに留意すること。
 - 問 「先生」(7行)とはここでは誰のことか。
 - 答 郭隗のこと。
 - (解説) 「先生」は有徳の年長者や学問を教える人への尊称。いずれにせよ尊称であり、昭王の郭隗に対するへりくだった姿勢が示されている。
- 127ページ
 - 問 「得身事之」(1行)を、「之」の指している内容を補って口語訳せよ。
 - 答 わが身はその人物を師として仕えることとなろう。
 - (解説) 「得」は、この場合「……することが必要」の意で、「……することとなる」などと訳す。「仕えるべきだ」「仕えたい」と思

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎教科書に掲載されている図版や写真についても解説を加えました。

◎内容理解の参考となる興味深いコラムを適宜掲載しました。

L6 宮 邸宅。先秦までは「宮」「室」は住居を意味したが、秦漢以降、「宮」は帝王の宮殿、「室」は一般の住居の意となった。
L7 士争趨燕 (天下の賢人たちは競って燕にやってきました。「争」は「先を争って」。「趨」は「おもむく」と読み、「やってくる」の意。漢語「趨参」の「趨」。

*句法
[A]且[B]。況[C]乎 [A]でさえ[B]である。まして[C]ならなおさら[B]だ。(抑揚)
[A]於[B] [B]よりも[A] (だ)。(比較)
豈[A]哉 どうして[A] (しよう)か、いや[A] (し)ない。(反語)

句法に留意して口語訳せよ。

〔訳〕まして魏より優れた(千里の名馬のよう)な人物が、どうして千里(の道のり)が遠い(といつて来ない)ことがありましようか(いや、やってきます)。
〔解説〕抑揚の「況……乎」、比較の「[A]於[B]」、反語の「豈……哉」に留意して訳す。
〔問〕郭隗の策が功を奏し、「隗が燕に登用されたことを知った天下の賢人たちが、自分も燕に登用されることを期待し」たから。(解説)「争趨」という表現に、郭隗の思惑がみごとに当たり、賢士たちが自己の登用を大いに期待しているさまがよくうかがえる。隗の話は単なる詭弁ではなかったということになる。

・図版解説

●馬踏飛燕(教科書126ページ)

甘肅省で発掘された漢代のブロンズ像。馬が足で燕を踏んでおり、燕より速い駿馬であることを示している。文人政治家郭沫若によって「馬踏飛燕」と命名されたという。甘肅省博物館蔵(シーピー・フォト提供)。

131 教科書 [p.126~p.127]

コラム
蘇秦の弟も語った「駿馬」のたとえ話
「学習指導のポイント」にも記したが、縦横家蘇秦は、合従策をもつてよく知られている。その蘇秦の弟蘇代も遊説家であり、斉を利するため、策謀によって燕の君主を退位させるなど、まさにこの時代に斉と燕の間で活躍していた。この蘇代も名馬のたとえ話を用いている。
隗が燕の国王であった頃、蘇代は燕のために斉に遊説に行った。斉王に会えなかったたので、王家の入り婿の淳于髡(こ)以下のように自分を売り込んだ。
「ある人が駿馬を市場で売っていたが、三日たっても売れない。そこで伯楽(馬

のよしあしを見抜く人)の所へ行き、「どうか、市場で私の馬の周りを回ってじっと見て、去りぎわに(もの惜しげに)また私の馬を見つめてほしい。そうしたら市に払う一日分の税の額をあなたにやろう」と頼んだ。伯楽が言われた通りにすると、一日で馬の値は十倍に跳ね上がったという。どうか伯楽になつて私を王に薦めてくれれば、お礼はたんまりしますよ。」(『戦国策』による)
戦国期、名馬は諸侯王の間で必需品だったので、このようなたとえ話は多くなされたのである。

◎採録教材の主題や、関連する章段や作品への言及など、教材への理解を深める内容を掲載しました。

133 教科書 [p.126~p.127]

●鑑賞
「戦国の七雄」の中にあっても、他国に比べ燕はさほど強くはなかった。まして当時、君主の隗が、斉に肩入れした遊説家蘇代の策謀にかかって王権を宰相に譲るに至り、内政は混乱をきわめ、斉に攻撃されて隗が殺されるといふ、悲惨な敗北を喫していた。この話の冒頭の部分は、代わって即位した太子平(昭王)が、善政を心がけて起死回生をはかろうとしている様子を簡潔に描いている。郭隗に語りかけるその言葉には、身を低くしつつ、挽回を切望する名君の姿が確かに浮かび上がってこよう。郭隗の言に納得し、彼を厚くもてなして師事する後段の姿も同様である。「研究・発展 参考資料1」に示すが、燕はこの昭王の代に、魏から名将楽毅を、斉から陰陽家の騶衍を、趙から軍略家劇辛を迎えるなど、王の願い通りに賢士を招致することに成功、彼らの活躍によって国を強くし、諸国と同盟して斉を敗北させるに至るのである。
郭隗は千里の馬のたとえ話をしているが、『戦国策』によれば、先に蘇代が燕のために合従策を斉に説きに行った際、自己を斉王に売り込むために駿馬と伯楽のたとえを用いている(コラム「蘇秦の弟も語った『駿馬』のたとえ話」参照)。名馬のたとえ話は当時よく用いられたのである。
郭隗の、たとえ話を聞いた弁舌は、自分を「死馬の骨」として卑下することで、自分の登用こそが千里の馬たる賢士を招致する起爆剤となる説くものである。逆説を用いた実に巧みな売り込みでもあった。しかしこれ以降、燕は賢士の招致に成功し、斉への仕返しをも成し遂げるのであるから、郭隗の言は単なる売り込みのための詭弁ではなかったということになる。

●参考

教科書掲載部分のあとに、招致された楽毅らの活躍と、昭王亡きあとの顛末が示されているので、以下に引く。

楽毅自魏往。以為二亜卿、任三国政。已而使毅伐齐。入臨淄、齐王出走。毅乘勝、六月之間、下二齐七十余城。惟莒即墨、昭王卒、惠王立。惠王為二太子、已不快於毅。田單乃縱二反間曰、「毅与三新王有隙、不敢歸、以伐齐為名。齐人惟恐二他将来、即墨残矣。」惠王果疑毅、乃使二騎劫代将、而召毅。毅奔趙。田單遂得破燕、而復二齐城。

【書き下し文】

楽毅は魏より往く。以て亜卿と為し、国政を任ず。已にして毅をして斉を伐たしむ。臨淄に入り、齐王出で走る。毅勝ちに乗じ、六月の間に、斉の七十余城を下す。惟莒と即墨とのみ下らず。昭王卒し、惠王立つ。惠王太子たりしとき、已に毅に快からず。田單乃ち反間を縱ちて曰はく、「毅新王と隙有り、敢へて帰らず、斉を伐つを以て名と為す。齐人惟他将の来たりて、即墨の残せられんことを恐る。」と。惠王果たして毅を疑ひ、乃ち騎劫をして代はりて將たらしめ、而して毅を召す。毅趙に奔る。田單遂に燕を破りて、斉の城を復するを得たり。

【口語訳】

楽毅は魏から燕に赴いた。(昭王は彼を)二番家老とし、国政をゆだねた。やがて毅に斉を討伐させた。(毅は斉の都)臨淄に入城した。齐王は(都から)出奔した。毅は勝利に乗じて、六か月の間に、斉の七

付属DVD-ROM ワークシート

◆構成・内容理解シート
教材文の構成や内容を、表や図に整理して理解するためのワークシートです。

このワークシートは、教科書の構成や内容を整理するためのものです。図表形式で、各段落の主旨や登場人物の役割、そして各部分の相互関係を明確に示しています。例えば、「水の東西」の比較表や、「ある人、司射のことを習ふに」の登場人物の対話の整理などが含まれています。

◆語句・漢字学習シート
教科書の脚注欄に示した語句や漢字について、意味や文法事項を調べ、確認するワークシートです。

◆語句・漢字学習シート
教科書の脚注欄に示した語句や漢字について、意味や文法事項を調べ、確認するワークシートです。

このシートは、教科書の脚注欄にある語句や漢字を学習するためのものです。品詞、意味、活用などの項目を記入し、理解を深めることができます。例として、「水」の品詞が「名詞」、意味が「液体」など、具体的な学習内容が示されています。

*その他、古文教材の品詞分解を書き込むための「古文品詞分解シート」、漢文教材の書き下し文を抽出した「漢文書き下し文シート」、古典教材の口語訳を抽出した「古典口語訳シート」を収録しています。

付属DVD-ROM 基本テスト

基本テスト

6 水の東西 ①

33 ある人、司射のことを習ふに

この基本テストは、付属DVD-ROMに含まれる練習問題です。各問題には、漢字の読み仮名や意味、文法の知識を問う問題が含まれています。例えば、「水の東西」では、水の種類や性質に関する問題が出題されています。

短時間で基礎を養う小テストです。現代文では漢字や語句、古文では文法、漢文では句法などについて出題します。

付属DVD-ROM 評価問題集

評価問題集

先従開始

この評価問題集は、学習者の理解度を評価するためのものです。古文や漢文の文章を読み、その内容や文法について問題を解くことで、学習成果を確認することができます。問題の難易度は、学習者のレベルに合わせて設定されています。

定期考査などに使える問題を、各教材、難易度別に複数収録しています。長文の教材は出題箇所を変えるなど、重要なポイントを網羅します。解答に加え、丁寧な解説も付しています。

- ◆原文集
教科書教材文の原文データです。
- ◆発問例集
指導資料に掲載した発問をまとめたデータです。

朗読CD

一部の教材について、朗読を収録した音声CDです。

◆収録教材例

- 日本語の響き
 - 〈現代文編〉
 - 羅生門
 - 旅上
 - サーカス
 - I was born
 - 崖
 - 〈古典編〉
 - 伊勢物語
 - 漢詩
 - 芥川／筒井筒
 - 春暁／静夜思／江雪／送元二使安西／
 - 黄鶴楼送孟浩然之広陵／涼州詞／春望／
 - 登岳陽楼／香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁
- ※その他、学習に役立つさまざまな音声も収録予定です。

三 付属(二) 水の音 山田正和(著) P.46・P.51 捨

漢字・語句を確認しよう。

一次の「無数の蓮子の実をむらがる」を書きなさい。

- ① 水受けが漏る
- ② 全一週別
- ③ 時を刻
- ④ 庭の樹葉
- ⑤ 朝
- ⑥ 表紙に返
- ⑦ 守備の問題
- ⑧ 行きの朝

二次の「縁部のカタカナを漢字に直しなさい。」

- ① シーン
- ② くらりとカタ
- ③ 三
- ④ オレ
- ⑤ 音を響とる
- ⑥ 水を列
- ⑦ 庭を列
- ⑧ 列
- ⑨ オオ
- ⑩ 蓮葉をかいて

三次の語句の意味やなごころを答えなさい。

- ① 愛嬌
- ② 徒勞
- ③ 慶向
- ④ 感性
- ⑤ 間際

文章の理解を深めよう。

1 「蓮おどじ」と「噴水」を比較して考えよう。

2 「おんどくもつた優しい音」(46頁)を、①別の表現で表した言葉を、②から④まで抜き出しながら、⑤これはどういうことを強調するか、本文中で抜き出さない。

3 「それ」(46・10)とは、何を指しているか。本文中から文字で抜き出しなさい。

4 「流れる水と、噴き上げる水」(47・9)とは、それぞれ具体的に何を指しているか。抜き出さない。

5 「スズ家の別荘の噴水の田舎を眺めた」(本文)から抜き出し、初めはなごころを。

6 「時間的な水と、空間的な水」(49・4)とは、それぞれ具体的に何を指しているか。時間的な水、空間的な水。

7 「蓮おどじ」と「噴水」の違いを説明した次の文章の空欄に、あはまる言葉を選び、記号で答えなさい。

「蓮おどじ」は、それが何(1)によって、人(2)を感じさせる。ア 趣向を凝らした造形 イ 単純に流れるもの ウ 直線空間 エ 単純に綿やかなリズム

別売の『学習課題ノート』の内容を自由に加工できるデータで収録しています。



明解国語総合 [改訂版]

- 指導資料 現代文教材……………52
- 指導資料 表現教材……………64
- 指導資料 古文教材……………70
- 指導資料 漢文教材……………78
- 指導資料 資料編……………82
- 付属DVD-ROM収録教材……………84

小説三 羅生門

◆芥川龍之介

教材採録の意図

●採録のねらい

恐らく戦後、これほど高校生に読まれてきた小説はないであろう。今の高
校生の親の世代もほとんどが授業で読んだ経験をもっているはずである。
しかし、社会の混乱の極限状況において、「盗み」という悪を生活のために
は許容する、といった反倫理的とも思えるこの作品が、なぜこれほどまでに
長い命を保ってきたのであろうか。

「羅生門」の主人公である「下人」は、家も仕事もお金も恋人も友人も、何
ももたず、ただ「太刀」だけを持たされ、永年勤めた主人から解雇された。
その「下人」が「羅生門」の楼上で老婆と出会い、「下人」は刃を突きつけて
老婆の行動の意味を問う。何ももたない「下人」が執拗に問い続けるのは、
「意味」である。死体の髪を抜く老婆は、「生きるためにはしかたがない
こと。」と答える。そして「この女も、大目に見てくれるであらう。」という弱
者同士の相互許容の論理。「下人」は冷やかな侮蔑をもって老婆の着物をは
ぎ取り、京の町の混沌へと向かって夜の闇の中へと駆け下りる。「下人」は老
婆の言葉によって、それほど憎悪した老婆そのものに生まれ変わった。それ
は歪んだ形とはいえ、少年である下人にとっては、大人になるための、社会
に出て行くための通過儀礼であったのだ。

戦後ヒューマニズムの世界で、「人間性」が称揚される一方、「人間性」や
「善悪」自体を瓦解させ、問い返す「羅生門」的世界、いやそれをも凌ぐ修羅
の世界は、第二次世界大戦の終結の後でも消えることはない。戦争、核、テ
ロ、民族紛争、あるいは「いじめ」「虐待」の横行と、むしろ日常が「羅生

門」化しているとさえ言えるかもしれない。そういう意味で「羅生門」は現
代の私たちにも強く訴える力を持っている。

「羅生門」を、すべてを失った若者が、人間性や人間社会の「意味」を問い
返す現代の物語として、また私たち自身の変革の物語として読みたい。「下
人」の心のありようを読み解いていけば、作品に描かれた、荒廃した「羅生
門」の姿は、現代日本の都市の中核に、大きく影のように浮かび上がって来
るであろう。

●学習のねらい

- ・ 追いつめられた状況の中で、人間の考え方や心の動きについて考える。
- ・ 場面の推移や比喩表現に注意しながら、主人公の心理の移り変わりを捉え
る。
- ・ 主人公である「下人」がどういう境遇に置かれているのか、どのような時
代に生きているのかなど、「下人」がある考え方に至り、行動へと赴く上での
基本的な情報を文章からの確に読み取り、深い理解へとつなげていく。

●学習指導のポイント

- ・ 場面の推移に従い、登場人物の心情や行動がどのような表現で描かれてい
るか、理解する。
- ・ 描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、場面の推移や人物の
心理の変化を把握するとともに、ここに描かれている人物や状況が意味す
るものは何か、理解する。
- ・ 文章の構成を捉え、比喩などの表現技巧を文脈の中で理解する。

◎作者(筆者)の肩書き・業績・作風・著作などについて解説しました。
適宜略年譜も掲載しました。

教材文の概要

●作者

芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)
小説家。一八九二(明治二五)年、三月一日、東京都の生まれ。辰辰辰月
辰日の辰の刻生まれになんで龍之介と命名された。父四十二歳、母三十三
歳の大厄の子のため、旧習に従い、形だけの捨て子にされた。生後八か
月ごろ、生母ふくが突然発狂したため、母方の実家、芥川家に引き取られ、
のち、養子となった。芥川家は下町的な旧家で、家族全員が文学や美術を好
んだ。江東小学校、府立第三中学校を経て、成績優秀により、無試験で第一
高等学校に入学。同級には久米正雄・菊池寛・山本有三・松岡譲・土屋文明・
恒藤恭などがあり、後の文学仲間との出会いともなった。

一九一三(大正二)年、東京帝国大学英文科に入学。久米・菊池らと親交
を結び、翌年、第三次「新思潮」を創刊。処女作「老年」、戯曲「青年と死」
などを発表。一九一五年十一月、「帝国文学」に「羅生門」を発表したが、文
壇の注目を浴びるにはいたらなかった。翌年、第四次「新思潮」を創刊。そ
れに載せた「鼻」が夏目漱石に激賞された。また、同年、「芋粥」「手巾」を
中央の雑誌に発表、新進作家としての地位が確立された。翌年五月、第一短
編集『羅生門』が刊行される。

一九一八(大正七)年、塚本文と結婚。翌年には大阪毎日新聞に入社し、

「下人」や「老婆」が置かれた状況を、描かれた時代や社会状況の具体的
な叙述から捉え、主人公たちの行為の意味を読み解かせる。
また、比喩や文章の技巧がもたらしている効果や、物語の始まりから結
末にいたる時間的な構成や空間的な構造が表現しているものについても感
じ取らせたい。

小説を連載、田端の住居の書齋を「我鬼窟」と号して文筆生活に入る。一九
一九(大正八)年刊行の短篇集「傀儡師」に「奉教人の死」「地獄変」などが
取められた。このころから短篇作家としての評価が定着、人気作家となる。
一九二〇(大正九)年、『影燈籠』、翌年『夜来の花』を刊行。一方大阪毎日
新聞の海外視察員として中国を旅行したが、このころには文壇の名声とは裏
腹に、かなりの疲労と倦怠に追いこまれ、苦悩の日々を送っていた。こうし
た中であって、「秋」「舞踏会」「藪の中」などを発表。

一九二七(昭和二)年、義兄の放火嫌疑による自殺の事後処理に奔走し、
神経衰弱はますます悪化する。そんな中で、彼は最後の力を振り絞って「玄
鶴山房」「河童」「歯車」などを執筆。また、聖書に接近し、「西方の人」およ
び絶筆となった「続西方の人」と、独創的なイェス論を発表した。同年七月
二十四日、田端の自宅で睡眠剤の致死量を仰いで自殺。享年三十五歳であつ
た。

(略年譜は307ページ参照。)

●出典

『芥川龍之介全集 第二巻』(一九七七年・岩波書店)による。
初出は雑誌「帝国文学」(一九一五年十一月号)で、その後、第一短編集
『羅生門』(一九一七年・阿蘭陀書房)に収録の際、改訂が施され、さらに「新
興文藝叢書第八編 鼻」(一九二〇年・春陽堂)に採録されるにあたって末尾

◎教科書採録本文の出典を示しました。書名・発行年・
出版社に加え、必要に応じて解説を加えました。

小説三 羅生門 260

の一文等が改訂され、現行の形となった。教科書掲載にあたり、表記の統一のために一部表記の変更を行ったほかには、原文との異同はない。

●小・中学校教科書での取扱い
芥川の作品は、小中学校の教科書では次のものが採録されている。
〔小学校〕
平成23年度版俳句……東京書籍3年下、教育出版3年下
〔中学校〕
平成18年度版「トロッコ」……三省堂1年
東京書籍3年
平成24年度版「トロッコ」……三省堂1年、東京書籍1年、教育出版1年
「蜘蛛の糸」……教育出版1年
「少年―海」……学校図書3年

●大意

〔二〇〇字〕
平安末のある日の暮れ方、荒れ果てた羅生門の下で、暇を出された一人の下人が、雨やみを待ちながら、どうにもならない明日の生活を思っ
て途方に暮れていた。ともかく夜を明かそうと楼へ上った下人は、そこ
で死体の髪を抜く老婆と出会う。老婆をねじ倒した下人はその行為
の意味を問いただが、「生活のためにはしかたがない。」と答える老婆
に「きつと、そうか。」と念を押すと、老婆の着物をはぎ取り、夜の闇の
中へ逃走した。（二〇〇字）

〔二〇〇字〕
平安末のある日の暮れ方、荒れ果てた羅生門で夜を明かそうとした一
人下人は、楼上で死体の髪を抜く老婆と会う。老婆をねじ倒した
下人は、老婆の言葉を聞いた後、その着物をはぎ取って夜の闇の中へと
逃走した。（二〇〇字）

●主題についての考察

「羅生門」は幅狭したコードからなる多義的な意味を包含するテキストであ
り、それぞれの読者の読みによって全く異なる世界が開けてくる。したがっ
てその「主題」や「意味内容」に関しては諸説ある。
古くは「下人の心理の推移を主題とし、あわせて生きんがために、各人各
様に持たざるを得ぬエゴイズムをあげている。」とした吉田精一説がある
が、三好行雄はそれを進めて「エゴイズムなどという概念では決して律しき
れない――日常的な救済をすべて断られた存在悪のかたち」を下人の姿に見、
それを「人間存在そのものが永遠に担いつづけなければならぬ痛み」である
とした。「人間内部における矛盾の並存という命題」によって書かれたとする
駒尺喜美の説。そして闇に消えていく下人にむしる積極的な意味を見出し、
「己を緊縛するものからの解放の叫び」に主題を見る関口安義の見方もある。
結末部分で作者が行った改稿もまた読みに大きな影響を与えており、その是
非に關してもさまざまな見解がある。吉田俊彦は、上記の関口の説を踏まえ、
初稿における結末部の「京都の町へ強盗を働きに急ぐ下人の姿の中に『他
者中心』の抑圧体制からの人間解放」を指す作者の意気込みを見、しかし
それを、「下人の行方は誰も知らない」と改稿せざるを得なかった芥川の中に
「底知れない存在不安」を克服しえなかった闇を見いだしている。また新しく
は、「語り手」（書き手）に注目し、「下人の行方はだれも知らない」と改稿さ
れた結末部において、「語り手」が、sentimentalismeを振り捨て、荒ぶる世

◎同じ作者の作品が小中学校の教科書でどのように扱われているかを解説しました。

◎小説教材には、作品の「主題」についての考え方や方向性を示しました。

◎文体や修辞など、作品の表現上の特色を解説しました。

◎字数制限を付加して、大意（要旨）を掲載しました。字数制限は、二〇〇字・一〇〇字を原則としました。

せない自由な読みが保証される必要がある。

●表現の特色

1 構成
羅生門の下で途方にくれていた主人公である下人が、羅生門の楼の上で老
婆と出会い、それを契機にまた、楼から駆け下りて闇の中へと消えていく。
羅生門の楼上という異空間（境界）を通過することで姿貌を遂げる下人の姿
を、①門の下→②楼の上→③門の外という場の転換によって描き出している。
2 比喩
下人の姿貌を決定づける「老婆」を中心に、「猿の親が猿の子のしらみを

取るように」「肉食鳥のような、鋭い目」「からすの鳴くような声」「簀のつ
ぶやくような声」など、気味の悪い動物の直喩を多用することにより、極限
状況の中で理性や人間性を失い、まさに獣のように生きるしかない人間の生
のありようを、読者の感性に直接的に訴えかけている。
また、この作品では直喩、暗喩、擬人法以外にも、提喩、換喩等、多様な
比喩表現に特色がある。
3 心象風景
「門の上の空が、夕焼けで赤くなる時には、それ（からす）がごまをまい
たように、はつきり見えた。」のように、血のような夕焼けの赤と死骸をね

●全体の構成 段落分けと大意（場面から四段落に分けた場合）

段落	ページ・行	大意
第一段	はじめ～175・4 「下の段へ踏みかけた。」	●羅生門の下で途方にくれる下人 平安時代末期の、ある日の暮れ方、一人の暇を出された下人が羅生門の下で雨やみを待っていた。途方にくれた下人は、羅生門に一夜の宿を借りようと楼の上へ上るはしごに足をかけた。
第二段	175・5「それから、何分かの」～178・8「忘れていたのである。」	●羅生門の上で、下人は老婆と出会う はしごを上った下人は、楼の上に一人の老婆を見つめる。死人の髪を抜く老婆の姿を憎悪し、下人はあらゆる悪に対する反感を炎のように燃え上がらせた。
第三段	178・9「そこで、下人は、」～181・11「意味のことを言った。」	●下人は老婆を問いただし、その弁明を聞く 老婆をねじ倒した下人は、太刀を突きつけ、髪の毛を抜いていた理由を問いた。老婆は「かつらを作るのじゃ、そしてこれも「生きるためにはしかたがないこと」と弁明する。
第四段	181・12「下人は、太刀を」～終わり	●下人は決断し、夜の闇に消えていく 下人は老婆の話を聞き終わると、「きつと、そうか。」と嘲るように念を押し、老婆の着物を剥ぎ取り、蹴倒して夜の闇の中へと消えていく。

◎教材全文を意味上の段落に分けて表組みで示し、段落ごとに大意（要旨）をまとめ、小見出しをつけました。

◎時間・目標・学習内容と指導内容・指導上の留意点を、指導の実際に即して表組みで示しました。

時間	目標	学習活動と指導内容	指導上の留意点	評価
第1時限	①興味を喚起する。 ②この小説のおおまかなイメージと話の流れをつかむ。 ③この小説の構成と設定を確認する。	◆導入 1 芥川龍之介の作品および作者に関して知る。 2 全文を通読する。 3 通読は教室の表情に応じて、音読(授業者・朗読CD等)、黙読で行う。 展開1 1 全文を通読する。 2 通読は教室の表情に応じて、音読(授業者・朗読CD等)、黙読で行う。 3 この小説の構成を確認する。 4 この小説の設定を確認する。 【学びの道しるべ1】 この物語の舞台となっている時代・社会の状況を把握し、主人公である下人がその中でどういう状態に置かれているのかを読み取り、整理する。 時代/場所/様子/季節/時間/天気など	1 中学までに知っている作品(「蜘蛛の糸」「トロロコ」など)があれば挙げさせ、解説を加える。 2 通読に際しては、この小説の構成と、設定(いつ・どこで・誰が)に注意しながら読むように指示しておく。 3 生徒に答えさせる場合には、必ず根拠が文中のどこにあるのかを指摘させるようにする。	①
第2時限	①主人公のおかれている状況とその思いをつかむ。	展開2 1 第一段(初め〜175・4)の読解(門の下) 2 音読する。 3 羅生門の下で雨やみを待つ下人が置かれている状況とその思いについて考える。	1 音読の前に本時の目標を生徒に提示し、注意して読むように指示をする。 2 「盗人になる」という悪に対して「勇氣」という言葉を使うことに疑問を持つ生徒がいるだろう。しかしこの下人が生きていくためには他にどういう選択肢があるのかを考えながら、今後の読解を進めていくようにさせる。	① ③

◎学習指導案例(授業時間5時間の例)

※評価の番号は、「◎学習目標と評価」の番号と対応しています。

指導上の留意点

評価

◎学習展開例

第一時限

【本時の目標】

- ①興味を喚起する。
- ②この小説のおおまかなイメージと話の流れをつかむ。
- ③この小説の構成と設定を確認する。

【学習活動と指導内容】

◆導入

1 芥川龍之介の作品および作者について知る。作者の略歴及び主要作品については「教材文の概要」「◎作者」の項参照。
 また、小・中学校で学習した可能性のある教材は、「蜘蛛の糸」(小学校3年)「仙人」(小学校6年)「トロロコ」(中学校1年)がある。詳しくは「◎小・中学校教科書での取扱」の項参照。
 【留意点】
 ・中学までに知っている作品があれば挙げさせ、解説を加える。

◆展開1

1 全文を通読する。
 通読は教室の表情に応じて、音読(授業者・音読テープ等)、黙読で行う。
 【留意点】
 通読に際しては、この小説の構成と、設定(いつ・どこで・誰が)に注意しながら読むように指

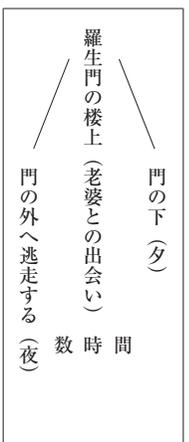
示しておく。

2 この小説の構成を確認する。

ここではおおまかな構成を確認する。

場面から考えると、

羅生門の下で雨やみを待っていた下人が、楼の上へ上って老婆と出会い、争いの後、また楼を駆け下りて夜の町へと逃走する。羅生門の楼の上で老婆との出会いをクライマックスとし、門の外↓門の上↓門の外の三つの場面から成る。



段落分けの場合は、色々な切り方が考えられるので、場面から四段、内容から六段など、指示を出して考えさせた方が良いでしょう。「全体の構成・段落分けと大意」の項参照。
 3 この小説の設定を確認する。

この物語の舞台となっている時代・社会の状況を把握し、主人公である下人がその中でどういう状態に置かれているのかを読みとる。
 (1)いつ・どこで・誰が
 ・「学びの道しるべ1」の内容を学習する。

1 次の観点に従って、物語の設定を捉えよ

*解答の詳細は「『学びの道しるべ』の解答例・解説」の項を参照。
 【留意点】
 授業者の問いに対して生徒に答えさせる場合には、必ず根拠が文中のどこにあるのかを指摘させるようにする。

①いつ
 ・時代
 ・時刻
 ②どこ
 ・下人のおおよその年齢
 ・下人の仕事
 ・下人のおかれている立場

問 これはいつの時代の話か。
 答 平安時代末期
 解説 「平安朝の下人(173・6)」から平安時代であると分かる。また、「浴中のさびれ方はひととおりではない。」(170・7)やその他の荒廃した都の描写から、貴族政治が終末を迎えようとする、平安朝の末期がこの物語の舞台であることが分かる。

問 季節はいつか。
 答 晩秋
 解説 根拠は、「さきぎりす」(170・3) (174・11)

◎授業の進め方の一つの例として、時間ごとの学習活動と指導内容を、発問例・板書例を取り入れながら具体的に記述しました。

◎発展的に読んだり、比べ読みしたりできる資料を収録しました。

小説三 羅生門 278

●生徒のための参考資料

『今昔物語集』原文

「羅生門」は、『今昔物語集』巻二十九および巻第三十一を典拠として書かれている。以下にその全文を採録する。

巻二十九 羅城門登り見死人盗人語第十八

今は昔、摂津の国の辺りより盗みせむがために京に上りける男の、日の未だ明かりければ、羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀の方に人重く歩きければ、人の静まるまでと思ひて、門の下に待ち立てりけるに、山城の方より人どものあまた来たりける音のしければ、それに見えじと思ひて、門の上層にやはら揺つり登りたりけるに、見れば、火ほのかにともしたり。

盗人「怪し」と思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の死にて臥したるあり。その枕上に火をともし、年いみじく老いたる嬪の白髪白きが、その死人の枕上にて、死人の髪をかなぐり抜き取るなりけり。

盗人これを見るに、心も得ねば、「これはもし鬼にやあらむ」と思ひて怖ろしけれども、「もし死人にてもぞある。おどして試みむ」と思ひて、やはら戸を開けて、刀を抜きて、「己は己は」と言ひて走り寄りければ、嬪手迷ひをして、手をすりて迷へば、盗人「こは何ぞの嬪のかくはしむるぞ」と問ひければ、嬪「己が主にておはしましつる人の失せたまへるを、あつかふ人のなれば、かくて置きたてまつりたるなり。その御髪みかみの丈たけに余りて長ければ、それを抜き取りて髪にせむとて抜くなり。助けたまへ」と言ひければ、盗人、死人の着たる衣と嬪の着たる衣と抜き取りてある髪とを奪ひ取りて、下り走りて逃げ去りにけり。

さて、その上の層には死人の骸骨がいきつぞ多かりける。死にたる人の葬はらひなどえせぬをば、この門の上にぞ置きける。

この事はその盗人の人に語りけるを聞き継ぎてかく語り伝へたとや。

巻第三十一 大刀帯陣売魚嬪語第三十一

今は昔、三条の院の天皇の春宮にておはししける時に、大刀帯の陣に常に来たりて魚売の女ありけり。大刀帯どもこれを買はせて食ふに、味はひのむまかりければ、これを役ともてなして菜なの料ちゆうに好みけり。干したる魚の切れ切れなるにてなむありける。

しかる間、八月ばかりに大刀帯ども小鷹狩こたかがに北野に出でて遊びけるに、この魚売りの女出で来たり。大刀帯ども女の顔を見知りたれば、「こやつは野には何態なまじするにあらむ」と思ひて、馳はせ寄りて見れば、女大きやかなる籬しだみを持ちたり。また楚せ一筋ひとすぢを捧たかげて持ちたり。この女、大刀帯どもを見て、怪しく逃目にげめを仕つかひてただ騒さわぎに騒さわぐ。大刀帯の従したがひの者ども寄りて、「女の持ちたる籬には何の入りたるぞ」と見むとするに、女惜おししむで見せぬを、怪しがりて引き奪さらひて見れば、蛇へびを四寸ばかりに切りつつ入れたり。あさましく思ひて、「こは何の料ぞ」と問へども、女さらに答ふる事なくして立てり。早う、この奴のしける様は、楚をもつて藪くさくを驚かしつつ、はひ出づる蛇を打ち殺して切りつつ、家に持て行きて、塩しほを付けて干して売りけるなりけり。大刀帯どもそれを知らずして、買はせて役と食ひけるなりけり。

これと思ふに、蛇は食ひつる人悪しと言ふに、何ど蛇の毒せぬ。

しかれば、その体てい確たつかになくて切れ切れならむ魚売らむをば広量ひろりやうに買ひて食はむ事は止むべし、となむこれを聞く人言ひあつかひける、となむ語り伝へたとや。

いづれも『新編日本古典文学全集 今昔物語集④』馬淵和夫・国東文磨・稲垣泰一校注・訳（小学館・二〇〇二年）によった。ただし、表記の統一のために、表記の変更を行った。

◎教科書の脚注の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

279 教科書 [p.170~p.185]

語句・文脈の解説

170ページ

●第一段（初め〜175・4）の大意

羅生門の下で途方にくれる下人

平安時代末期の、ある日の暮れ方、一人の暇を出された下人が羅生門の下で雨やみを待っていた。途方にくれた下人は、羅生門に一夜の宿を借りようと樓の上へ登るはしこに足をかけた。

1 ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。物語性をもった起句である。「ある日」と日を特定せずに入る。読者の想像をかき立てるとともに、短いセンテンスの中に「いつ・どこで・だれが」の最低限の情報提示されている。芥川あらいの作品には、「蜜柑」「杜子春」「神神の微笑」など、夕暮れの設定から入るものが多い。

1 下人 身分の低い者。貴族などに仕えて種々の雑役にあたった者。また「日本国語大辞典（小学館）」によると「平安以後の隷属民。荘園の地主・荘官や地頭などに隷属して、家事、農業、軍事など主家の雑役につかれ、財産として土地といっしょに、あるいは別々に売買賃入や譲渡の対象となった。」とある。この作品の「下人」も、まだ若いのに暇を出されるまで「永年、

使われていた」（173・3）こと、帰る家もないことなどを考えると、人身売買で売られてきたとも考えることができる。原典である『今昔物語集』では「盗セムガ為ニ京ニ上ケル男」とあり、また、下書きノートや推移稿では「交野（の）平六」と固有名詞になっていたのを、最終稿で「下人」とした点に、結末部分の改稿と並んで、作者の意図が感じ取れる。また、太刀を持っていたところから、貴族や豪族等の警護にあたった侍とも考えられる。詳しくは本書309ページ「研究・発展」の「下人とは？」の項参照。

1 羅生門（注）「平安京の正門。羅城門。」本来は「羅城門」と表記したが、江戸時代以降「羅生門」も使われるようになった。「羅城」とは古代中国の都を囲んでいた外郭のこと。平安京には羅城は築かれなかった。「平安京復元模型」（171ページ）参照。

2 丹（注）「朱色の塗料」「丹塗り」とは赤色の顔料である丹または朱で塗ってあること。丹は鉛に硫黄と硝石を加えて焼いてつくったもの。朱は辰砂として産し、成分は硫化水銀。

3 きりぎりす 原文は「蟋蟀」とあり、古語では「こおろぎ」を意味しているが、柱に止まっている点、習性から今言う「きりぎりす」に解するのが自然だろう。無人の強調、周囲が寂れている

発問

170ページ

問 最初の一行「ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。」で提示されている4W（いつ・だれが・どこで・なにを）を指摘しよう。

答 いつ ある日の暮れ方

だれが 一人の下人が

どこで 羅生門の下で

なにを 雨やみを待っていた

問 「羅生門が、朱雀大路にある以上は：市女笠や搦烏帽子が、もう二、三人はありそうなのである。」（3）とあるが、どういうことか。

答 「市女笠や搦烏帽子」（4）とはここでは「この男（下人）の外にも」と下人と同列に扱われているので、貴族などではなく、一般の女と男のことを比喩（提喩）として言っていると考えられる。「もう二、三人はありそう」なのは、羅生門が平安京のメインストリートである朱雀大路にある以上は、本来ならもっと賑わっているはずだからである。

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎各教材末にある「学びの道しるべ」のねらいを示し、解答例と詳しい解説を示しました。

「学びの道しるべ」の解答例・解説

●追いつめられた状況の中で、人間の考え方や心の動きについて考える。●場面の推移や比喩表現に注意しながら、主人公の心理の移り変わりを捉える。

1 次の観点に従って、物語の設定を捉えよう。

- ①いつ 時代・季節・時刻
②どこで 下人のおおよその年齢、下人の仕事、下人のおかれている立場

【ねらい】文章を通読し、物語の大枠をとらえる。

【解答例】

①いつ 時代：平安時代 季節：晩秋

時刻：夕方から夜までの数時間

②どこで 京都 朱雀大路の入り口にある羅生門の下と楼上

③誰が 下人のおおよその年齢

下人の仕事 十代後半くらい

下人の置かれている立場 貴族か豪族に雇われ、雑事や警護などを担当した使用人。

永年使われていた主人から暇を出され、行き所もなく、明日の暮らしの目途も立たずに途方に暮れている。

2 次の場面における下人の心理はそれぞれどのようなものか、まとめよう。

①「死骸の中にうずくまっている人間を見た。」(176・14)

②「すると、老婆は、……抜き始めた。」(177・6)

③「老婆を突き放すと、……目の前へ突きつけた。」(179・6)

【ねらい】重要な場面における主人公の心理をとらえ、その移り変わりを捉える。

【解答例】

①「六分の恐怖と四分の好奇心」(177・4)とあるように、恐怖とともに、老婆に対する好奇心もあった。

②恐怖がすこしずつ消えていき、同時に、この老婆に対する激しい憎悪が芽生えた。そしてそれは悪に対する反感として、炎のように燃え上がった。

③老婆の生死を支配しているという意識から、燃え上がった憎悪を冷まし、ある仕事をなしたげた安らかな得意と満足に浸っていた。

3 老婆は、「死人の髪の毛を抜く」(180・15)ことをどう思っているか、また、その理由をどのように言っているか、まとめよう。

◎理由は二点でまとめると、「わしのすることも大目に見られることである。」(181・10)と言えるのはなぜか、考える。

【ねらい】老婆の論理の要点を整理させる。

【解答例】「悪いことと思わぬ」(181・8)と言っているように、悪とは思っていない。理由は、次の二点である。

①髪を抜いていた相手の女も生きるためには自分と同じようなことをしていた。②そうしなければ飢え死にしまうのだから、仕方がない。

【解説】

老婆の言葉を、単なる自分の悪行の「言い訳」とは読まないようにさせたい。老婆は自分の行為を「悪」ではなく「生きるために」「仕方がない」と言っ

【解説】

①「時代」は、本文に「平安朝の下人」(173・6)とある。「平安朝」とは、平安時代の朝廷およびその時代のことを言う。「季節」は、「きりぎりす」が登場すること、および「夕冷えのする京都は、もう火桶が欲しいほどの寒さである。」(174・9)等の叙述から晩秋のころ。「きりぎりす」とは古語では「こおろぎ」を意味する。晩秋だとすると「きりぎりす」より「こおろぎ」の方が季節的には合うが、羅生門のはげた朱塗りの朱色ときりぎりすの緑色の対照、また、柱に止まっていて飛び去ったという様子などから考えればこは「きりぎりす」と考える方が良さそう。「時刻」は、冒頭の「暮れ方」から、楼上に上り、老婆と会って、「黒洞々たる夜」(183・5)に逃走するまでの数時間。

②文中に「京都」(170・6)とある。朱雀大路の南端にあつて京都の入り口に当たる羅生門が舞台になる。

③下人の年齢は定かではないが、「にきび」の記述と、行動の幼さなどから、十代後半くらいと推測される。「下人」は、「身分の低い者」あるいは「使用人」を意味するが、聖柄の太刀を持っていること及び主人に使われているという点から、貴族か豪族等の使用人で、警護等にも当たったのではないかと思われる。また、行く場所もなく羅生門で途方に暮れている点などから考えると、下人には帰る家もないことが分かる。「永年、使われていた主人から、暇を出された。」(173・3)とあり、幼い頃から家を離れ、働いていた下人は、紺の襖の着衣と一振りの太刀だけで、社会へと放り出されたのだ。「下人」に関しては「Ⅵ研究・発展」の項参照。

この小説で問われているのは、善か悪かの対立ではなく、極限状況において、何が善で何が悪なのか。そういう根本的な問いかけである。この状況下で、老婆が生きたるために取るべき道が他にあるのか。あきらめて死ぬしかないのか。下人にとってはどうか。具体的に考えさせたい。

4 175ページから180ページの中にある動物を使った比喩表現を全て抜き出し、それがどういうことを表しているのか、話し合おう。

◎例「やもりのように」(175・14) 「猿のような」(176・15)

【ねらい】特徴的な比喩表現を取り上げ、内容との関連を考えさせる。

【解答例】

〈抜き出し〉

「猫のように身を縮めて」(175・6)

「猿の親が猿の子のしらみを取るように」(177・7)

「鶏の脚のような骨と皮ばかりの腕」(179・3)

「まぶたの赤くなった、肉食鳥のような、鋭い目」(180・5)

「からすの鳴くような声」(180・8)

「慕のつぶやくような声」(180・13)

【解説】

話し合いの目的は、比喩などの修辭法が単なる文章の技巧ではなく、内容に関わる大切なものを表していることを感じ取って欲しいという点にある。まず、抜き出した動物の比喩を見て、どのような動物が取り上げられているのか、それらどのような印象を与えるかを整理する。

その上で、これらの比喩が、どういう意味を持っているのかを話し合わせたい。「気味が悪い」動物の比喩が多いが、この比喩は主に誰に使われているか。それはなぜか。考えさせたい。

◎時間・目標・学習内容と指導内容・指導上の留意点を、指導の実際に即して表組みで示しました。

時間	目標	学習活動と指導内容	指導上の留意点	評価
第1時限	① 授業の目的、流れを知る。 ② 本を選ぶ。 ③ 情報を整理する。(その1)	◆導入 1 学習の目的とその流れを確認する。 展開1 自分が取り上げる本を選ぶ。事前に、候補の本を持参するように指示しておき、それを持って図書室へ行き、さらに候補を探し、その上で取り上げる本を決定するように指示する。選ぶ観点は120ページ下段の□を参考とする。 2 レジユメの下書きを作成する。A4判もしくはB5判の白紙もしくは横罫の用紙に、121ページと122ページの上段□を参考にしてレジユメの下書きを作成する。	指導上の留意点 1 教科書120～121ページを音読し、この時間で何をするか具体的にわかるように指示する。 1 図書室の利用が難しい場合は、複数の候補を持参させたり、教員が候補になりそうな本を少し用意する方法もある。 2 白紙を配付しながら、本の選択について困っている生徒には、声をかけるようにする。 レジユメは手書きでよいが、条件が整い可能な場合は、パソコンで作成しプリントアウトする方法も考えられる。 また、資料を見やすくするために、表紙やキャラクターをカットとして取り入れたり、コピーを貼ることも考えられる。 ブックトークの発表時間を考慮し、必要に応じてレジユメの下書きを宿題とする。	① ⑤

◎学習指導案例(授業時間5時間の例) ※評価の番号は、「◎学習目標と評価」の番号と対応しています。

◎授業の進め方の一つの例として、時間ごとの学習活動と指導内容を具体的に記述しました。

学習指導マニュアル

第一時限

【本時の目標】

① 授業の目的、流れを知る。

② 本を選ぶ。

③ 情報を整理する。(その1)

◆導入

1 学習の目的とその流れを確認する。
 教科書120ページ～123ページを開いて、学習の目的とその流れを確認すること
 目的は120ページ上段のリード文、流れは120ページ上段の罫みで確認すること
 ができる。具体的な作業の第一は、レジユメを121ページを参考にして作るこ
 とである。したがって、教科書120～121ページを音読し、この時間で何をす
 るかを具体的にわかるように指示する。

読書は、見聞を広げ、国語だけではなくさまざまな学習にも必要なことだ
 あるが、生涯の楽しみでもあり、高校生にとってはこれからの生き方にも影
 響を与えることが少なくない、重要な活動である。ただ、ついつい読書させ
 られる印象が強く、また、一人で次々と本を選んでいくことは難しい。そこ
 で、友人同士、クラスメート同士で情報交換をすることは、興味深い、楽し
 い読書のきっかけとなる。それぞれの読書経験を文章にして、互いに読み
 合うのではなく、目の前で本人から語ってもらうことは、より印象深く本へ
 の興味を引き出すことになる。生徒それぞれが興味関心を抱いた本を選び、
 心惹かれた点を語ることが望ましい。そのための授業の目的、流れであるこ
 とが生徒に伝えられるとよい。

◆展開1

1 自分が取り上げる本を選ぶ。
 事前に、候補の本を持参するように指示しておき、可能ならばそれを持っ
 て図書室へ行き、図書室でさらに候補を探し、その上で取り上げる本を決定
 するように指示する。図書室が利用できない場合は、候補を複数用意し、教
 室で選ぶようにすることも一つの方法である。その折に、グループやクラス
 で互いに見合う方法も考えられる。また、教員が候補になりそうな本を少し
 用意する方法も加えられる。

取り上げる一冊を選ぶ観点は120ページ下段の□を参考とする。何よりも自
 分が頑張っていることや興味や好きなことに関わりがあり、興味関心を持て
 ることが大切。なかなか見つけれない生徒には、このことを気づかせるア
 ドバイスをまず試みたい。どうしても探せない生徒、本には興味や経験がな
 い生徒の場合は、いろいろな分野から候補を薦めるのも一つの方法。例えば、
 子どもの時に見たことのある絵本、大人からも興味深く捉えられてい
 る児童書、部活や好きなスポーツなどに関わりのある雑誌、体験談の本、短
 時間で読めるような小説やエッセイの短編を取った本などにも目を向けさせ、
 薦めることも考えられる。

この授業では要になる大切な作業であるので、生徒の主体性を大切にしま
 がら、支援をするようにしてほしい。

2 レジユメの下書きを作成する。

A4判もしくはB5判の白紙もしくは横罫の用紙に、121ページと122ページ
 の上段□を参考にしてレジユメの下書きを作成する。白紙もしくは横罫の用
 紙を配付して、教科書を見ながら下書きをさせることもできるが、本指導資
 料の付属CD-ROMに収録されている用紙を配付してもよい。

個々の下書き作業の様子を確認しながら、机間巡視をして必要なアドバイ
 スをする。このとき、本を選んでいるか、各項目に記入ができていないか、を
 まず確認するが、次には、自分の意見を一言で書いている場合は、説明や理

◎実際の学習活動で使用できるワークシート例や記入例を示しました。
付属のDVD-ROMにはデータを収録しています。

由を加えて、ふくらませるように注意を喚起するようにしてほしい。
また、この下書きは次の授業で友達と読み合ってから清書すること、清書の段階でカットなどを入れる場合はその準備をすることを予告する。
レジュメは発表で聞き手の手元に配られるため、いろいろな工夫をすること、より印象深い発表をすることができ、紙面の許す範囲で、カットや表やグラフなどの視覚に訴える工夫も認めると、作成する側も楽しさが増すであろう。レジュメは手書きでよいが、条件が整い可能な場合は、パソコンで作成しプリントアウトする方法も考えられる。だが、案外手書きの方が作る側も聞く側も印象に残りやすい。
また、資料を見やすくするために、表紙やキャラクターをカットして取り入れたり、コピーを貼ることも考えられる。コピーの場合は授業で配付する範囲の資料なので著作権を侵害はしないが、この機会に引用や複写に関する著作権のことに触れることも一つの学習となろう。
ブックトークの発表時間を考慮し、必要に応じてレジュメの下書きを宿題とする。

〈記入用紙例1〉レジュメ

ブックガイド
この本読んでみて！

- ◆本のデータ
 - 書名
 - 編著者名
 - 出版社名
 - 刊行年
- ◆出合ったいきさつ
- ◆本や作品に対する感想
- ◆主な内容
- ◆魅力
- ◆キャッチコピー

(DVD-ROM「表現活動シート」参照)

記入例

ブックガイド
この本読んでみて！

- ◆本のデータ
 - 書名 『後白河院』
 - 編著者名 井上靖
 - 出版社名 新潮社（新潮文庫）
 - 刊行年 昭和47年筑摩書房から刊行
昭和50年文庫版初版 平成19年31刷改版
平成24年35刷（昭和50年版、平成19年版の解説を掲載）
- ◆出合ったいきさつ
テレビドラマで中世の時代や後白河という人物に興味を持って、インターネットで調べたらこの小説が興味深い構成であることがわかったので、解説が付いている文庫版で読んでみた。
- ◆本や作品に対する感想
四人の人物がそれぞれ後白河周辺の出来事について自分の見たこと聞いたことを語っていく構成になっている。読者である自分がそれらの話を組み立てて、イメージをふくらませているのは難しいが、事件を解決していくミステリーのように、わくわくするおもしろさがある。
- ◆主な内容
平安時代の終わり頃、それまでの貴族の政治が武士に取って代われようとしている混乱の時期、院政を行った上皇や法皇の中でも、今様という庶民の歌を愛したことで変人ともいわれている後白河院は、実は大変な策略家だったという実像を、四人の人物の証言から浮かび上がらせる小説。
- ◆魅力
四人の人が語る四つの部分からできているが、それぞれが語り口調も考え方も違っている。それらを読みながら、読者自身が頭の中で組み上げていくと後白河院の人物像が浮かび上がってくる。それが周りの人に理解してもらえない変わり者ではなく、緻密に策略を巡らせていた政治力のある大人物になっていくところに、ぐいぐいと引き込まれていく。しかも一人目の聞き手は四人目の話し手で、なかなか込み入っている。それがミステリーを解いていくようで魅力的だ。後白河に対する解釈はいろいろとあるので、他の作家の作品や歴史の解説書を読み合わせるとさまざまな後白河像があり、さらに興味がわいてくる。
- ◆キャッチコピー
四人の証言が大策略家「後白河」の実像を暴く！

◎時間ごとに、指導の手助けとなる情報や参考になる資料を示しました。

ヘルプ！

本を選べない生徒へ薦める本について

本を選べない生徒に薦める本を選ぶには、本稿の参考資料や参考文献および本書の読書案内も参考になる。児童書・絵本にも高校生の思考や感性に訴える作品は少なくない。

例えば、『モモ』時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にかえしてくれた女の子のふしぎな物語』（ミヒエル・エンデ著、大島かおり訳、岩波書店・一九七六年、岩波少年文庫版は二〇〇五年）は時間に追われる非人間的な現代社会の問題が取り上げられている。『ぼくと「ジョージ」』（E・L・カニグズバーク著、松永ふみ子訳、岩波少年文庫・二〇〇八年）では思春期の自我の葛藤を描いている。話題になった映画やアニメーションの原作としては、『はてしない物語』上・下（ミヒエル・エンデ著、上田真而子・佐藤真理子訳、岩波少年文庫・二〇〇〇年）、『床下の小人たち』（メアリー・ノートン著、林谷吉訳、岩波少年文庫・二〇〇〇年）、『魔法使いハウルと火の悪魔』（ダイアナ・ウィン・ジョーンズ著、西村醇子訳、徳間書店・一九九七年）、『霧のむこうのふしぎな町』（柏葉幸子著、講談社青い鳥文庫・二〇〇四年）などもある。昔話・伝説の基盤に成り立つ短編を数多く書き残し、アンデルセンの再来と言われたエリナー・ファージョンの『ムギと王さま 本の小べや1』（石井桃子訳、岩波少年文庫・二〇〇一年）『天国を出ていく 本の小べや2』（石井桃子訳、岩波少年文庫・二〇〇一年）なども作品をいろいろな方向から考える楽しさを提供してくれる。

一方、絵本には、漢詩の世界を絵本化し、夜明けを見事に表現したと言われる『よあけ』（ユリ・シュルヴィッツ作、瀬田貞二訳、福音館書店・一九七七年）、世界平和を祈る『きょうというひ』（荒井良二作、BL出版二〇〇五年）、グローバル時代の隣人を考えさせる『ぼくがライメンたべるとき』（長谷川義史作、教育画劇・二〇〇八年）、読み合う

楽しさを提供してくれる『まるまるまるのほん』（エルヴェ・テュレ作、谷川俊太郎訳、ポプラ社・二〇一〇年）など、高校生が楽しみ、考えることのできる作品が続出している。

物語体験の必要性は、幼児、児童の時期に強調されているが、文章に親しみ、思いを文章で表現する場合、高校生においてもそのきっかけとなり得ると考えられる。幼い頃に読み聞かせてもらった物語の追体験が、新たな感慨を引き起こす場合もある。そうした経験がほとんど無い場合でも、人は年齢に拘わらず話を好むものであるから、新たに物語体験を積み重ねていくこともある。読書対象を狭めず、生徒の関心を引く分野の作品や絵本にも範囲を広げてよいのではないだろうか。

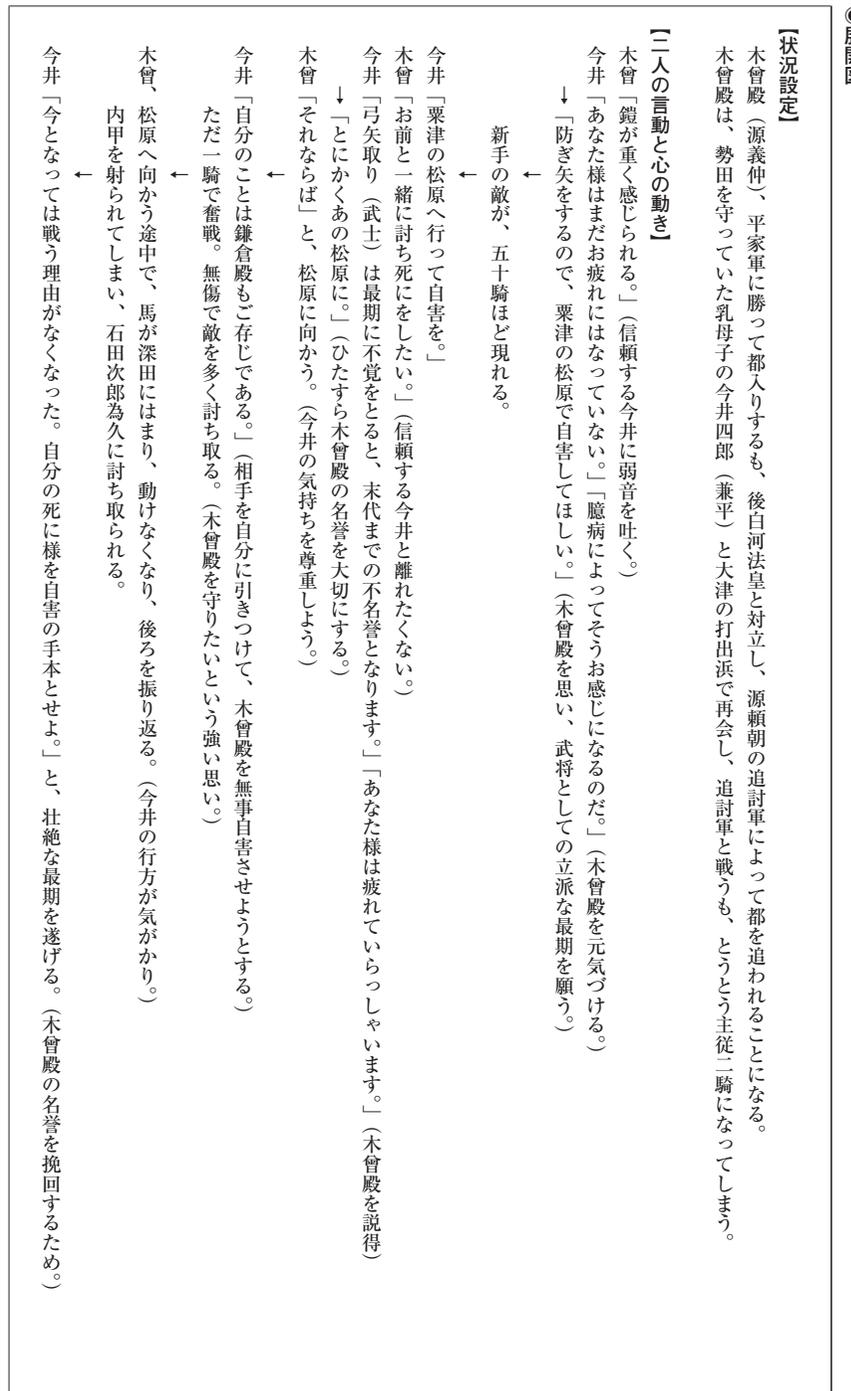
◎全体の構成を表組みで示すとともに、それぞれの段落大意をまとめました。

全体の構成 段落分けと大意		
段落	ページ・行	大意
第一段	初め～251・5「駆けたまふ。」	戦いの末、とうとう木曾殿と今井四郎の主従二騎になった。「鎧が重くなった。」と弱音を吐き、ともに戦って死のうとする木曾殿を、今井四郎は叱咤激励し、自害するよう説得する。木曾殿は結局今井の勧めに従い、自害するため粟津の松原へ馬を走らせた。
第二段	251・6「今井四郎ただ一騎、」 252・7「手も負はず。」	今井四郎は木曾殿を無事自害させるため、一人で五十騎の敵を相手に奮戦した。その戦いぶりに正面から戦いを挑む者はいなかった。
第三段	252・8「木曾殿はただ一騎、」 ～終わり	木曾殿は粟津の松原へ向かったが、途中誤って深田に乗り入れ、身動きがとれなくなったところを射られ、首を取られてしまった。木曾殿の死を知った今井四郎は壮烈な自害を遂げた。

◆木曾の最期

教材の研究

◎教材全体を概観できるよう、内容を図式化したものを示しました。



◎教材本文を総ルビで掲載して詳細な品詞分解を示し、番号を振って通釈と対応させました。

品詞分解と通釈

〔品詞分解〕

①今井四郎 木曾殿、主従二騎 に なつ て のたまひ ける

格助(結果) 動(ラ四連用音便) 格助(接続) 助動(尊敬八四連用) 助動(過去) 活用(終止)

は、

係助(区別)

「日ごろ は 何と も 覚え ぬ 鎧 が 今日 は

格助(区別) 格助(引用) 係助(強意) 動(ヤ下二未然) 助動(打消) 格助(主格) 格助(区別)

重う なる たる ぞ や、

形(ク連用音便) 動(ラ四連用音便) 助動(完了) 係助(強意) 間助(詠嘆)

②今井四郎 申し ける は、

動(謙讓) 助動(過去) 係助(区別)

「御身 も いまだ 疲れ させ たまは ず。

係助(並列) 副 動(ラ下二未然) 助動(尊敬) 補動(尊敬八四未然) 助動(打消) 終止

御馬 も 弱り 候は ず。

係助(並列) 動(ラ四連用) 補動(丁寧八四未然) 助動(打消) 終止

何に よつ て か、一両 の 御着背長 を 重う

格助(原因) 動(ラ四連用音便) 格助(反語) 格助(修飾) 格助(対象) 形(ク連用音便)

は おぼしめし 候ふ べき。

係助(区別) 動(尊敬) 動(丁寧八四終止) 助動(推量) 活用(終止)

それ は 味方に 御勢 が 候は ね

代名 係助(区別) 格助(対象) 格助(主格) 補動(丁寧八四未然) 助動(打消) 已然

でこそ さは おぼしめし 候へ。

格助(理由) 係助(強意) 係助(区別) 助動(尊敬) 補動(丁寧八四已然) 助動(打消) 已然

兼平 一人 候ふ とも、余の 武者 千騎 と おぼしめせ。

動(丁寧八四終止) 格助(比較) 動(尊敬) 格助(比較) 動(尊敬) 格助(比較) 動(尊敬)

〔通釈〕

①今井四郎兼平と、木曾殿(義仲)が、主従二騎になって木曾殿がおっしゃることは、

「日ごろは何とも思わない鎧が今日は重くなったぞ。」

②今井四郎が申しあげることは、

「殿はお体もまだお疲れになつてはいらっしゃいません。御馬も弱っておりません。どうして、たかが一両の御着背長を重くお思いになることがありましょう。それはお味方に軍勢がございませんので、気後れてそのようなお思いになるのです。」

(この)兼平(は一人ですが、たとえ)一人でございますけれども、他の武者千騎に相当するものと

矢 七つ八つ 候へ ば、 しばらく 防ぎ矢 つかまつら ぬ。

動(丁寧八四已然) 格助(順接) 確定

あれ に 見え 候ふ、 粟津 の 松原 と 申す、

代名 格助(場所) 動(ヤ下二連用) 補動(丁寧八四連用) 格助(修飾) 格助(引用) 動(丁寧八四終止)

あの 松 の 中 で 御自害 候へ。

代名 格助(修飾) 格助(場所) 格助(修飾) 動(丁寧八四命令)

と て、 打つ て 行く ほど に、 また 新し の 武者

格助(引用) 格助(重接) 動(ラ四連用音便) 格助(重接) 動(ラ四連用) 格助(時間) 副 格助(修飾)

五十騎 ばかり 出で来 たり。

副助(程度) 動(方変) 活用(終止)

③「君 は あの 松原 へ 入ら せ たまへ。

係助(区別) 代名 格助(修飾) 格助(方向) 動(ラ四未然) 助動(尊敬) 補動(尊敬八四命令)

兼平 は この 敵 を 防ぎ 候は ぬ。

係助(区別) 代名 格助(修飾) 動(方四連用) 補動(丁寧八四未然) 助動(意志) 終止

と 申し けれ ば、 木曾殿 の たまひ ける は、

格助(引用) 動(謙讓) 助動(過去) 已然 格助(順接) 確定 動(尊敬) 助動(意志) 終止

「義仲 都 にて いか に なる べかり つる が、 これ

格助(場所) 形動(ナリ) 連用 係助(強意) 動(ラ四終止) 助動(当然) 連用 助動(完了) 連用 格助(区別)

まで 逃れ来る は、 なんぢ と 一所 で 死な ぬ と

副助(範囲) 動(方変) 連用 係助(区別) 代名 格助(相手) 格助(場所) 動(方変) 未然 助動(意志) 終止 格助(引用)

思ふ ため なり。

動(八四連用) 助動(断定) 終止

所々 で 討た れ ぬ より も、 ひと所 でこそ

格助(場所) 動(ラ四未然) 助動(受身) 未然 助動(範囲) 連用 格助(比較) 係助(強意) 格助(場所) 係助(強意) 係

討ち死に を も せ め。」

格助(対象) 係助(強意) 動(方変) 未然 助動(勸誘) 已然 結

お思いになってください。矢が七、八本ございませので、しばらく防ぎ矢をいたしましょう。あそこに見えております、粟津の松原と申すところ、あの松の中で御自害なさいませ。」

と申しあげて、むちを打って馬を急がせていくうちに、また新しの武者が五十騎ほど現れた。

③「殿はあの松原へお入りください。兼平はこの敵を防ぎましょう。」

と(今井が)申しあげると、木曾殿がおっしゃることは、

「この義仲は、都で最期を遂げるはずであったところを、ここまで逃れて来たのは、お前と同じ所で死のうと思つたからだ。

別々のところで討たれるよりも、同じ場所で討ち死にをしようではないか。」

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎教科書の脚注の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

◎教科書に掲載されている図版や写真についても解説を加えました。

語句・文脈の解説

249ページ

●第一段（初め〜251・5）の大意

戦いの末、とうとう木曾殿と今井四郎の主従二騎になった。「鎧が重くなった。」と弱音を吐き、ともに戦って死のうとする木曾殿を、今井四郎は叱咤激励し、自害するよう説得する。木曾殿は結局今井の勧めに従い、自害するため粟津の松原へ馬を走らせた。

1 今井四郎（注）「今井四郎兼平。源義仲（木曾殿）の腹心の部下。」（一一五一年〜一一八四年）（？）一一八四年「義仲を養育した中原兼遠の第四男。源義仲の乳母子。享年は伝本によって異なる。巻七「清水冠者」の、源頼朝が義仲を攻めようと信濃に入る場面に初めて登場し、講和のための使者として頼朝の許に赴いている。覚一本では、その後も、巻七「俱利伽羅」巻八「妹尾最期」「猫間」「鼓判官」などで、義仲を支える兼平の行動が際立って描かれる。また、作中の兼平の言動が先見の明を備えているものであるのに対し、義仲が兼平の意見や願いに応えぬ場面も目につく。とはいえ、二人の信頼が揺らぐことはなく、むしろその絆の深さが強調されている。最後の寿永三年一月の頼朝・義経軍との戦いでは、勢田を攻める頼朝軍との戦いに

敗れ、その後義仲の身を案じて京に戻る途中の打出の浜で、義仲との再会を果たす。

1 木曾殿（注）「源義仲（一一五四〜一一八四）。源義賢の子。源頼朝（鎌倉殿）のいとこ。木曾（長野県）で成長し、木曾次郎と称した。源為義の孫。源義賢の次男。源頼朝にとっては従兄弟にあたる。兄は源頼政の養子で、頼政の乱の際に戦死した源仲家である。「源平盛衰記」によれば、幼名を駒王丸といった。二歳のときに、義賢が兄義朝の息子義平に討たれた後、木曾の中原兼遠に引きとられた。木曾で育ったので、木曾義仲、木曾殿などと呼ばれた。一一八〇（治承四年）年、以仁王の令旨を受けて挙兵、北陸路から進撃し、一一八三（寿永二年）七月に平家を追いつつ京に入り、八月十日の除目で後白河院から左馬頭（左馬寮の長官、越後守に任ぜられる。（後に伊予守に転ずる）さらに巻八「名虎」では、「朝日の將軍」という院宣を下されたとする（史実では翌寿永三年一月に「征東將軍」に補任されている）。しかし貴族との対立や、平家追討のための水島合戦での敗北などで次第に孤立し、後白河院とも対立する。院が鎌倉の頼朝と結びつき、義仲を排除しようとしたときに、クーデターを起こして院の御所法住寺殿を襲い（寿永二年十一月十九日）、さらに頼朝

発問

249ページ

問 3 「日ころは……なつたるぞや。」という言葉に表れた木曾殿の気持ちは次のどれか。
ア 退却したいという気持ち。
イ 戦いに疲れたという気持ち。
ウ 自害したいという気持ち。
エ 今井四郎だけでも逃げてほしい気持ち。
オ 裏切られたという気持ち。

問 5 「御身もいまだ疲れさせたまはず。」と今井四郎が言ったのはなぜか。
問 6 疲れたと弱気になつている木曾殿を励まし、立派に自害するまでがんばってほしいと思つていたので。
問 7 「さはおぼしめし候へ。」の「さ」の指す内容は何か。
問 8 「日ころは何とも覚えぬ鎧が今日は重うなつたるぞや。」という木曾殿の言葉。
問 9 「兼平一人……おぼしめせ。」と言つたのはなぜか。
問 10 木曾殿が味方の軍勢がいなくなったから弱気になつたと考え、木曾殿を力づけるためにこう言つた。

自害シテ後ゾ、粟津ノ軍ハ留リケル」（延慶本）「これよりしてこそ、粟津のいくさはとまりにけれ」（長門本）「今井うたれて後ぞあわづのいくさははてにける」（百二十句本）「兼平自害シテ後ハ、粟津ノ軍モ無リケリ」（源平盛衰記）など、粟津合戦は兼平の死をもって終わったという表現であり、合戦そのものを否定するものはみられない。しかも、そのような解釈をしなければならぬ必然性は、覚一本の本文からも読み取れず、覚一本のみがそのような立場に立つとするのは、「さてこそ」の狭い解釈に捉われた現代人の深読み過ぎない。

図版解説

●木曾殿の最期（『平家物語絵巻』土佐左助筆 江戸時代初期（250〜251ページ））
林原美術館所蔵の『平家物語絵巻』は、二巻を上中下に分けた全三十六巻、そのうち絵は七百五枚にもぼる大作である。江戸時代初期には、大名家の嫁入り道具として、冊子形態の豪華な奈良絵本平家物語がいくつも作られたが、絵巻という形でこれだけの場面を描き、全巻揃った形で残っているものは珍しい。

図版解説

●平曲を語る琵琶法師（『職人尽歌合』江戸時代後期の模本（253ページ））

本図は、東京国立博物館蔵の『職人尽歌合』に描かれた琵琶法師の絵である。この『職人尽歌合』は「七十一番職人歌合」として有名である。「七十一番職人歌合」とは、月・恋の歌題のもとに、一四二種の職人が左右に分かれて七十一番の取り組みを作り、和歌を競い合うといった趣向の絵巻である。絵の余白部分には、和歌のほかに室町時代の職人たちの日常会話や口上などが、いわゆる画詞として当時の口語体で書かれている。その成立は、一五〇〇（明応九）年と推定されているが、掲載している東京国立博物館蔵『職人尽歌合』は、室町時代の土佐光信絵・三条西実隆筆とされる作品を八四六（弘化三）年に木挽町狩野の狩野晴川院養信（一七九六年〜一八四六年）・狩野勝川院雅信（一八二三年〜一八七九年）親子が模写したものである。東京国立博物館蔵。（Image:TNM Image Archives）

情報コラム

源義仲について
「木曾殿の最期」では「殿」をつけて呼ばれている義仲だが、巻八の猫間中納言とのエピソードなどではかなり馬鹿にされた書かれ方をしている。
例えば、巻八で征夷大將軍を賜った頼朝と比べ、義仲は色白の好男子ではあるが立ち居ふるまいが武骨で、言葉つきが聞き苦しい、困った男として描かれている。猫間中納言光隆卿が義仲のもとを訪れたときも義仲は「猫が人間に對面するのさ」と大笑いし、「猫殿」呼ばわりする、礼儀作法も知らない田舎者の扱いである。また、牛車に乗った際途中で仰向けに転がったり、前から降りることになつている牛車を後ろから降りたりと、滑稽な振る舞いをする野蛮人として描かれ、「殿」抜き「木曾」と呼ばれている。

◎内容理解の参考となる興味深い「コラム」を適宜掲載しました。

◎各教材末にある「学びの道しるべ」のねらいを示し、解答例と詳しい解説を示しました。

「学びの道しるべ」の解答例・解説

●会話の内容と意図を明らかにし、人物のものの見方や生き方を捉える。

1 今井四郎と木曾殿はどのような関係か、また、二人は最後にどうなったか確かめよう。

【ねらい】登場人物の人間関係と話の展開を把握する。

【解答例】今井四郎は木曾殿の御乳母子。二人の関係は乳兄弟である。木曾殿は、自害をするために、栗津の松原に向かう途中、馬が深田にはまり身動きがとれなくなる。そのときに、今井の行方が気になって振り返って仰ぎ見たところを、石田次郎為久に内甲を射られ、石田の郎等に首を取られた。

今井四郎は木曾殿に自害をさせるため、五十騎の敵を相手にたった一騎で奮戦していたが、木曾殿が討ち取られたことを知り、太刀の先を口に含んで馬から飛び落ちて自害した。

【解説】二人の関係については、教科書の注を参照させる。また、二人の初期の様子については、教科書252～253ページの記述から確認させる。「乳母子」「乳兄弟」という関係が深い絆を伴っていたことについては、「全体の構成展開図」や「生徒のための参考資料」などを参考にして、生徒の知識を補っておく、理解が深まるであろう。

2 今井四郎が「御身もいまだ疲れさせたまはず。」(249・5)と「御身は疲れさせたまひて候ふ。」(250・9)という、矛盾した言葉を発している理由はどのようなものだろうか、考えよう。

【ねらい】今井四郎が願っていたことをおさえる。

【解答例】いずれも、木曾殿に立派な最期を遂げさせたいという思いから発せられた言葉であり、その点では一貫しているのだが、前者は弱気になっている木曾殿を励ますため、後者は一緒に戦おうとする木曾殿をあきらめさせるためのものであり、状況に応じて使い分けをしたために、矛盾したものとなったのであろう。

【解説】前者は、鎧が重くなったと弱音を吐く木曾殿を励ますことで、栗津の松原で自害するまで気力を保ってもらいたいという思いから発せられた言葉である。後者は、今井とともに戦って、一緒に討ち死にしようという木曾殿に、名も無き雑兵の手にかかって無様な最期を遂げてしまう可能性が高いという現実を目を向けさせることで、ともに戦うことを諦めさせ、すみやかに自害の場所に赴かせるために発せられた言葉である。

3 木曾殿が「さらば。」(251・4)と栗津の松原へ駆けていった時の気持ちはどうだろうか、話し合おう。

【ねらい】「さらば」の意味を確認し、今井四郎の説得どおりに行動することにした木曾殿の気持ちを考える。

【解答例】自分の正直な気持ちとしては、今井とともに戦い、同じ場所で討ち死にしたいのだが、今井に説得され、今井の願いどおりにしようとした。

【解説】今井の説得を受け、木曾殿は「さらば」と言って栗津の松原に向かう。短い描写ではあるが、その言葉と行動から、木曾殿の決意を読み取ることが出来る。戦に敗れた木曾殿が、都から北国に向かわずに、わざわざ反対側の勢田に向かったのは、勢田で範頼軍と戦っていた今井のことが気がかりだったためである。木曾殿にとって、今井は生死をともにしようとする誓い合った仲であったことを、木曾殿の行動や言葉から理解する。木曾殿にとって、今井と一緒に死ぬことが願いであり、その思いが二人の対立へとつながったのだが、信頼する今井の思いを受け入れたからこそ、木曾殿は一人で

研究・発展

◎作品解説

「平家物語」には、琵琶法師によって語られたものに近い形の〈語り本系〉のテキストと、それ以外の〈読み本系〉のテキストがあるが、教科書本文として採録されている覚一本は〈語り本系〉のテキストである。

さて、覚一本では、これまで述べてきたように、今井の義仲への心遣いが、「御身もいまだ疲れさせたまはず」「御身は疲れさせたまひて候ふ」という二つの矛盾した言葉となって表されているところや、木曾殿が「今井が行方のおぼつかなさ」に振り返ったところを、石田次郎に射られて討ち取られてしまおうとする描写から、木曾殿の今井に対する未練が見えてしまった要因となっているように描かれているところなどは、二人が死に際に見えたお互いへの思いやりや絆の強さをドラマチックに描くための効果的な演出となっていることがわかる。

ところが、異本との比較によって、この演出が「平家物語」テキストにおいて標準的なものではないことが明らかとなる。

たとえば、〈読み本系〉テキストで、比較的古い形を留めているとされる延慶本を見ると、今井とともに戦ってともに討ち死にしようとする木曾殿を思いとどまらせるために発せられた今井の言葉は以下のとおりである。

「年来日來、いかなる高名をしつれども、最後の時に不覚しつれば、長き代の疵にて候ふぞ。人の乗替、云ふ甲斐なき奴原に打ち落とされ、木曾殿は某が下人に打ち落とされ給ふ」などいわれさせ給む事こそ口惜しけれ。ただ松の中へとくと入り給へ」

△これまでに、どれほどの武功を立てても、無様な最期を遂げたならば、未代までの不名誉でございませぬ。敵の乗替(注 敵の武者その人ではなく、乗り替える馬に乗る家来)のような、取るに足らない連中に討ち取られて、「木曾殿は誰その下人に討ち取られなかつた」な

どと言われておしまいになることこそ残念です。とにかく松の中へ早く早くお入りください」

覚一本の「御身は疲れさせたまひて候」にあたる言葉は存在しないことがわかる。これは同じ〈読み本系〉の長門本や源平盛衰記も同様である。つまり、覚一本では、あえて矛盾する言葉を今井に言わせることで、今井の説得の切実さを効果的に描くことに成功しているのである。

また、同じく延慶本では、今井が木曾殿に自害を勧めた際に、「兼平はこの敵に打ち向て、死なば死に、死なずは返り参らむ。兼平が行へを御覧じはててに、御自害させ給へ」

△兼平はこの敵と戦って、討ち死にしたならば死にますが、もしも死ななかつたならば、あなた様のもとに参りましょう。兼平がどうなつたか最後までお見届けになつてから、御自害なさいませ」

△(巻第五本「義仲都落ル事付義仲被討事」※傍点は引用者)とする。木曾殿が最後に今井を振り返ったのは、実は今井の指示によるものなのであり、木曾殿の今井に対する未練のみに起因するような描き方はされていないのである。ここも〈読み本系〉の長門本や源平盛衰記で共通しており、覚一本が今井による「自分の行く末を見届けてほしい」という指示を描かないことによって、木曾殿の今井への未練を強調する効果をあげていることがわかる。

なお、延慶本のこの部分について、武久堅氏は、木曾殿が今井とともに死にたいという気持ちを表す「一所ニテ」が、延慶本では三回も繰り返されているところに注目され、それが木曾殿の「究極の願望」なのであり、木曾殿が最後に「サリトモ今井ハ続クラム(そうはいっても今井は後に続いて来てくれるだろう)」として振り返ったのは、今井のこの「死なずは返り参らむ」という説得の言葉が誘発したものと解釈されている。(注1)

◎採録教材の主題や、関連する章段や作品への言及など、教材への理解を深める内容を掲載しました。

◎教材全体を概観できるよう、大意を示しました。

教材の研究

◆虎の威を借る

◎大意
虎に捕まえられ、食べられそうになった狐が、自分天帝から動物たちの王に命じられたので食べてはいけないと嘘を言う。そこで虎が狐の後ろについて歩くと、獣たちが逃げ出してしまったため、虎は自分を見て逃げ出しているとは気づかず、狐を見て恐れているのだと思ったというまぬけな話。

◎書き下し文・通釈

〔書き下し文〕

- 1 虎 百獣を 求めて 之を 食らふ。狐を 得たり。
2 狐 曰はく、
3 「子 敢へて 我を 食らふ こと 無かれ。
4 天帝 我を して 百獣に 長たらしむ。
5 今、子 我を 食らばば、是れ 天帝の 命に 逆らふなり。
6 子 我を 以て 信ならずと 為さば、吾 子の 為に 先行せん。
7 子 我が 後に 随ひて 観よ。

〔通釈〕

- 1 虎は動物たちを探し求めてはこれを食べていた。狐を捕まえた。
2 狐が言うには、
3 「あなたは決して私を食べてはいけません。
4 天の神が私を動物たちの王にしたのです。
5 今、あなたが私を食べたなら、天の神の命令に逆らうことになりますよ。
6 あなたが私を信じられないのなら、私はあなたのために先に立って歩いてみましょう。
7 あなたは私の後について来てよくご覧なさい。

◎教材本文の書き下し文を総ルビで掲載し、番号を振って通釈と対応させました。

13 教科書 [p.261~p.271]

漢文入門 虎の威を借る 14

語句・文脈の解説

272ページ〜273ページ

※この項については、便宜上、教科書の緑色の番号を行数表示とした。また、本文を抜き出す際には基本的に書き下し文を抜き出し、漢文の句法について解説するときは訓読文を抜き出した。

- 1 虎 猛獣の名。鋭い目・爪・牙を持ち、性質は荒々しい。古来より「虎」が出てくる故事成語は多い。
1 百獣 多くの獣。「百」は多い、衆多の意。百姓(庶民)や百官(役人)で用いられる「百」も同じ。
1 「之」は百獣を指す。虎が多くの獣を食べてい

- たことがわかる。
1 而 置き字で順接を表す。このはたらきによって、「求めて」の「て」が訓読として読まれるようになった。もし置き字としないなら「虎百獣を求め、而うして之を食らふ」となる。
1 狐 獣の名。疑い深くする賢いたとえとして用いられることが多い。
2 曰はく 言うことには。「いハク：ト」と呼ぶ。
3 子 あなた。敬意をもって相手をいう場合に用いる。ここでは虎を指す。
3 無敢 無(む)敢(かん) 決して決して決するな。禁止を表す。「敢へて」は、強いて…する、進んで…する、と無理におしきってする意を表す。「無かれ」は…

発問

- 1 「之」が指すものを答えよ。
百獣(多くの獣)
3 「子」は、どのような意味で誰を指すか。
あなた。虎を指す。
5 「天帝命」の「命」とはどのような内容か。
狐を動物たちの王にしたこと。
6 「先行」するのはなぜか。
多くの獣が自分を見て逃げ出したと虎に見せるため。
9 「然り」の指す内容箇所の最初と最後の三文字を訓読文から抜き出せ。
子以我、不走乎

◎教科書の脚注の語句や重要な概念、固有名詞などについて解説したほか、読解上のポイントになる文についても取り上げました。

◎授業展開時に有効な発問と解答例を示し、必要に応じて解説を加えました。

◎各教材末にある「学びの道しるべ」のねらいを示し、解答例と詳しい解説を示しました。

「学びの道しるべ」の解答例・解説

●何度も音読し、「虎の威を借る」の意味について理解を深める。

1 動物たちが逃げていったのはなぜか、考えよう。

【ねらい】正確に話の展開、狐の会話が理解できていればわかる問題である。ただし、一文一文に気をとられると、かえって話の全体が見えなくなる。全体が理解できているか判断するのに好都合の問題である。

【解答例】狐の後ろを歩いている虎が自分たちを襲って食べるかもしれないので、生命の危険を感じて逃げた。

【解説】1行めの「虎百獣を求めて之を食らふ」と、狐が「天帝の命令で、自分が百獣の王となった。自分の後についてくれればわかる」と言った内容をおさえていることが大事。狐も一緒にいるが、獣は虎を見て恐れているのである。

2 動物たちが逃げたことを虎はどう考えたのか、まとめよう。

【ねらい】漢文に限らず、現代文でも古文でも登場人物の心情を理解することが重要である。ここでは、虎がどのように考えたか、書かれている文章を探し出し、きちんと答えることができるか試したい。

【解答例】自分を恐れて逃げているのだと気づかず、狐を恐れているのだと考えた。

【解説】11行めと12行めをきちんと読むことができるかが問題を解く鍵となる。下段の現代語訳から解答を導いても勿論かまわない。ただし、その場合、解答の後、上段の「知らざるなり」「以て……と為す」に着目させてほしい。虎を主格として知覚表現が用いられている。漢文になれてくれば、書き下し文

から判断することになる。漢文は日本語と語順は違うが、使われる漢字は同じである。漢字に対する感覚を鋭敏にさせることも大事である。

3 「虎の威を借る狐」という言葉は、現在どのような意味で用いられているか、調べよう。

【ねらい】現代社会でどのように用いられているかを確かめ、日常における漢文の存在に気づかせたい。

【解答例】他の権勢に頼って威張る小人のたとえ。*趣旨が合っていればよい。【解説】教材の本文から、どのような意味となつて今日に使われているのだろうか。各種の漢和辞典・国語辞典・ことわざ辞典などを利用して、現在の意味を調べさせたい。またその意味で、どのような場面で用いられているかを調べさせるのもいいだろう。生徒自身に例文を作らせてもかまわない。故事成語が身近な存在であり、それが漢文に由来することに気づかせたい。

◎採録教材の主題や、関連する章段や作品への言及など、教材への理解を深める内容を掲載しました。

研究・発展

◎作品解説

戦国時代、七国（斉・燕・楚・魏・趙・韓・秦）が強国として存在し、楚国は南方で安定した勢力を築いていた。宣王の時代になると、勢力が拡大し、北方の国から恐れられるようになった。その時の將軍として活躍していたのが昭奚恤である。魏国では、楚の勢力を弱めるために、遊説家の江乙を楚に送り込む。江乙は宣王と昭奚恤の仲を裂くことを画策する。そして、楚の宣王が群臣に向かって「北方の諸国が昭奚恤を恐れているのは本当か。」と尋ねた時、江乙は昭奚恤を諷言する。その際に用いたのが「虎の威を借る狐」である。

虎に捕まって食べられそうになった狐が、「自分は天帝の使いだ。嘘だと思ふなら私の後をついて歩いてみる。百獣は逃げていくぞ。」と嘘をつき、虎をだますことに成功する。この話では、狐のずる賢さを昭奚恤にたとえ、力があるにもかかわらず、愚かにだまされる虎を宣王にたとえている。江乙は、宣王に対し、その間抜けぶりを指摘して腹立たしく思わせ、さらに昭奚恤が信用できない人物であると不審を抱かせるように仕向けたのである。江乙は動物を用いた例え話を巧みに利用し、宣王と昭奚恤の離間を謀ったのである。現在、我々は虎を凶暴な動物として、狐を人をだます動物としてイメージする傾向が強い。そのイメージは、中国の戦国時代に遊説家が一国を代表して敵国の王に諷言した際のたとえ話にすでに見えるのである。

◎研究

「虎の威を借る」「蛇足」のように、「戦国策」から取られている教材については、国と国との攻防の中、遊説家が活躍する場面が取られることが多い。遊説家の説得を見ると、国と国との関係を理解した上で、相手国の内情を実に詳しく精査している。誰を説得すれば自国が助かるのか、相手国のどこ

誰の弱みを指摘・非難すれば説得が成功するのか、いかにわかりやすいとえ話を用いるのかなど、あらゆる観点から説得を試みている。「漁夫の利」も『戦国策』燕策にそのもととなる話がある。そこには次のようにある。

趙且伐燕。蘇代為燕謂惠王曰、今者臣來、過易水。蚌出曝而鷓啄其肉、蚌合而拊其喙。鷓曰、今日不雨、明日不雨、蚌將為脯。蚌亦謂鷓曰、今日不出、明日不出、即有死鷓。兩者不肯相舍、漁者得而并之。今趙且伐燕、燕趙久相支、以弊大眾、臣恐強秦之為漁父也。故願王之熟計之也。惠王曰、善。乃止。

（戦国時代、趙が燕を攻めようとした。）

蘇代は燕のために趙の恵王に言った。「いましがた、私がこちらへまいりますとき、易水を通りましたところ、ちょうど、はまぐりが一匹、日光浴をしておりました。するとそこへ、シギが一羽飛んでまいりまして、はまぐりの肉をついばもうとしました。はまぐりは急いで殻を閉じて、シギのくちばしを挟みました。シギが申します。『今日も雨が降らず、明日も雨が降らねば、たちまちははまぐりの干物ができるだろう。』と。はまぐりも言いました。『今日もくちばしを出せず、明日も出せなかつたら、ここに死んだシギができるのは間違いないな。』と。両者共に放すことを

◎教科書に示された用語や図版などについて、詳しく解説しました。

資料編

手紙の書き方

用語の解説

300ページ

【題】手紙 用件や近況報告、挨拶などを書いて送る文書。書簡、書状ともいう。

手紙は、学校や会社として出すような公的なものと、個人や家族どうしでやりとりされる私的なもの、およびその中間的なものがある。学習者にとってまず身近なものは、私的な手紙であろうが、ここで例としてあげているような、「中学校でお世話になった恩師」に「学校関係のこと」で書く依頼文となると、「親しい相手」に「日常的なこと」を書くような場合と違って、かなり公的なものに近い性格をもつてくることに注意したい。

この例で想定しているのは、
相手：中学時代の恩師
内容：文化祭の開催について

用件（目的）：文化祭のポスターを掲示してもらうよう依頼する

という手紙である。手紙も人と人とのコミュニケーションの手段であるのだから、やはりこのような、「相手」「内容」「目的」などを明確に意識し、それにふさわしい方法を考えていかなくてはいけない。

コミュニケーションの場としての手紙を考えた場合、ただ単に、手紙文の文章の形式（構成）や言葉づかいを選ぶというだけではない。注意の向け先ではないはずである。どのような形や色、デザインの便せんや封筒を選ぶかということから始まって、手書きにするかワープロ書きにするか、手書きの場合の筆記具を何にするか、縦書きにするか横書きにするか、文字を楷書にするか行書にするか、文字以外の記号をどの程度使うか、切手の位置や貼り方をどうするかということなど、単に言葉を選ぶだけでなく、言葉の入れ物も重要なのである。たとえば

いうなら、花を活けるときに、花を選ぶだけでなく、花びんも選んで、全体で調和のとれた作品に仕上げるということである。このように、トータルとしての「手紙」というコミュニケーションを意識化することが、言葉の学びとして重要である。ここであげている手紙例を扱ううえでも、ただ単に依頼文だから丁寧に書くとか、目の相手に丁寧に書くというだけではなく、相手や用件や内容によってふさわしい手紙とはどういう手紙だろうか、という点からのアプローチが必要である。

下1前文 初めの挨拶。

主文に入る前の導入部分にあたり、

- ① 頭語
 - ② 時候の挨拶
 - ③ 安否の挨拶（先方・当方について）
 - ④ お礼やおわびなどの挨拶、または自己紹介
- から構成される。お悔やみの手紙、病氣や事故のお見舞いの手紙では前文を省く。

◎学習活動や日常の言語生活で活用できる資料を掲載しました。

参考資料

●参考資料1
時候の挨拶集

時候の挨拶、といっても具体的にどのような言葉を書いたらいいのか、あまり手紙を書く機会のない生徒たちには浮かばないかもしれない。教科書に掲げた例とともに、次のような具体例を出すと書きやすい。

また、この例にとどまらず、自分が感じる季節感をそのまま文章にして、時候の挨拶を工夫させてももしろいだろう。

月	時候の挨拶	月	時候の挨拶
6月	初春のお慶びを申し上げます。 冷たい風が身にしみる季節ですが、 （昔懐かしいかとお過しでしょうか。）	7月	暑中お見舞い申し上げます。 暑い日々が続いておりますが、夕立のあとの涼しさに ほっと一息ついております。 七夕も過ぎてまもなく夏休みです。
5月	暦では立春とはいえず、いまだ寒い日が続いております。 寒気もようやくゆるんでまいりました。	8月	入道雲が盛りの夏を告げております。 立秋を迎え、この暑さもあと一息というところとなりました。 残暑お見舞い申し上げます。
4月	名残の雪が春をはこぶ季節となりました。 ようやく春の足音も近づき、花の盛りが楽しみになってまいりました。 ひな祭りも過ぎ、だいぶ春めいてまいりました。 （皆様にはお元氣にお過ごしのことと思います。）	9月	木々の葉もだいぶ色づき秋めいてまいりました。 秋の長雨の季節となりました。
3月	桜の花もだいぶほころびはじめ、あちこちで花の便りを 聞くようになりました。	10月	空高く晴れたった秋の空が広がっております。 食欲の秋がやってきました。
2月	風薫る五月となりました。 鮮やかな新緑が目にしみる季節となりました。	11月	霜枯れの季節を迎え、日向の恋しい今日このころ となっております。 木枯らしが庭木の葉を散らす季節となりました。
1月	梅雨の晴れ間の一時、 紫陽花の花が美しく咲く季節となりました。	12月	師走の声を聞いて街の慌たじさが 増してきたように思えます。 歳もおしつまつりお忙しいこと存じます。

Table with 5 columns: 年組, 番氏名, 魚は陸から離れられない (漢字の読み仮名を正仮名で記せ), 次のア、イの二部片仮名を漢字に改めよ, 一部の漢字の読み仮名を正仮名で記せ. Includes a score box for 30 points.

31 故事成語 虎の威を借り. Includes multiple-choice questions and reading comprehension passages with annotations. Topics include '借虎の威' and '狐に食われぬ'.

短時間で基礎を養う小テストです。現代文では漢字や語句、古文では文法、漢文では句法などについて出題します。

負け方を習得する. Includes a reading passage about '負ける' and a list of related terms like '負ける心', '負ける術', '負ける道'.

定期考査などに使える問題を、各教材、難易度別に複数収録しています。長文の教材は出題箇所を変えるなど、重要なポイントを網羅します。解答に加え、丁寧な解説も付しています。

教科書の教材に関連する資料や、発展的に読むことができる作品などを収録しています。 Includes '魚は陸から離れられない' and '心所 寂、不、離、離'.

◆補充学習教材集 収録学習教材例

- ベトナムのコーヒー屋
ネパールの友達(角田光代)
負け方を習得する
呼ばれる声を聴け(内田樹)
負ける作法とその嗜み(内田樹)
シリウス
あした(石津ちひろ)
はつこい(石津ちひろ)
私の前にある鍋とお釜と燃える火と(石垣りん)
表札(石垣りん)
魚は陸から離れられない
ミレニアム生態系評価①
数字で見る生態系の変化(鷺谷いづみ)
ツゴインルワイゼン
父の出征(黒柳徹子)
パパの出征(黒柳朝)
バスに乗って
すねぼんさん(重松清)
表わら帽子のへこみ
『短歌という爆弾』あとがき(穂村弘)
水の東西
文明の常識(山崎正和)
無常のリズム(山崎正和)
問題解決の心理学
複雑の事柄を取り扱う技術(堀井秀之)
羅生門
『今昔物語集』原文
届く言葉、届かない言葉
顔とは「呼びかけ」であり「訴え」である(鷲田清一)
友だち幻想(菅野仁)

古文入門

- 田舎の児、桜の散るを見て泣くこと(宇治拾遺物語)
阿蘇の史(今昔物語集)
清水寺のいさかひ(宇治拾遺物語)
鳩と蟻(伊曾保物語)
徒然草
仁和寺にある法師
友とするに悪き者
西大寺の静然上人
枕草子
春はあけぼの
うつくしきもの
ありがたきもの
伊勢物語
東下り
平家物語
祇園精舎
能登殿最期
故事成語
少年老い易く学成り難し/鶏口午後/他山の石/守株/五十歩百歩/推敲
漢詩の世界
絶句/春望/登岳陽樓(杜甫)
黄鶴樓送孟浩然之広陵/早発白帝城(李白)
送元二使安西/鹿柴(王维)
論語の言葉
子曰、学而不思則罔。：／
子曰、吾十有五而志于学。：(論語)
孟子見梁惠王。：(孟子)
大道廢、有仁義。：(老子)

問題集 各巻の100問を収録。【収録数】1冊100問。【部】1部。【形式】A4判。【収録期間】2012年9月～2013年3月。【収録内容】

目標①でいしらの原語や語彙とえの語彙を対比し、原語の人の文化や生活の背景を学ぶ。

- 語句・文法を理解しよ。
- 一次の「線部の読みを現代仮名遣いの平仮名で書きなさい。」
- ① せつじ
 - ② 團圓
 - ③ きははめ
 - ④ 團圓
 - ⑤ 団圓
 - ⑥ ひりくび
- 二次の「線部の語句の本文中の意味を、して通ひならぬをそれぞれあとから適当に記号で答えなさい。」
- ① 良覚僧正・團圓(ア)は、(2010・1) ア 覚えている方
イ 申しあげた方
ウ 評判になった方
エ きはめて團圓しき人なりけり。(2010・1)
 - ② ア 怒りっぽい人
イ 腹黒い人
ウ みにくく人
エ このまじかへかかす。(2010・4) ア さしつかえない
イ 立派だ
ウ よくない

- 三次の「線部の動詞のa終止形、b活用、cの活用形を答えなさい。」
- ① かの木を引かれけり。(2010・4)
a) [] b) [] 活用 []
② 團圓したりければ、(2010・1)
a) [] b) [] 活用 []
- 四次の「線部の語句のa地動名、b(1)での活用形を答えなさい。」
- ① きはめて團圓しき人。(2010・1)
a) [] b) [] 形 []
② 團圓し。(2010・1)
a) [] b) [] 形 []
- 文章の理解を求めよ。
- 一 「公世の二位」と「良覚僧正」とはどのような関係か、二字で答えなさい。
- 二 「かの木(2010・4)」とは何を指しているか、本文中から七字抜き出し、二文字で答えなさい。
- 三 「いよいよ上履立ち上り、(2010・5)」あるが誰が履を立てたのか、次の中から記号で答えなさい。
- ア 公世の二位 イ 良覚僧正 ウ 人 エ 檀の木
- 四 良覚僧正の人物を表している部分を本文中から十字以内で抜き出しなさい。
- 五 良覚僧正の呼び名はどう変わったか。題に書きなさい。
- 六 人々どのような気持ちから良覚僧正にだまをつけたと考えられるか。通ひの次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 何事にも怒りっぽい僧正に親しみをもちながらかう気持ち。
イ 何事にも怒りっぽい僧正を嫌いだしたる気持ち。
ウ 何事にも気難しい僧正に何か喜んでもらうという気持ち。
エ 何事にも真面目に取り組む僧正を深く尊敬する気持ち。

別売の『学習課題ノート』の内容を自由に加工できるデータで収録しています。

◆**原文集**
教科書教材文の原文データです。
ルビなし、教科書ルビ、表外ルビ、総ルビの四種類があります。

◆**発問例集**
指導資料に掲載した発問をまとめたデータです。

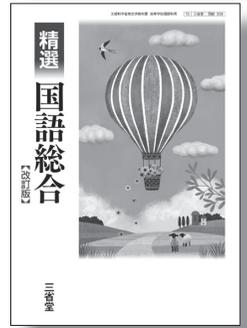
朗読CD

一部の教材について、朗読を収録した音声CDです。

- ◆**収録教材名**
《現代文編》
バスに乗って
羅生門
シリウス
シジミ
《古典編》
伊勢物語 芥川／筒井筒
漢詩 静夜思／勸酒／涼州詞／江南春／月夜／
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁
- ※その他、学習に役立つさまざまな音声を収録予定です。

高等学校国語総合 精選国語総合 明解国語総合

現代文編・古典編 [改訂版]



- 教師用教科書……………90
- デジタルテキスト……………96

◎要旨(大意)と文章構造を示します。古典教材では、注意したい表現の文法情報も掲載しています。

評論

水の東西

要旨

「鹿おどし」は、日本人に水や時の流れといった流れてやまなものの存在を強調する仕掛けである。一方、噴水に見られるように、西洋では水は空間的な目に見えるものとして捉えられ、造形の対象となってきた。日本人は「行雲流水」という言葉に見られる、いっさいを自然に任せるという思想をもっているが、その思想は、形がなく自然に流れゆくものを好ましく感じるといふ日本人独特の感性に支えられているものである。

山崎正和

日本の「鹿おどし」と西洋の「噴水」の対比

◎第一段(時間を流れる水)

「鹿おどし」が動いているのを見ると、その愛嬌の中に、なんとなく人生のけだるさ(1)が感じられる。かわいらしい竹のシーソーの一端に水受けがついていて、それに筧の水が少しづつたまると、静かに緊張が高まりながら、やがて水受けが跳ね上がる時、竹が石をたたいて、こおんと、くぐもつた優しい音をたてるのである。見ていると、単純な、緩やかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される。緊張が高まり、それが一気にほどけ、しかし何事も起こらない徒労がまた一から始められる。ただ、曇った音響が時を刻んで、庭の静寂と時間の長さをいやがうえにも引き立てるだけである。水の流れなのか、時の流れなのか、「鹿おどし」は我々に流れるものを感じさせる。それをせき止め、刻むことによつて、この仕掛けはかえって流れてやまないもの(2)を感ずる。

好ましさを感じさせたり、笑いをさそうような表情。

「鹿おどし」

愛嬌

けだるさ

1 鹿おどし 庭園装置の一つ。本来は、その首で田畑を荒らす鹿や猪などを追い払うための仕掛け。「添水・しかおどし」ともいう。

2 筧 水を引いてくるために竹や木で削った樋。

問 「それ」とは何を指すか。流れるもの(46・9)

の存在を強調しているといえる。

私はこの「鹿おどし」を、ニューヨークの大きな銀行の待合室で見たことがある。日本の古い文化がいろいろと紹介される中で、あの素朴な竹の響きが西洋人の心をひきつけたのかもしれない。だが、ニューヨークの銀行では人々はあまりに忙しすぎて、一つの音と次の音との長い間隔を聴くゆとりはなさそうであった。それよりも窓の外に噴き上げる華やかな噴水のほうが、ここでは水の芸術として明らかに人々の気持ちをつくろがせていた。

対照的な表現



鹿おどし 落柿舎保存会協力(アマナイメーجز提供)

鹿おどし

◎第二段(空間に静止する水)

でも、町の広場にはいたるところにみごとな噴水があった。ちよつと名のあがる庭園に行けば、噴水はさまざまな趣向を凝らして風景の中心になっている。有名なローマ郊外のエステ家の別荘など、何百という噴水の群れが庭をぎつ

流れる水と、噴き上げる水。対句的表現1

流れる水(鹿おどし)の水 || 自然な水
噴き上げる水(噴水)の水 || 人工的な水

3 エステ家 一三世紀中頃から一八世紀末にかけて、北イタリアで勢力を誇った封建貴族。

*語句

愛嬌 徒労 趣向

水の東西 45

◎脚注欄に掲げた語句は網掛けを施し、それぞれの語句の意味を掲載しています。



JTBフォト提供

エステ家の噴水



アマナイメーجز提供

日本庭園 (京都市・実光院)

時間的な水(「鹿おどし」の水) || 流れをせき止め、時を刻む水
 空間的な水(「噴水」の水) || 大きな水の造型
 音を立てて空間に静止している水

しりと埋めつくしていた。樹木も草花もここでは添え物にすぎず、**「噴水」** 壮大な水の造型がどろきながら林立しているのに私は息をのんだ。それは揺れ動くバロック彫刻さながらであり、ほとぼしるというよりは、**「はっと驚いて息をとめる。」** 音をたてて空間に静止しているように見えた。

時間的な水と、空間的な水。 対句的表現2

◎第三段(形なきものを恐れぬ心)

そういうことをふと考えさせるほど、日本の伝統の中に噴水というものは少ない。せ

日本庭園の作庭

せらぎを作り、滝をかけ、池を掘って水を見ることはあれほど好んだ日本人が、噴水の美だけは近代に至るまで忘れていた。伝統は恐ろしいもので現代の都会でも、日本の噴水はやはり西洋のものほど美しくない。そのせいか東京でも大阪でも、町の広場はどことなく間が抜けて、表情に乏しいのである。

西洋の空気は乾いていて、人々が噴き上げる水を求めたということもあるだろう。⁵ ローマ以来の水道の技術が、噴水を発達させるのに有利であったということも考えられる。だが、人工的な滝を作った日本人が、噴水を作らなかつた理由は、そういう外面的な事情ばかりではなかつたように思われる。日本人にとって水は自然に流れる姿が美しいのであり、圧縮したりねじ曲げたり、粘土のように造型する対象ではなかつたのである。

言うまでもなく、水にはそれ自体として定まった形はない。そうして、**「形がないとい**

5 ローマ以来の水道の技術 紀元前四世紀末から紀元後三世紀初めにかけて、古代ローマでは上水道や下水道が整備されており、高度な技術を誇っていたといわれている。

問 「そういう外面的な事情」とは何か。
 ・西洋に比べて湿度が高く、噴き上げる水を求めなかつたこと。
 ・水道の技術が、西洋ほど発達していなかつたこと。

*語句
 息をのむ

うことについて、おそらく日本人は西洋人と違った独特の好みをもっていたのである。

「行雲流水」という仏教的な言葉があるが、そういう思想はむしろ思想以前の感性に
よって裏づけられていた。それは外界に対する受動的な態度というよりは、積極的な、
直観的な心の動き。
形なきものを恐れぬ心の現れではなかっただろうか。

見えない水と、目に見える水。対句的表現3 ↓ 見えない水(鹿おどし)の水 Ⅱ 流れを感じる水
見る必要のない水5
もし、流れを感じることもだけが大切なのだとしたら、我々は水を実感するのにもはや
水を見る必要さえないといえる。ただ断続する音の響きを聞いて、その間隙に流れるも
目に見える水(噴水)の水 Ⅱ 趣向を凝らした風景の中心

の間隙に心で味わえばよい。そう考えればあの「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞す
る行為の極致を表す仕掛けだといえるかもしれない。
達することのできる最上のおもむき。

*語句
感性 間隙 極致

◆板書例

対句的表現

鹿おどし	噴水
第一段 流れる水	↑ ↓ 噴き上げる水
第二段 時間的な水	↑ ↓ 空間的な水
第三段 見えない水	↑ ↓ 目に見える水

第四段 鹿おどし Ⅱ 目で見ず、音の間隙に流れるものを心で味わう
日本人が水を見る行為の極致を表す仕掛け



山崎正和 一九三四(昭和九)年。劇作家・評論家。京都府の生まれ。人間を劇的存在と見る人間観をもとに広範な文明批評を展開している。戯曲に「世阿弥」、著書に『劇的な日本人』『鷗外 闘う家長』などがある。本文は『山崎正和著作集5 海の桃山記』による。(一九八一年・中央公論社)

学習の手引き

一 「鹿おどし」が「なんとなく人生のけだるさのようなもの」(44・1)を感じさせるのはなぜか、考えてみよう。

二 筆者は、「鹿おどし」と「噴水」とを、どのようなものとして捉えているか。本文中から対句的表現を三つ探し、それを手がかりにして整理してみよう。

三 「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けだといえるかもしれない(48・8)という理由を、本文の内容にそつてまとめてみよう。
「鹿おどし」の立てる音と音との間隙に、日本人は水や時間の流れを感じ取るが、「鹿おどし」は、水を形のないものとして捉え、形のない自然な水の流れを好む日本人の感性にぴったりと合った装置であるといえるから。

言葉と表現

この文章の構成や展開の特徴について指摘し、その効果について説明してみよう。

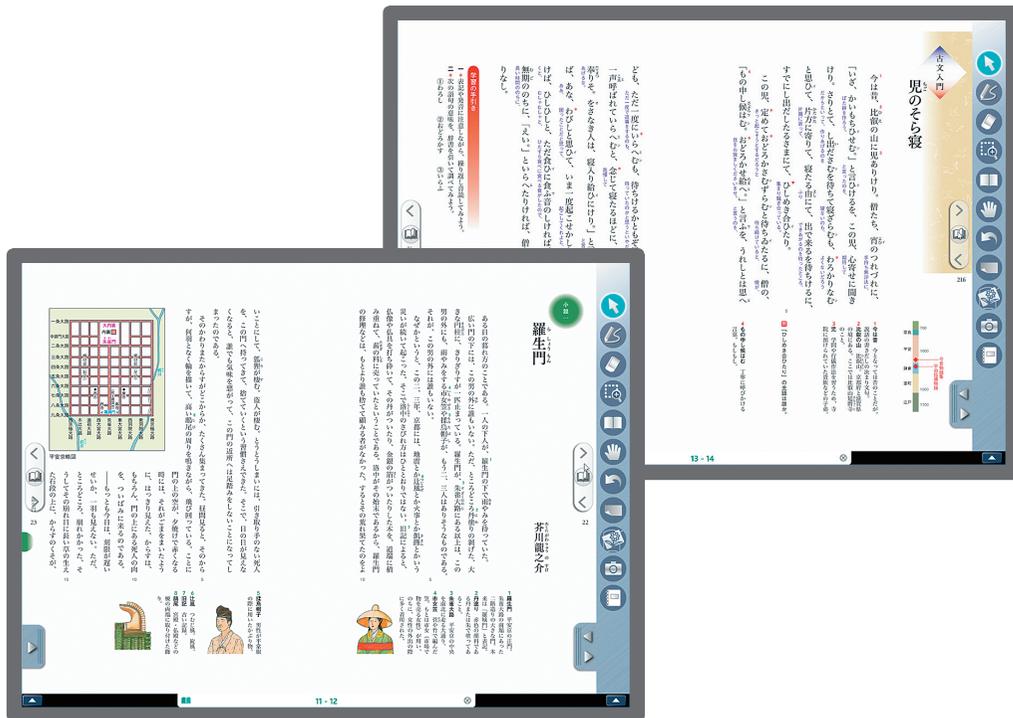
- 次の語の対義語を調べてみよう。
- ①緊張 ②静寂 ③無限 ④静止 ⑤複雑 ⑥洗練 ⑦理性
 - ⑤単純 ⑥素朴 ⑦感性

漢字

緩やか 44・6 徒勞 44・7 静寂 44・8 素朴 45・3 間隔 45・5
華やか 45・6 凝らす 45・14 大阪 47・8 乏しい 47・9 対象 47・14
鑑賞 48・8 極致 48・9
「鹿おどし」は、自然に流れる水そのものを感じさせると同時に時間をも感じさせ、形のないものを好む日本人に、水という形のないものを間接的に味わわせる装置として捉えている。
「噴水」は、水を人工的に空間に噴き上げさせることによって、西洋人に直接目に見える形で水を味わわせる装置として捉えている。

水の東西 49

指導者用デジタルテキスト 学習者用デジタルテキスト



主な機能

①教科書紙面をそのまま提示・拡大

教科書紙面をそのまま収録しました。重要箇所にもーカーを引くなど、紙面に自在に書き込むことができます。

※一部著作権の関係上掲載できない場合があります。

②フラッシュカード

歴史的仮名遣いや古典語彙などのフラッシュカードを搭載。古典の学習に活気を生み出します。

③オリジナル教材との連携

自作のパワーポイントやURLも、画面の上にリンクをはることができます。授業中はワンクリックで見たいコンテンツを提示できます。

④思考ツール

生徒の思考を深める思考ツールを搭載。種々の試行錯誤から生徒自身の気づきを促します。



CoNETS 版 デジタル教科書

三省堂は、CoNETS プラットフォームを通じて
デジタル教科書を提供してまいります。

動作環境（指導者用）

Windows 版 OS：Windows7 SP1、Windows8.1、Windows10（32bit/64bit 対応）
※ WindowsRT には対応していません。
CPU：Intel Core i3 以上推奨
メモリ：4GB 以上
ハードドライブ空き容量：2GB 以上（ビューア 1GB + 教材 1GB）
ディスプレイ：1024 × 768 ピクセル以上
TrueColor(32bit) ※ 1
ブラウザ：Internet Explorer 11
その他：.NET Framework 4.5 以降
Aero 設定：on ※ 1
※ 1 Windows7 の場合のみ

動作環境（学習者用）

Windows 版 OS：Windows8.1、Windows10（32bit/64bit 対応）
(Windowsストアアプリ) ※ WindowsRT には対応していません。
CPU：Intel Core i3 以上推奨
メモリ：4GB 以上
ハードドライブ空き容量：2GB 以上（ビューア 1GB + 教材 1GB）
ディスプレイ：1920 × 1080 ピクセル以上
ブラウザ：Internet Explorer 11
その他：.NET Framework 4.5 以降

iOS 版 OS：iOS8.1 以降
対応デバイス：iPad（第4世代以降）、iPad Air、iPad Air2
※ iPad mini には対応していません。
ストレージ空き容量：3GB 以上（ビューア 2GB + 教材 1GB）

※ 2016年9月現在

※機能や画面デザイン等は、製品版とは異なることがあります。

国語総合 指導書・教材のご案内

 = データまたは音声でのご提供です。  = 冊子でのご提供です。

指導書		高等学校国語総合		精選国語総合	明解国語総合
		現代文編	古典編		
セットで同梱	指導資料				
	発問例集				
	ワークシート (構成・内容理解、語句・漢字学習、古文品詞分解、漢文書き下し文、古典口語訳)				—
	ワークシート (学びの道しるべ、語句・漢字、本文語句、本文漢字、構成・内容理解、古文品詞分解、表現活動)	—	—	—	
	基本テスト				
	評価問題				
	実力問題				—
	補充教材				
	教科書原文				
	朗読 CD				
	漢文エディタ	—			
	学習課題ノート				
教師用教科書					
本体価格(予価)	¥15,000	¥11,000	¥25,000	¥24,000	

※「発問例集」の内容は「指導資料」にも含まれています。
 ※「高等学校国語総合」は「現代文編」「古典編」で別売になります。

指導書別売品

教師用教科書	 ¥3,000	 ¥3,000	 ¥5,000	 ¥5,000
--------	--	--	---	--

※指導書セットの「教師用教科書」と内容は同じです。

指導資料 PDF 版	 ¥5,000	 ¥5,000	 ¥5,000
------------	--	---	--

※指導書セットの「指導資料」の紙面を PDF ファイルにしたものです。
 ※「高等学校国語総合」は「現代文編」「古典編」が一つになっています。

生徒用教材(採用品)

学習課題ノート	 ¥500	 ¥500	 ¥600	 ¥600
---------	--	--	---	--

デジタルテキスト

指導者用デジタルテキスト				
学習者用デジタルテキスト				

※指導書・教材類は現在編集中のため、内容・仕様等については変更する場合があります。
 ※価格はいずれも本体価格(予価)です。